

羽黒下遺跡

— 小湊浜地区防災集団移転促進事業に係る発掘調査報告書 —

(第 1 分冊 本文編)

令和 3 年 3 月
石巻市教育委員会

羽黒下遺跡

— 小渕浜地区防災集団移転促進事業に係る発掘調査報告書 —

(第1分冊 本文編)

発刊のことば

東日本大震災から10年が経ち、最大の被災地である本市は、世界の復興モデル都市となるべく、復興の途を歩み続けてまいりました。市民の暮らしの再生を図るためにも、長い歴史の中で先人たちが築き上げてきた伝統や文化を再認識し、継承していくことが不可欠であると考えます。

本書は、平成26年度の小湊浜地区防災集団移転宅地造成に伴う工事に先立ち実施した、羽黒下遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

羽黒下遺跡は、宮城県沿岸部の牡鹿半島中部に位置し、仙台湾に面した舌状丘陵に立地する集落遺跡で、これまで発掘調査は行われておりませんでした。今回の調査では、縄文時代の竪穴遺構や遺物包含層が見つかり、縄文時代前期から中期にかけての土器や石器をはじめとした多くの遺物が出土しています。古代以降には、掘立柱建物跡や火葬施設と考えられる土坑が確認されるなど、本市では類例の少ない時期の貴重な資料が蓄積され、当時の牡鹿半島に住む人々の生活の様相を知る多大な成果を得ることができました。これらの調査結果が、牡鹿半島のみならず石巻市域を含めた、より広い地域の皆様に活用され、地域の歴史解明の一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し、作業員として参加いただいた多くの地元住民の皆様をはじめ、被災地への応援として全国から派遣された専門職員や宮城県文化財課職員、そして関係機関の皆様より多大なる御支援、御協力を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

令和3年3月

石巻市教育委員会
教育長 境 直彦

例　　言

- 本書は、石巻市震災復興部、石巻市教育委員会、宮城県教育委員会の協議に基づいて実施した、東日本大震災復興事業 石巻市防災集団移転促進事業（小淵沢地区防災集団移転宅地造成工事）に伴う、羽黒下遺跡の発掘調査成果を取りまとめた発掘調査報告書である。
- 発掘調査および整理作業は、石巻市教育委員会が主体となり、宮城県教育委員会の協力・指導を得て実施した。
- 調査は、石巻市教育委員会生涯学習課、宮城県教育庁文化財保護課（当時）が担当した。なお、震災復興事業に伴う発掘調査および報告書作成のための整理作業に当たっては、地方自治法に基づき、全国自治体からの宮城県派遣職員の支援・協力を得た。

佐藤佳奈（石巻市教育委員会）・西岡誠司（神戸市派遣）

佐藤則之・西村力・遠藤則靖・傅田惠隆（宮城県教育委員会）

伊藤智樹（千葉県派遣）・岩崎仁志（山口県派遣）・潮田憲幸（新潟市派遣）

大本朋弥（兵庫県派遣）・須田正久（群馬県派遣）・谷和隆・廣田和穂（長野県派遣）

西田昌弘（石川県派遣）・守岡正司（島根県派遣）

- 本書の整理作業は、一部を平成 27 年度から開始し、平成 28 年度～令和 2 年度にかけて実施した。遺構は、各担当者が作成した記録に基づいて、佐藤佳奈・傅田惠隆が編集した。遺物の整理作業のうち、縄文土器・土製品・陶磁器・鉄製品に関しては佐藤、石器・石製品は傅田、自然遺物は西村力が実施した。これらの遺物整理・図版作成の補助として、平成 28 年度 NTT ソルコ & 北海道テレマート株式会社東北支店からの派遣作業員、平成 29 年度キャリアバンク株式会社からの派遣作業員、平成 30 年度以降は、鈴木和佳子、山田佳世子（平成 30 年度のみ）、佐々木里子（平成 30 年度のみ）、加納恵子、宇都宮歩が入っている。
- 本書の執筆分担は以下の通りである。

佐藤：第 1 章、第 2 章、第 3 章、第 4 章（遺物包含層・縄文土器・土製品・陶磁器・土師器・鉄関係）、第 6 章第 1 節・第 6 節

傅田：第 3 章、第 4 章（石器・石製品）、第 6 章第 2 節・第 4 節

佐藤・傅田：第 6 章第 5 節

西村：第 6 章第 3 節

これらの編集にあたっては、鈴木和佳子、加納恵子、宇都宮歩が補助にあたっている。

- 発掘調査および資料整理・報告書の作成に際しては、以下の方々、および機関からご指導・ご協力を賜った（五十音順、敬称略）

相原淳一 阿部明彦 大場亞弥 鹿又喜隆 苫野智則 佐藤敏幸 重森直人 菅原哲文

菅原弘樹 鈴木雅 妹尾一樹 田村正樹 早瀬亮介 山田しょう

復興庁 文化庁 東北歴史博物館

7. 発掘調査作業員の派遣については、株式会社インテリジェンスに委託して実施した。
8. 本書の図版 1 および 2 は、国土交通省国土地理院発行の数値地図 250000 (地図画像)『石巻』『女川』『出島』『萩浜』『寄磯』『網地島』『金華山』を使用した。
9. 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標 X 系による。調査区の測量原点については、第 2 章第 2 節に示した。なお、方位 N は座標北を示している。
10. 本書で使用した遺構略号は、以下の通りである。
- SB : 挖立柱建物跡 SI : 穴道遺構 SK : 土坑 SL : 炉跡
SU : 遺物集中 SX : 遺物包含層 P : 柱穴、小穴
11. 遺構図版にはそれぞれスケールを付しているが、原則として平面図の縮尺は 1/500・1/250・1/100・1/40・1/20、断面図の縮尺は 1/100・1/40・1/20 を使用している。
12. 土色の記述にあたっては、『新版 標準土色帖 1997 年版』(小山正忠・竹原秀雄 1997 日本文研事業株式会社)を用いている。
13. 繩文土器・土製品の縮尺は、実測図・写真図版とともに原則として 1/3 とし、それ以外のものについては縮尺数値を付している。
14. 石器・石製品の縮尺は、実測図・写真図版とともに原則として 1/3 とし、磨石・砥石・石皿・敲石は 1/3 (大型品は 1/6)、剥片石器・打製石斧・磨製石斧・礫器・石製品・その他の礫石器は 2/3 で掲載している。
15. 羽口・土師器・陶磁器・楕形壺の縮尺は、実測図・写真図版とともに 1/3、鉄製品は 2/3、貨幣は 1/1 で掲載している。
16. 石器・石製品の実測図で磨面の範囲は K=100% の不透明度 20%、被熱範囲は K=100% の不透明度 50%、付着物がみられる範囲は K=100% の不透明度 70% で表現した。
17. 石器・石製品の観察表で、「被熱」「自然面」「付着物」の各項目における「0」は「なし」を意味し、「-」は「判別不能」を意味する。また、「被熱」「自然面」の各項目においては痕跡のあるものを「1」とした。
18. 土器の実測図で摩滅や剥落している範囲を ■■■ で表現した。
19. 平面図において塗跡は、K=20% で表現した。
20. SK18 の焼土範囲については、K=60% で表現した。
21. SK19 の被熱範囲については、■■■ で表現した。
22. 平面図で推定輪郭線を - - - で表現した。
23. 現地調査の測量支援については、平成 26 年度に株式会社イビソク仙台支店、平成 27 年度に株式会社三協技術に委託して実施した。
24. 遺物の洗浄については、平成 27 年度に株式会社三協技術、洗浄、注記、接合、復元については平成 28 年度に株式会社イビソク仙台支店に委託して実施した。
25. 遺構の図版作成については、平成 28 年度に株式会社イビソク仙台支店に委託して実施した。
26. 土器・土製品の実測図、拓本、写真撮影は、平成 30・31 年度に株式会社イビソク仙台支店に

委託して実施した。

27. 土器・土製品の実測図は、PEAKIT 画像の作成・写真撮影を平成 30 年度に株式会社ラングに委託して実施した。PEAKIT 画像を下図にしてデジタルトレースした実測図を掲載しているものが多いが、地文が複雑なものについては、外形をトレースし、PEAKIT 画像を埋め込み掲載した。
28. 石器・石製品の実測、トレース、写真撮影は平成 29・30 年度株式会社ラングに委託して実施した。
29. 出土遺物の写真撮影については、株式会社アートプロフィールに委託して実施した。
30. 自然科学分析について、それぞれ以下の機関に委託・依頼し、成果を本書に収録した（敬称略）。
 - ・火山灰分析 : 株式会社火山灰考古学研究所 第 5 章第 1 節
 - ・放射性炭素年代 AMS 測定) および炭素・窒素安定同位体分析 : 株式会社加速器分析研究所 第 5 章第 2 節
 - ・出土焼骨の分析 : 新潟医療福祉大学 澤田純明・佐伯史子 第 5 章第 3 節
 - ・土壤分析・火山灰分析: 東北大学 菅野均志・宮本毅・広井良美
第 5 章第 4 節・第 5 節
31. 当遺跡の調査成果については、現地説明会や宮城県遺跡調査成果発表会などで、その内容を一部公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合については、本書がこれらに優先する。
32. 発掘調査の記録類や出土遺物は、石巻市教育委員会が保管している。

調査要項

遺跡名：羽黒下遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号 No.74007）

所在地：石巻市給分浜字羽黒下

調査原因：小湊浜地区防災集団移転事業にかかる発掘調査

調査主体：石巻市教育委員会

調査担当：石巻市教育委員会生涯学習課

調査協力：宮城県教育庁文化財保護課（当時）

調査員：

（平成 26 年度）佐藤佳奈（石巻市教育委員会）

佐藤則之・西村力・傅田惠隆（宮城県教育委員会）

潮田憲幸（新潟市派遣）・谷和隆（長野県派遣）

西田昌弘（石川県派遣）・守岡正司（島根県派遣）

（平成 27 年度）西岡誠司（神戸市派遣）・佐藤佳奈（石巻市教育委員会）

遠藤則靖・傅田惠隆（宮城県教育委員会）

伊藤智樹（千葉県派遣）・岩崎仁志（山口県派遣）・潮田憲幸（新潟市派遣）

大本朋弥（兵庫県派遣）・須田正久（群馬県派遣）・廣田和穂（長野県派遣）

調査期間：平成 26 年 11 月 4 日～平成 27 年 3 月 27 日、平成 27 年 4 月 6 日～11 月 13 日

調査面積：9,113m²

目 次

卷頭写真

発刊のことば

例 言

調査要項

目 次

第1章 遺跡の概要	1
第1節 遺跡の位置と自然環境	1
第2節 歴史的環境	5
第2章 調査に至る経過と調査方法	7
第1節 調査に至る経緯	7
第2節 調査の方法と経過	7
(1) 調査の方法と経過	7
(2) 整理作業の方法と経過	9
第3章 調査成果の概要	11
第1節 調査区の地形と遺構の分布	11
第2節 基本層序	11
第4章 発見された遺構と遺物	15
第1節 縄文時代	21
1. 遺物包含層と出土遺物	21
【SX1 遺物包含層】	21
(1) 堆積状況と分布範囲	21
(2) SX1 出土土器	29
(3) SX1 出土土製品	32
(4) SX1 出土石器・石製品	32
【SX2 遺物包含層】	152
(1) 堆積状況と分布範囲	152
(2) SX2 出土土器	152
(3) SX2 出土土製品	154
(4) SX2 出土石器・石製品	154

【SX3 遺物包含層】	163
(1) 堆積状況と分布範囲	163
(2) SX3 出土土器	163
(3) SX3 出土土製品	166
(4) SX3 出土石器・石製品	166
2. 遺構と出土遺物	187
(1) 積穴遺構	187
(2) 土坑	196
(3) 炉跡	197
(4) 柱穴群	198
3. 繩文時代のその他の出土遺物	202
(1) 出土土器	202
(2) 出土石器・石製品	202
第2節 古代以降	213
1. 遺構と出土遺物	213
(1) 掘立柱建物跡	213
(2) 土坑	213
(3) 炉跡	225
(4) 溝跡	228
(5) 柱穴群	228
2. 古代以降のその他の出土遺物	229
 第5章 自然科学分析	237
第1節 火山灰分析（1）	237
(1) はじめに	237
(2) 土層の層序	237
(3) テフラ検出分析	239
(4) 火山ガラス比分析	242
(5) 屈折率測定（火山ガラス）	244
(6) 火山ガラスの EPMA 分析（主成分化学組成分析）	245
(7) 考察	245
(8) まとめ	246
第2節 放射性炭素年代測定（AMS 測定）	249
(1) 測定対象試料	249
(2) 化学処理工程	249
(3) 測定方法	249

(4) 算出方法	249
(5) 測定結果	250
第3節 羽黒下遺跡から出土した焼骨について	253
(1) はじめに	253
(2) 焼骨の所見	253
(3) 焼成状況の推定	257
(4)まとめ	257
第4節 土壤試料の全炭素および全窒素分析	259
(1) 測定の意義	259
(2) 測定対象試料	259
(3) 測定結果	259
第5節 火山灰分析（2）	261
(1) 測定対象試料	261
(2) 測定結果	261
第6章 総括	262
第1節 土器・土製品	264
(1) 出土土器の分類	264
(2) 遺物包含層出土土器	285
(3) 類例とその年代	291
(4) 遺物包含層の各細別層にみられる土器の編年的位置づけ	292
(5) 遺物包含層の時期について	293
(6) 他地域から搬入された土器	294
(7) 土製品	295
第2節 石器・石製品	297
(1) 出土石器・石製品の分類	297
(2) 剥片石器の製作・使用	322
(3) 打製石斧	333
(4) 碾器	334
(5) 磨製石斧	336
(6) 碾石器	337
(7) 石製品	340
(8) 石材の利用	346
(9) 石器組成	350
(10) 遺跡内の出土状況	351

第3節 動物遺存体	354
(1) 試料	354
(2) 同定結果	354
(3) 動物遺存体の構成と生業活動	355
第4節 縄文時代の遺構	360
(1) 遺構の特徴と年代	360
(2) 包含層の特徴と形成について	361
(3) 羽黒下遺跡にみられる各時期の様相	362
(4) 他遺跡との関係性	365
第5節 古代以降	369
(1) 遺物の特徴と年代	370
(2) 遺構の特徴と年代	370
(3) 古代末から中世前半における本遺跡の位置づけ	371
第6節 まとめ	373

引用・参考文献

報告書抄録

図 目次

	図版 37 SX1 出土土器 (21).....	58
	図版 38 SX1 出土土器 (22).....	59
図版 1	羽黒下遺跡の位置.....	1
図版 2	遺跡の位置と周辺の遺跡.....	2
図版 3	羽黒下遺跡周辺の地形と遺跡.....	4
図版 4	遺跡の範囲と調査区.....	10
図版 5	遺跡の地形と基本層序.....	12
図版 6	遺構全体図.....	13・14
図版 7	遺構配置区割り図 (S=1/1000).....	15
図版 8	遺構配置図 (1).....	16
図版 9	遺構配置図 (2).....	17
図版 10	遺構配置図 (3).....	18
図版 11	遺構配置図 (4).....	19
図版 12	遺構配置図 (5).....	20
図版 13	SX1 遺物包含層平面図.....	23・24
図版 14	SX1 遺物包含層断面図.....	25・26
図版 15	SX1 遺物包含層各層の平面図 (1).....	27
図版 16	SX1 遺物包含層各層の平面図 (2).....	28
図版 17	SX1 出土土器 (1).....	38
図版 18	SX1 出土土器 (2).....	39
図版 19	SX1 出土土器 (3).....	40
図版 20	SX1 出土土器 (4).....	41
図版 21	SX1 出土土器 (5).....	42
図版 22	SX1 出土土器 (6).....	43
図版 23	SX1 出土土器 (7).....	44
図版 24	SX1 出土土器 (8).....	45
図版 25	SX1 出土土器 (9).....	46
図版 26	SX1 出土土器 (10).....	47
図版 27	SX1 出土土器 (11).....	48
図版 28	SX1 出土土器 (12).....	49
図版 29	SX1 出土土器 (13).....	50
図版 30	SX1 出土土器 (14).....	51
図版 31	SX1 出土土器 (15).....	52
図版 32	SX1 出土土器 (16).....	53
図版 33	SX1 出土土器 (17).....	54
図版 34	SX1 出土土器 (18).....	55
図版 35	SX1 出土土器 (19).....	56
図版 36	SX1 出土土器 (20).....	57
	図版 39 SX1 出土土器 (23).....	60
	図版 40 SX1 出土土器 (24).....	61
	図版 41 SX1 出土土器 (25).....	62
	図版 42 SX1 出土土器 (26).....	63
	図版 43 SX1 出土土器 (27).....	64
	図版 44 SX1 出土土器 (28).....	65
	図版 45 SX1 出土土器 (29).....	66
	図版 46 SX1 出土土器 (30).....	67
	図版 47 SX1 出土土器 (31).....	68
	図版 48 SX1 出土土器 (32).....	69
	図版 49 SX1 出土土器 (33).....	70
	図版 50 SX1 出土土器 (34).....	71
	図版 51 SX1 出土土器 (35).....	72
	図版 52 SX1 出土土器 (36).....	73
	図版 53 SX1 出土土器 (37).....	74
	図版 54 SX1 出土土器 (38).....	75
	図版 55 SX1 出土土器 (39).....	76
	図版 56 SX1 出土土器 (40).....	77
	図版 57 SX1 出土土器 (41).....	78
	図版 58 SX1 出土土器 (42).....	79
	図版 59 SX1 出土土器 (43).....	80
	図版 60 SX1 出土土器 (44).....	81
	図版 61 SX1 出土土器 (45).....	82
	図版 62 SX1 出土土器 (46).....	83
	図版 63 SX1 出土土器 (47).....	84
	図版 64 SX1 出土土器 (48).....	85
	図版 65 SX1 出土土器 (49).....	86
	図版 66 SX1 出土土器 (50).....	87
	図版 67 SX1 出土土器 (51).....	88
	図版 68 SX1 出土土製品.....	89
	図版 69 SX1 出土石器・石製品 (1).....	90
	図版 70 SX1 出土石器・石製品 (2).....	91
	図版 71 SX1 出土石器・石製品 (3).....	92
	図版 72 SX1 出土石器・石製品 (4).....	93
	図版 73 SX1 出土石器・石製品 (5).....	94
	図版 74 SX1 出土石器・石製品 (6).....	95

图版 75	SX1 出土石器・石製品 (7).....	96	图版 113	SX1 出土石器・石製品 (45).....	134
图版 76	SX1 出土石器・石製品 (8).....	97	图版 114	SX1 出土石器・石製品 (46).....	135
图版 77	SX1 出土石器・石製品 (9).....	98	图版 115	SX2 遗物包含層平面圖.....	153
图版 78	SX1 出土石器・石製品 (10).....	99	图版 116	SX2 遗物包含層斷面圖.....	155・156
图版 79	SX1 出土石器・石製品 (11).....	100	图版 117	SX2 出土土器 (1).....	157
图版 80	SX1 出土石器・石製品 (12).....	101	图版 118	SX2 出土土器 (2)・土製品.....	158
图版 81	SX1 出土石器・石製品 (13).....	102	图版 119	SX2 出土石器・石製品 (1).....	159
图版 82	SX1 出土石器・石製品 (14).....	103	图版 120	SX2 出土石器・石製品 (2).....	160
图版 83	SX1 出土石器・石製品 (15).....	104	图版 121	SX3 遗物包含層平面圖・斷面圖.....	164
图版 84	SX1 出土石器・石製品 (16).....	105	图版 122	SX3 出土土器 (1).....	168
图版 85	SX1 出土石器・石製品 (17).....	106	图版 123	SX3 出土土器 (2).....	169
图版 86	SX1 出土石器・石製品 (18).....	107	图版 124	SX3 出土土器 (3).....	170
图版 87	SX1 出土石器・石製品 (19).....	108	图版 125	SX3 出土土器 (4).....	171
图版 88	SX1 出土石器・石製品 (20).....	109	图版 126	SX3 出土土器 (5).....	172
图版 89	SX1 出土石器・石製品 (21).....	110	图版 127	SX3 出土土器 (6).....	173
图版 90	SX1 出土石器・石製品 (22).....	111	图版 128	SX3 出土土器 (7).....	174
图版 91	SX1 出土石器・石製品 (23).....	112	图版 129	SX3 出土土器 (8).....	175
图版 92	SX1 出土石器・石製品 (24).....	113	图版 130	SX3 出土土器 (9).....	176
图版 93	SX1 出土石器・石製品 (25).....	114	图版 131	SX3 出土土器 (10).....	177
图版 94	SX1 出土石器・石製品 (26).....	115	图版 132	SX3 出土土器 (11).....	178
图版 95	SX1 出土石器・石製品 (27).....	116	图版 133	SX3 出土土器 (12)・土製品.....	179
图版 96	SX1 出土石器・石製品 (28).....	117	图版 134	SX3 出土石器・石製品 (1).....	180
图版 97	SX1 出土石器・石製品 (29).....	118	图版 135	SX3 出土石器・石製品 (2).....	181
图版 98	SX1 出土石器・石製品 (30).....	119	图版 136	SX3 出土石器・石製品 (3).....	182
图版 99	SX1 出土石器・石製品 (31).....	120	图版 137	SX3 出土石器・石製品 (4).....	183
图版 100	SX1 出土石器・石製品 (32).....	121	图版 138	SI9 穹穴遺構.....	188
图版 101	SX1 出土石器・石製品 (33).....	122	图版 139	SI9 出土遺物.....	189
图版 102	SX1 出土石器・石製品 (34).....	123	图版 140	SI138 穹穴遺構.....	190
图版 103	SX1 出土石器・石製品 (35).....	124	图版 141	SI211 穹穴遺構 (1).....	191
图版 104	SX1 出土石器・石製品 (36).....	125	图版 142	SI211 穹穴遺構 (2).....	192
图版 105	SX1 出土石器・石製品 (37).....	126	图版 143	SI211 出土遺物.....	192
图版 106	SX1 出土石器・石製品 (38).....	127	图版 144	SI217 穹穴遺構 (1).....	193
图版 107	SX1 出土石器・石製品 (39).....	128	图版 145	SI217 穹穴遺構 (2).....	194
图版 108	SX1 出土石器・石製品 (40).....	129	图版 146	SI217 出土遺物.....	194
图版 109	SX1 出土石器・石製品 (41).....	130	图版 147	SK231 土坑と出土遺物.....	195
图版 110	SX1 出土石器・石製品 (42).....	131	图版 148	SK234 土坑.....	197
图版 111	SX1 出土石器・石製品 (43).....	132	图版 149	SL160 土器埋設跡.....	199
图版 112	SX1 出土石器・石製品 (44).....	133	图版 150	SL160 出土土器.....	199

図版 151 妙跡出土土器	200	図版 181 I区 SX1・Z26 南北トレンチ東壁 (⑤地点)	
図版 152 妙跡出土土器	201	の土層柱状図	238
図版 153 縄文時代のその他の出土土器	203	図版 182 I区 SX1・AA29 (⑥地点)	
図版 154 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品 (1)	204	の土層柱状図	238
図版 155 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品 (2)	205	図版 183 I区 SX1・AC21 南北ベルト西壁 (④地点)	
図版 156 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品 (3)	206	の土層柱状図	240
図版 157 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品 (4)	207	図版 184 II区 SX2 西壁 (②・③地点)	
図版 158 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品 (5)	208	の土層柱状図	241
図版 159 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品 (6)	209	図版 186 火山ガラス比ダイヤグラム	243
図版 160 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品 (7)	210	図版 187 分析試料の顕微鏡写真 (透過光)	248
図版 161 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品 (8)	211	図版 188 暦年較正年代グラフ (参考)	252
図版 162 SB248 挖立柱建物跡 (1)	214	図版 189 SK19 から出土した焼成人骨	254
図版 163 SB248 挖立柱建物跡 (2)	215	図版 190 SK19 (25 ~ 55)・SK78 (56 ~ 59)	
図版 164 SB248 挖立柱建物跡 (3)	216	から出土した焼成人骨	255
図版 165 SK18 土坑と出土遺物	217	図版 191 羽黒下II区西壁および既知の火山ガラス試料 におけるSiO ₂ とK2Oの関係	261
図版 166 SK19 土坑	218	図版 192 抽出土器の構造	262
図版 167 SK37 土坑	219	図版 193 SX1 時期検討対象範囲	263
図版 168 SK37 出土遺物	220	図版 194 器形・装飾分類図 (1)	272
図版 169 SK78 土坑	221	図版 195 器形・装飾分類図 (2)	273
図版 170 SK123 土坑	221	図版 196 器形・装飾分類図 (3)	274
図版 171 SK123 出土遺物	222	図版 197 器形・装飾分類図 (4)	275
図版 172 SK190・SK191 土坑	223	図版 198 器形・装飾分類図 (5)	276
図版 173 I区ピット群	226	図版 199 器形・装飾分類図 (6)	277
図版 174 柱痕跡が確認されたピットの断面	227	図版 200 器形・装飾分類図 (7)	278
図版 175 溝跡・ピット出土遺物	228	図版 201 器形・装飾分類図 (8)	279
図版 176 古代以降のその他の出土遺物 (1)	230	図版 202 器形・装飾分類図 (9)	280
図版 177 古代以降のその他の出土遺物 (2)	231	図版 203 器形・装飾分類図 (10)	281
図版 178 古代以降のその他の出土遺物 (3)	232	図版 204 器形・装飾分類図 (11)	282
図版 179 古代以降のその他の出土遺物 (4)	233	図版 205 器形・装飾分類図 (12)	283
図版 180 古代以降のその他の出土遺物 (5)	234	図版 206 SX1 まとまりのある装飾類型	290
		図版 207 石器・石製品の分類基準図 (1)	304
		図版 208 石器・石製品の分類基準図 (2)	305
		図版 209 石器・石製品の分類基準図 (3)	306
		図版 210 石器・石製品の分類基準図 (4)	307
		図版 211 石器・石製品の分類基準図 (5)	308

図版 212 石器・石製品の分類基準図（6）	309	平面分布状況	369
図版 213 石器・石製品の分類基準図（7）	310		
図版 214 石器・石製品の分類基準図（8）	311		
図版 215 石礫の残存状況	323		
図版 216 石礫の大きさ・形状	324	表 1 遺跡地名表（番号は図版 2 に対応）	3
図版 217 石礫の類型別 TCSA 値	325	表 2 SX1 遺物包含層土層注記	22
図版 218 石礫の時期別 TCSA 分類の出現頻度	326	表 3 SX1 出土土器観察表（1）	136
図版 219 尖頭器の大きさ・形状	328	表 4 SX1 出土土器観察表（2）	137
図版 220 石錐の大きさ・形状	330	表 5 SX1 出土土器観察表（3）	138
図版 221 石匙の大きさ・形状	331	表 6 SX1 出土土器観察表（4）	139
図版 222 篦状石器の大きさ・形状	332	表 7 SX1 出土土器観察表（5）	140
図版 223 打製石斧の重量	334	表 8 SX1 出土土器観察表（6）	141
図版 224 打製石斧の大きさ・形状	334	表 9 SX1 出土土器観察表（7）	142
図版 225 破器の大きさ・形状	335	表 10 SX1 出土土器観察表（8）	143
図版 226 破器の重量	335	表 11 SX1 出土土器観察表（9）	144
図版 227 打製石斧・破器の大きさ	335	表 12 SX1 出土土製品観察表（10）	145
図版 228 打製石斧・破器の重量	335	表 13 SX1 出土石器・石製品観察表（1）	146
図版 229 磨製石斧の大きさ	336	表 14 SX1 出土石器・石製品観察表（2）	147
図版 230 磨石・敲石類形状特性	338	表 15 SX1 出土石器・石製品観察表（3）	148
図版 231 磨石・台石類の類型別の重量	339	表 16 SX1 出土石器・石製品観察表（4）	149
図版 232 磨石・台石類の時期別出現頻度	339	表 17 SX1 出土石器・石製品観察表（5）	150
図版 233 石錐の大きさ・形状	341	表 18 SX1 出土石器・石製品観察表（6）	151
図版 234 石錐の重量	341	表 19 SX2 遺物包含層土層注記	154
図版 235 扇平円形状石製品の最大厚	343	表 20 SX2 出土土器・土製品観察表	161
図版 236 男根状石製品の大きさ・形状	344	表 21 SX2 出土石器・石製品観察表	162
図版 237 時期別の石材利用（Ⅲ c 層）	347	表 22 SX3 遺物包含層土層注記	165
図版 238 時期別の石材利用（Ⅲ b 層）	347	表 23 SX3 出土土器・土製品観察表（1）	184
図版 239 時期別の石材利用（Ⅲ a 層）	348	表 24 SX3 出土土器・土製品観察表（2）	185
図版 240 粘板岩の利用状況	349	表 25 SX3 出土石器・石製品観察表	186
図版 241 羽黒下遺跡の石器組成	351	表 26 SI9 出土土器観察表	189
図版 242 石器・石製品の出土状況（1）	352	表 27 SI9 出土石器観察表	189
図版 243 石器・石製品の出土状況（2）	353	表 28 SI211 出土土器観察表	192
図版 244 出土魚類・哺乳類	357	表 29 SI211 出土石器観察表	192
図版 245 大木 1 ~ 2a 式期	363	表 30 SI217 出土土器観察表	194
図版 246 大木 4 ~ 6 式期	364	表 31 SK231 出土土器観察表	195
図版 247 羽黒下遺跡と中沢遺跡にみられる 土器型式別の遺構・遺物	366	表 32 SK231 出土石器観察表	195
図版 248 古代末~中世前半の遺構・遺物		表 33 土坑一覧	197
		表 34 SL160 出土土器観察表	199

表 目次

表 35 地床炉一覧	200	表 67 石器・石製品の類型別出現頻度（2）	300
表 36 炉跡出土土器觀察表	200	表 68 石器・石製品の類型別出現頻度（3）	301
表 37 炉跡出土石器觀察表	201	表 69 石器・石製品の類型別出現頻度（4）	302
表 38 總文時代のその他の出土土器觀察表	212	表 70 石器・石製品の器種別石材組成	303
表 39 總文時代のその他の出土石器・ 石製品觀察表	212	表 71 石籠のSX1 包含層の類型別出現頻度	323
表 40 SK18 出土鐵鍊觀察表	217	表 72 石籠の類型別石材組成	323
表 41 SK37 出土陶磁器・羽口觀察表	220	表 73 石籠の時期別出現頻度	326
表 42 SK37 出土橢型洋觀察表	220	表 74 石籠の時期別加工調整出現頻度	326
表 43 SK123 出土陶磁器觀察表	222	表 75 石籠の時期別 TCSA 値	326
表 44 土坑一覧	223	表 76 尖頭器の類型別石材組成	328
表 45 地床炉一覧	225	表 77 尖頭器の残存状況	328
表 46 溝跡一覧	225	表 78 尖頭器のTCSA 値	329
表 47 溝跡・ピット出土遺物觀察表	228	表 79 尖頭器の時期別出現頻度	329
表 48 古代以降のその他の出土遺物觀察表（1）	235	表 80 石籠の類型別石材組成	330
表 49 古代以降のその他の出土遺物觀察表（2）	236	表 81 石籠の残存状況	330
表 50 古代以降のその他の出土遺物觀察表（3）	236	表 82 石籠の時期別出現頻度	330
表 51 テフラ検出分析結果	242	表 83 石匙の類型別石材組成	331
表 52 火山ガラス比分析結果	243	表 84 石匙の残存状況	331
表 53 屈折率測定結果	244	表 85 石匙の加工調整出現頻度	331
表 54 羽黒下遺跡テフラ試料に含まれる 火山ガラスの主成分化學組成	245	表 86 石匙の時期別出現頻度	331
表 55 羽黒下遺跡テフラ試料と約3万年以降の指標 テフラに含まれる火山ガラスの主成分化學組成	246	表 87 石匙の時期別加工調整出現頻度	331
表 56 放射性炭素年代測定結果（ $\delta^{13}\text{C}$ 補正値）	251	表 88 篦状石器の石材組成	332
表 57 放射性炭素年代測定結果（ $\delta^{13}\text{C}$ 未補正値、 曆年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）	251	表 89 篦状石器の残存状況	332
表 58 SK19 から出土した焼成人骨	256	表 90 打製石斧の石材組成	334
表 59 SK78 から出土した焼成人骨	257	表 91 打製石斧の残存状況	334
表 60 土壌試料（2015年7月採取）の全炭素 および全窒素	260	表 92 打製石斧の素材形狀	334
表 61 器形・裝飾分類組み合わせ	271	表 93 打製石斧の時期別出現頻度	334
表 62 分類対象土器点数表	284	表 94 磨器の石材組成	335
表 63 時期検討対象土器点数表	284	表 95 磨製石斧の類型別石材組成	336
表 64 石器の層別器種組成	297	表 96 磨製石斧の類型別残存状況	336
表 65 石製品の層別器種組成	298	表 97 磨製石斧の時期別出現頻度	336
表 66 石器・石製品の類型別出現頻度（1）	299	表 98 磨石・台石類の類型別石材組成	339
		表 99 磨石・台石類の類型別の残存状況	339
		表 100 石皿・台石類の石材組成	340
		表 101 石皿・台石類の時期別出現頻度	340
		表 102 石錐の石材組成	341
		表 103 石錐の時期別出現頻度	341
		表 104 窍状耳飾の石材組成	342

表 105 塊状耳飾の残存状況	342	図版 22 SX1 出土土器 (14)	22
表 106 扁平円形状石製品の時期別出現頻度	343	図版 23 SX1 出土土器 (15)	23
表 107 男根状石製品の石材と時期別出現頻度	344	図版 24 SX1 出土土器 (16)	24
表 108 石棒・石劍類の石材組成	345	図版 25 SX1 出土土器 (17)	25
表 109 石棒・石劍類の残存状況	345	図版 26 SX1 出土土器 (18)	26
表 110 石棒・石劍類の時期別出現頻度	345	図版 27 SX1 出土土器 (19)	27
表 111 線刻縦の残存状況	346	図版 28 SX1 出土土器 (20)	28
表 112 中沢遺跡の石材利用	348	図版 29 SX1 出土土器 (21)	29
表 113 動物遺存体資料のサンプル数	358	図版 30 SX1 出土土器 (22)	30
表 114 魚類・獸鳥類部位出土状況 (1)	358	図版 31 SX1 出土土器 (23)	31
表 115 魚類・獸鳥類部位出土状況 (2)	359	図版 32 SX1 出土土器 (24)	32
表 116 羽墨下遺跡と中沢遺跡の時期ごとの関係性	367	図版 33 SX1 出土土器 (25)	33
		図版 34 SX1 出土土器 (26)	34
		図版 35 SX1 出土土器 (27)	35
		図版 36 SX1 出土土器 (28)	36

第2分冊 写真図版編 目次

図版 1 遺跡全景	1	図版 37 SX1 出土土器 (29)	37
図版 2 遺構	2	図版 38 SX1 出土土器 (30)	38
図版 3 SX1 遺物包含層全景・断面	3	図版 39 SX1 出土土器 (31)	39
図版 4 SX1 遺物包含層断面・炉跡	4	図版 40 SX1 出土土器 (32)	40
図版 5 SX1 遺物包含層内炉跡・火山灰層・SI217 内炭化物集中・AC11～17範囲の遺構	5	図版 41 SX1 出土土器 (33)	41
図版 6 SX1 遺物出土状況	6	図版 42 SX1 出土土器 (34)	42
図版 7 SX1・SK18・SK37 遺物出土状況・ SX2 遺物包含層全景	7	図版 43 SX1 出土土器 (35)	43
図版 8 SX2・SX3 遺物包含層全景・断面	8	図版 44 SX1 出土土器 (36)	44
図版 9 SX1 出土土器 (1)	9	図版 45 SX1 出土土器 (37)	45
図版 10 SX1 出土土器 (2)	10	図版 46 SX1 出土土器 (38)	46
図版 11 SX1 出土土器 (3)	11	図版 47 SX1 出土土器 (39)	47
図版 12 SX1 出土土器 (4)	12	図版 48 SX1 出土土器 (40)	48
図版 13 SX1 出土土器 (5)	13	図版 49 SX1 出土土器 (41)	49
図版 14 SX1 出土土器 (6)	14	図版 50 SX1 出土土器 (42)	50
図版 15 SX1 出土土器 (7)	15	図版 51 SX1 出土土器 (43)	51
図版 16 SX1 出土土器 (8)	16	図版 52 SX1 出土土器 (44)	52
図版 17 SX1 出土土器 (9)	17	図版 53 SX1 出土土器 (45)	53
図版 18 SX1 出土土器 (10)	18	図版 54 SX2 出土土器・土製品	54
図版 19 SX1 出土土器 (11)	19	図版 55 SX3 出土土器 (1)	55
図版 20 SX1 出土土器 (12)	20	図版 56 SX3 出土土器 (2)	56
図版 21 SX1 出土土器 (13)	21	図版 57 SX3 出土土器 (3)	57
		図版 58 SX3 出土土器 (4)	58
		図版 59 SX3 出土土器 (5)	59

図版 60 SX3 出土土器（6）	60	図版 97 SX3 出土石器・石製品（1）	97
図版 61 SX3 出土土器（7）	61	図版 98 SX3 出土石器・石製品（2）	98
図版 62 SX3 出土土器（8）	62	図版 99 穫穴遺構・土坑・炉跡出土石器・石製品	99
図版 63 SX3 出土土器（9）	63	図版 100 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品（1）	100
図版 64 SX3 出土土器（10）・土製品	64	図版 101 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品（2）	101
図版 65 穫穴遺構・土坑出土土器	65		
図版 66 炉跡出土土器・ 縄文時代のその他の出土土器	66	図版 102 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品（3）	102
図版 67 SX1 出土石器・石製品（1）	67	図版 103 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品（4）	103
図版 68 SX1 出土石器・石製品（2）	68	図版 104 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品（5）	104
図版 69 SX1 出土石器・石製品（3）	69	図版 105 縄文時代のその他の出土石器・ 石製品（6）	105
図版 70 SX1 出土石器・石製品（4）	70	図版 106 土坑出土遺物	106
図版 71 SX1 出土石器・石製品（5）	71	図版 107 古代以降のその他の出土遺物（1）	107
図版 72 SX1 出土石器・石製品（6）	72	図版 108 古代以降のその他の出土遺物（2）	108
図版 73 SX1 出土石器・石製品（7）	73	図版 109 古代以降のその他の出土遺物（3）	109
図版 74 SX1 出土石器・石製品（8）	74		
図版 75 SX1 出土石器・石製品（9）	75		
図版 76 SX1 出土石器・石製品（10）	76		
図版 77 SX1 出土石器・石製品（11）	77		
図版 78 SX1 出土石器・石製品（12）	78		
図版 79 SX1 出土石器・石製品（13）	79		
図版 80 SX1 出土石器・石製品（14）	80		
図版 81 SX1 出土石器・石製品（15）	81		
図版 82 SX1 出土石器・石製品（16）	82		
図版 83 SX1 出土石器・石製品（17）	83		
図版 84 SX1 出土石器・石製品（18）	84		
図版 85 SX1 出土石器・石製品（19）	85		
図版 86 SX1 出土石器・石製品（20）	86		
図版 87 SX1 出土石器・石製品（21）	87		
図版 88 SX1 出土石器・石製品（22）	88		
図版 89 SX1 出土石器・石製品（23）	89		
図版 90 SX1 出土石器・石製品（24）	90		
図版 91 SX1 出土石器・石製品（25）	91		
図版 92 SX1 出土石器・石製品（26）	92		
図版 93 SX1 出土石器・石製品（27）	93		
図版 94 SX1 出土石器・石製品（28）	94		
図版 95 SX1 出土石器・石製品（29）	95		
図版 96 SX2 出土石器・石製品	96		

第1章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と自然環境

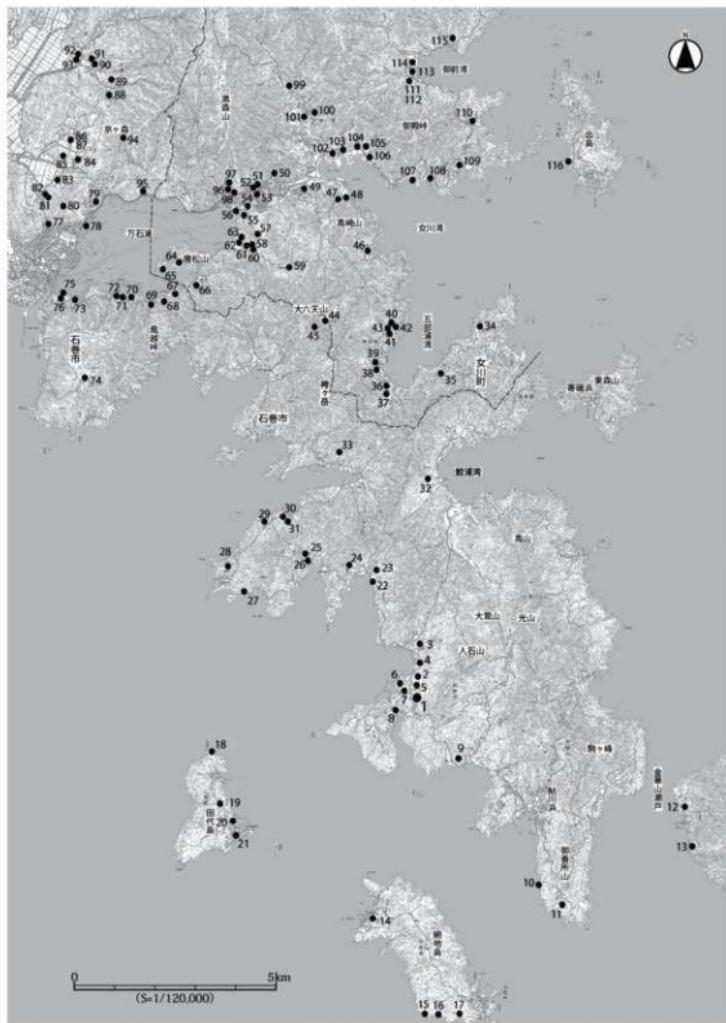
羽黒下遺跡は、石巻市給分浜字羽黒下に位置する(図版1)。遺跡が立地する牡鹿半島は、青森県南部から連なる南北約256kmの北上高地の南端部に属している。仙台湾を囲むように太平洋に向かって突き出た独立した半島を形成している。北側は仙台湾から大きく内陸に入り込んだ内海である万石浦によって石巻平野と分断されており、牡鹿半島の長さは約25kmにおよぶ。牡鹿半島周囲の海岸は、岩手県の三陸沿岸部から続くリアス式海岸が発達し、小規模な湾入や岬が多くみられ、海岸線は複雑に入り組んでいる。牡鹿半島のほぼ中央部を南北に連なる標高400mの高地にはいくつもの浸食谷が食い込み、その下流には小規模な沖積平野が形成されている。牡鹿半島周辺には、金華山、網地島、田代島、出島などの島々が取り巻くよう分布している。

羽黒下遺跡は、仙台湾に面する小湾に沿って連なっている複数の小丘陵の一つに位置する。海岸線から約550m内陸に位置し、標高は頂部が約34m、東西約160m、南北約100m程の舌状丘陵上に立地している。遺跡の北西側には南北幅約2.5kmの大原湾、西側には数百mほどの岬が隣接し、南側には湾口までの長さ約1.4kmの細長い小渕浦が立地している。周辺の河川としては、北方に中沢川がある。この河川は、東部の高地を水源とする長さ1.5kmほどの小河川で、大原湾に注ぎ、左岸には河岸段丘がみられる。

牡鹿半島一帯にかけての地質は、大部分は中生界の地層から出来ており、その中でも中期のジュラ系とそれよりも新しい白亜系の地層だけからなる。地層は大きく、ジュラ系から白亜系最下部の牡鹿層群、下部白亜紀火山岩類の山鳥累層、牡鹿層群を貫く貫入岩類、金華山の花崗岩類、変成岩が基盤となっている。その上に部分的に新生界の第三系、第四系が分布している。牡鹿層群や山鳥累層は南部北上帯に属し、金華山の花崗岩類と変成岩は金華山瀬戸断層によって分かれた半島部とは別の金華山構造線に属している。牡鹿層群は半島部と網地島の大部分を占める地層であり、古い層から月ノ浦累層、荻ノ浜累層、鮎川累層の三累層に分かれている。それらは主に礫岩・砂岩・頁岩（一部、粘板岩）といった碎屑性堆積物からなる。



図版1 羽黒下遺跡の位置



図版2 遺跡の位置と周辺の遺跡

表1 遺跡地名表（番号は図版2に対応）

番号	遺跡名	立地	種別	時代	番号	遺跡名	立地	種別	時代
1	羽黒下遺跡	丘陵	散布地	縄文前・中	59	善五郎遺跡	丘陵斜面	城館	近世？
2	中沢遺跡	段丘	散布地	縄文前	60	花坂遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・古代
3	石森城跡	段丘	城館	中世	61	新浜御所郡	丘陵斜面	板碑群	中世
4	中沢遺跡	丘陵	城館	中世	62	卦ノ浜島地下遺跡	丘陵	散布地	縄文前～後・古代
5	小守遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	63	石塔場遺跡	丘陵斜面	城館	中世
6	観音御跡	丘陵	城館	中世	64	唐松山貝塚	丘陵斜面	貝塚	縄文前・鹿・弥生・古墳
7	船分浜貝塚（後山貝塚）	丘陵	貝塚	縄文前～後・弥生	65	黒鳥貝塚	丘陵斜面	貝塚	縄文・弥生・古墳
8	小沢遺跡	丘陵	散布地	縄文	66	猪瀧遺跡	丘陵斜面	散布地	旧石器・縄文前・中
9	十八坂遺跡	丘陵	城館	中世	67	青木浜遺跡	丘陵斜面	貝塚	弥生・散石堆
10	鶴川遺跡	丘陵	散布地	縄文	68	星敷貝塚	丘陵	貝塚	縄文前～晩・奈良・平安
11	黒崎遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	69	大浜遺跡	丘陵斜面	貝塚	近世
12	金華山遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	70	神林遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文
13	金華山貝塚	丘陵斜面	貝塚	縄文前・鹿	71	一本利貝塚	丘陵	貝塚	弥生・奈良・平安
14	網地遺跡	丘陵	散布地	縄文	72	男柳浜遺跡	丘陵斜面	貝塚	奈良・平安
15	網地製塗器跡	海岸	製塗場	平安	73	木梨貝塚	丘陵斜面	貝塚	奈良早～後・佛生・古墳間
16	網地製塗場遺跡	海岸	製塗場	平安？	74	山居遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・中世
17	網地製塗C遺跡	海岸	製塗場	平安？	75	五十神社下貝塚	丘陵斜面	貝塚	奈良・平安
18	二鬼山遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前	76	法音寺境内貝塚	丘陵斜面	貝塚	奈良・平安
19	田代越十三塚	丘陵尾根	絆塚	近世	77	取揚下貝塚	丘陵尾根	寺院	中世？
20	荒史跡 仁斗田貝塚	丘陵	貝塚	縄文前～後	78	町貝塚	丘陵斜面	貝塚	古代・中世
21	稻荷山貝塚下遺跡	丘陵斜面	散布地	平安	79	西田日山貝塚	丘陵尾根	絆塚	中世
22	二渡貝塚	段丘	貝塚	縄文	80	平用削跡	丘陵	城館	中世
23	藤原遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	81	日出山貝塚（平形絆塚）	丘陵斜面	貝塚	近世
24	小朝倉共同墓地内絆塚	丘陵	絆塚	中世	82	平形貝塚	丘陵斜面	貝塚	平安
25	福貴沼敷石路	丘陵	城館	中世	83	磯貝塚	丘陵斜面	貝塚	縄文・平安
26	福貴沼敷貝塚	丘陵斜面	貝塚	縄文前・古代	84	国史跡 調津貝塚	丘陵	貝塚	縄文前～晩・弥生・古代
27	スカケリ浜遺跡	海岸段丘	貝塚	縄文前・中・平安	85	鶴子駒跡	丘陵	城館	中世
28	孤崎城跡	丘陵斜面	城館	中世	86	出雲跡	丘陵	城館	中世
29	永享の碑	丘陵	板碑	中世	87	越山田遺跡	丘陵	貝塚	縄文・佛生・吉墳・奈良・平安
30	アチナ浜遺跡	丘陵	散布地	縄文	88	船坂山堂跡	丘陵斜面	室跡？	中世・近世？
31	吉祥寺境内板碑	丘陵	板碑	中世	89	楓御跡	丘陵	城館	中世
32	箭代日山跡	段丘	散布地	縄文前	90	長谷寺板碑群	-	板碑群	中世
33	荻浜遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	91	寺割跡	丘陵	城館	中世
34	桜浜遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	92	小手屈跡	丘陵	城館	中世
35	斎子山遺跡	丘陵斜面	散布地	古代	93	内原遺跡	丘陵	貝塚	縄文・奈良・平安
36	野々浜遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前・中・鹿・弥生	94	京ヶ森遺跡	丘陵	城館	中世
37	野々浜B遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・弥生	95	吉志遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・中世・古代
38	長者浜遺跡	丘陵斜面	散布地	古代	96	浦宿尾田峠貝塚	丘陵斜面	貝塚	縄文後・鹿
39	大石原遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	97	浦宿B跡	丘陵斜面	散布地	縄文後
40	楓浦A遺跡	丘陵斜面	散布地	古代	98	浦宿B跡	丘陵斜面	散布地	縄文前～晩・古代
41	楓浦B遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・古代	99	白砂A遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文
42	弓削石板碑群	丘陵斜面	石板碑	中世	100	白砂B遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文
43	楓油御跡	丘陵	城館	中世・近世	101	日麻C遺跡	丘陵斜面	散布地	古代
44	三國ヶ跡	丘陵尾根	寺跡	中世？	102	弓ヶ崎跡	丘陵斜面	散布地	縄文前・鹿・弥生・古代
45	梵ヶ寺跡	丘陵斜面	寺跡	中世？	103	弓ヶ崎跡	丘陵斜面	散布地	縄文前・鹿・弥生・古代
46	高白浜遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	104	高森A遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前
47	小東浜A遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	105	高森B遺跡	丘陵	散布地	縄文
48	小東浜B遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	106	鳴山遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文後
49	内山遺跡	丘陵	集落	縄文・弥生・奈良・近世	107	軒ヶ崎敷石群	海岸	板碑群	中世
50	照磨寺境内遺跡	丘陵斜面	散布地	古代～近世	108	軒ヶ崎遺跡	丘陵	散布地	縄文前・中
51	門前ガード監御跡	丘陵斜面	散布地	縄文	109	竹の内遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文
52	門前・小前遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	110	尾瀬貝塚	丘陵	貝塚	縄文前～後・古代
53	十二神遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	111	荒井田貝塚	丘陵斜面	貝塚	縄文・古代
54	通御浜田遺跡	丘陵斜面	散布地	古代	112	通御浜田郡	丘陵斜面	板碑群	中世
55	小浦御跡	丘陵	散布地	縄文前～後・奈良	113	田の内遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・古代
56	鮫崎御跡	丘陵	城館	中世	114	田の久入遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前・古代
57	鮫の内御跡	丘陵	城館	中世	115	指ヶ浜貝塚	丘陵	貝塚	縄文
58	針浜御跡	丘陵斜面	絆塚	中世	116	出島貝塚	丘陵斜面	製塗場	奈良・平安



図版3 羽黒下遺跡周辺の地形と遺跡

第2節 歴史的環境

羽黒下遺跡はこれまでに発掘調査はおこなわれていないが、縄文時代前期から中期の土器片や石器が散布することが知られていた（牡鹿町教育委員会 1977、牡鹿町誌編纂委員会 1988）。

羽黒下遺跡の周辺には、仙台湾に面する小湾に沿って連なる小丘陵上に、縄文時代と中世の遺跡が集中している（図版 3）。中沢遺跡では当遺跡と同一の東日本大震災後の防災集団移転事業に伴い、平成 24 年 10 月から平成 25 年 10 月にかけて本発掘調査が実施されている。丘陵上部と斜面から、縄文時代前期を中心とした竪穴建物跡、掘立柱建物跡、遺物包含層などを検出した。遺物包含層からは多量な遺物が出土しており、特に縄文時代前期前葉から中葉にかけての土器は、本県では類例の少ない時期の良好な資料である。このほか古墳時代中期、平安時代の竪穴建物跡が確認された。平安時代のものは 3 棟のうち 1 棟で 4 か所の焼け面を検出している。その 1 か所で鉄滓が出土していることから、鍛冶関連の工房の可能性が指摘されている（石巻市教育委員会 2018）。給分浜貝塚は、大原湾に面した標高 10 ~ 20m ほどの丘陵斜面に立地する。面積は東西 220m × 南北 150m あり、縄文時代中期を主体として前期から弥生時代の土器、石器、骨角器等がみつかっている。（牡鹿町誌編纂委員会 1988、東北歴史博物館 1989）。このほか小寺遺跡は縄文時代前期、小沢遺跡は縄文時代中期の土器や石器がみつかっている（牡鹿町誌編纂委員会 1988）。観音館跡は、国指定重要文化財「十一面觀音」を安置している後方の後山丘陵の北部高地一帯を占める館跡で、東西約 200m × 南北 120m と推定される。頂部平坦地は本丸というよりは屋敷跡に近く、館主は不明である（紫桃正隆 1973、牡鹿町誌編纂委員会 1988）。石森城跡と中沢館跡は、石巻鮎川線復興道路に伴い、石森城跡では令和 2 年 8 月から 11 月、中沢館跡では令和元年 8 月から 10 月、令和 2 年 6 月から 7 月にかけて本発掘調査が実施された。石森城跡は、東西約 30m × 南北約 50m の主郭を中心に、北、西、に数段の平場が展開している。本発掘調査では、中世に遡る可能性がある溝跡や近世の土塁・石塁が確認されている。中沢館跡は、中沢峰山から大原湾に下る山麓の一部が大原浜と給分浜の両中沢川に削られて出来た逆 Y 字形の台地上にあり、中沢峰山とは二重の空堀で区切られている。頂上の平地は藩政時代まで中沢神明社の社地になっていたが、その後台地の東南斜面に移された。中沢左近之丞の居城と想定されている（牡鹿町誌編纂委員会 1988、入間田宣夫 1996）。本発掘調査では、平場から時期不明のピット等を確認している。このほか羽黒下遺跡周辺の給分浜には、板碑が多くみられる。観音堂境内に 17 基、中沢館跡南側に 3 基、羽黒神社下に 1 基の合計 21 基残されている（牡鹿町誌編纂委員会 1988）。

万石浦周辺では、梨木畠貝塚（No.73）が万石浦の湾口に近い南岸に位置し、1963（昭和 38）年に石巻市教育委員会の委嘱により東北大考古学研究室によって発掘調査が実施された。縄文時代早期や平安時代の貝層が検出され、早期の貝層から出土した尖底の土器は「梨木畠式」として標識土器となっている（東北大文学部 1982、石巻市史編さん委員会 1995、阿子島・古田 2009）。そのほか、4 度の発掘調査により、縄文時代中期を主体とする遺物包含層や縄文時代前期から晩期の土器を確認している（石巻市教育委員会 2003・2004）。同じく万石浦南岸に位置する屋敷浜貝塚（No.68）は標高 43.6m の丘陵上に立地し、縄文時代中期から後期にかけての遺物が出土し、縄文時代前期や晩期、

平安時代の遺物もみられる（東北大学文学部 1982、石巻市史編さん委員会 1995）。

牡鹿半島の仙台湾側に位置する離島の田代島には、県指定史跡の仁斗田貝塚（No.20）があり、標高 20 ~ 23m の海に面した台地上に立地している。縄文時代前期から後期の土器や石器、骨角器が出土しているが、中期が主体と考えられる。1927（昭和 2）年に遠藤源七により調査されている（楠本正助 1973、石巻市史編さん委員会 1995）。貝類はクボガイ・アワビなどの岩礁産のものが多いという特徴があり、シカの角でつくった釣針やモリなどの漁労具がまとまって出土している。

現在は内陸部となっている古稻井湾には、国指定史跡の沼津貝塚（No.84）がある。縄文時代前期から平安時代に及ぶ遺跡であり、貝層の形成時期は縄文時代中期後半から弥生時代中期にかけてと考えられるが、弥生時代の遺物は土器片と石包丁 1 点のみであり、具体的な様相は不明である。土器、石器、骨角器など様々な遺物が多く出土し、473 点が国の重要文化財に指定されている（石巻市教育委員会 1976、東北大学文学部 1982、石巻市史編さん委員会 1995 他）。平成 12 年においては、この貝塚に隣接する地点の調査により縄文時代晚期とみられる製塙土器や焼土の廃棄場所が確認されている（石巻市教育委員会 2002）。

第2章 調査に至る経過と調査方法

第1節 調査に至る経緯

平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）による津波で、牡鹿半島沿岸部は甚大な被害を受けた。平成23年度に入り、石巻市は震災復興計画の策定に着手していたが、秋には復興交付金制度の創設が示されたことにより、当市においても復興事業計画の策定が本格化していった。この復興事業のなかで本地区でも「住まいの確保」に係る事業として「小渕浜地区防災集団移転促進事業」（通称：高台移転事業）による宅地造成が計画された。

平成24年4月23日に宮城県文化財保護課（当時）、当市震災復興部集団移転課、当市教育委員会生涯学習課で現地確認をおこない、広い範囲で土器の散布がみられるため試掘調査が必要であり、試掘調査は県文化財保護課（当時）がおこなうこととなった。

平成24年5月に石巻市震災復興部集団移転課から事業計画と埋蔵文化財のかかわりについて協議書が提出され、羽黒下遺跡が事業計画地内に含まれることを確認した。計画では事業対象地内の丘陵部の切土造成が伴うことから、宮城県教育委員会から確認調査の必要があるとの回答を得た。遺跡の内容を把握するために平成24年7月9日から7月20日にかけて、他県からの派遣職員も含めた宮城県教育委員会による試掘調査が実施された。

試掘調査は、対象地に27本のトレンチを設定しておこなった。その結果、少なくとも3か所で縄文時代の遺物包含層が確認され、縄文土器や石器・石製品などが多数出土した（宮城県教育委員会2014）。また、ピット群が2か所確認された。

この調査後、造成計画の変更や樹木伐採が終了した平成26年11月に本発掘調査を開始した。調査区北側が、工事予定範囲と実際の調査範囲が異なることについては工事に伴う用地買収範囲と施工の範囲が異なっており、基本的に施工範囲の外側を調査対象外としたためである。しかし、一部調査対象範囲外についても堆積状況の確認のため用地買収済み範囲内において調査を実施した。

復興事業に伴う発掘調査の方法等については、平成23年6月3日付け宮城県教育委員会通知で示された方針をもとに実施した。復興事業に伴う発掘調査は迅速に進める必要があり、当市単独での実施は困難と考えられたことから県文化財保護課（当時）に調査協力を依頼し、当市に派遣された神戸市の専門職員1名、宮城県職員および宮城県に派遣された全国の専門職員4～6名の支援を得て調査体制を強化し実施した。また、調査にあたりデジタル機器の活用や業者支援による作業の迅速化・効率化を目指した。

第2節 調査の方法と経過

（1）調査の方法と経過

発掘調査は、平成26年度及び平成27年度に実施した。

調査区は、遺跡が立地する丘陵尾根部から北斜面の一部、南斜面と斜面下の平坦面、西斜面におよんでいる（図版4）。

本調査は、土地買収、樹木の伐採など環境が整った段階で開始した。

I 区：丘陵南斜面および斜面下平坦面（平成 26 年度・27 年度 3867.954m²）

II 区：丘陵西斜面（平成 26 年度・27 年度 1946.328m²）

III 区：丘陵尾根部（平坦部）から北斜面（平成 26 年度・27 年度 2934.103m²）

その他確認調査トレンチ（平成 26 年度 365.465m²）

総調査面積は 9,113m²におよぶ。試掘調査を含めた各年度の調査状況は、以下のとおりである。

[平成 26 年度調査]

平成 26 年 11 月 4 日から調査を開始した。調査員は、宮城県職員および石川県、島根県、長野県、新潟市から宮城県へ派遣された職員、石巻市職員を含めて総勢 8 名が一部交代しながら担当し、作業員は地域住民を含めた 34 名で調査にあたった。

基準点については、東日本大震災により既存の座標値及び標高値にずれが生じている可能性が高かったため、石巻市震災復興部基盤整備課（当時）が防災集団移転促進事業に際して、平成 26 年 3 月に新規測量した座標点（新設 4 級基準点、調査対象範囲に 5 か所以上）を用い、III 調査区東端（BM1）、工事予定範囲南西端（BM2）・南東端（BM3）を設置した。座標値は以下のとおりである。

BM1 X = -185918.594 Y = 56194.189 標高 30.610 m

BM2 X = -185953.078 Y = 56197.367 標高 20.153 m

BM3 X = -185977.369 Y = 56094.986 標高 15.912 m

平成 26 年度は調査区全域に任意座標により 3m × 3m のグリッドを設定し、地形に合わせて I 区、II 区、III 区に分けた。

遺構等の記録については、電子平板・写真測量を活用し、一部の平面図（微細図等）・断面図については縮尺 1/20（一部縮尺 1/10）の手実測により作図した。これらの記録作成には、業者の測量支援を導入している。

写真記録については、デジタル一眼レフカメラ（2000 万画素以上）2 台を使用した。

各区で遺物包含層を検出し、堆積層の確認のためにトレンチ調査をおこなった。また、一部の竪穴遺構等の遺構調査もおこない、平成 27 年 3 月 27 日に終了した。

[平成 27 年度調査]

平成 27 年度調査は、昨年度調査を継続する形で 4 月 6 日に開始した。調査員は宮城県職員及び群馬県、千葉県、長野県、兵庫県、山口県、新潟市から宮城県へ派遣された職員、石巻市職員及び神戸市から石巻市へ派遣された職員を含めて総勢 10 名が一部交代しながら担当し、作業員は地域住民を含めた最大 58 名体制で調査にあたった。

基準点は、昨年度設置したものを必要に応じて活用し、写真記録や遺構等の記録についても昨年度の方法を踏襲した。

当年度は、対象範囲の遺物包含層、竪穴遺構等の遺構調査をおこない、発掘調査中に火山灰の採

取、年代測定のための試料採取作業などを実施している。また、現地説明会を 10 月 24 日に実施し、110 名の参加者があった。

このように、平成 26 年度から 27 年度にかけての発掘調査は、通算 13 か月におよび、9,113m²の調査をおこない、平成 27 年 11 月 13 日に全ての作業が終了した。

（2）整理作業の方法と経過

平成 27 年度から令和 2 年度にかけて実施した。なお、復興調査に係る報告書の作成方針等については、「復興調査に限り必要最小限に留める」という宮城県教育委員会の方針をもとに実施している。

整理作業は担当職員間で協議しながら進めた。また、作業を効率化するため、出土遺物の水洗・注記・接合等の業者委託を活用した。各年度の整理状況は以下のとおりである。

〔平成 27 年度整理作業〕

- ・出土遺物の水洗（平成 26 年度出土遺物のうち収納コンテナ 300 箱を業者委託、一部を発掘調査現場にて実施）
- ・遺構図面、写真データ等の基礎整理作業

〔平成 28 年度整理作業〕

- ・出土遺物の水洗・注記・接合作業委託（平成 26・27 年度出土遺物：収納コンテナ 900 箱）
- ・遺構の整理・検討作業
- ・遺構図版作成の委託
- ・石器・石製品の分類・抽出等作業

〔平成 29 年度整理作業〕

- ・縄文土器の基礎データ作成作業
- ・石器・石製品の実測図作成・トレース・写真撮影作業の委託

〔平成 30 年度整理作業〕

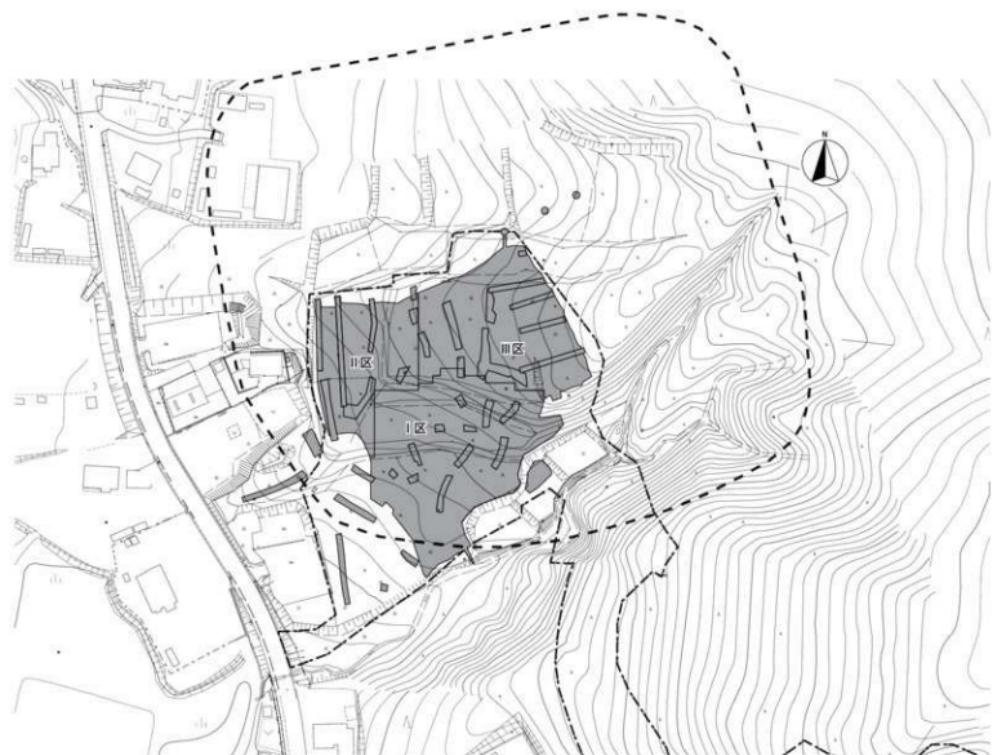
- ・縄文土器の追加接合復元作業・基礎データ作成作業
- ・縄文土器 PEAKIT 作成作業、石器・石製品・縄文土器の実測図作成・トレース・写真撮影作業の委託

〔令和元年度（平成 31 年度）整理作業〕

- ・縄文土器 PEAKIT のトレース作業
- ・縄文土器・土製品・陶磁器・鉄製品等の実測図作成・トレース・写真撮影作業の委託

〔令和 2 年度整理作業〕

- ・縄文土器 PEAKIT のトレース作業、図版作成、事実記載・総括執筆、報告書編集作業



- - -	羽黒下遺跡範囲
- - - -	工事予定範囲
[Shaded Gray]	調査範囲

0 50m
(S=1/2,000)

平成24年度 7	平成26年度			平成27年度									
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
試掘調査	確認調査												
	I区												
	II区												
	III区平坦部												
	III区北斜面部												
													現地説明会

図版4 遺跡の範囲と調査区

第3章 調査成果の概要

第1節 調査区の地形と遺構の分布

遺跡が立地するのは、牡鹿半島を形成する南北に連なる山地から西に向かって派生した枝丘陵の端部である（図版4・5）。本丘陵端部は北側と南側にある鞍部により画され、独立した小丘陵状を呈する。この小丘陵の規模は東西約160m、南北約100mで、全体が遺跡範囲として登録されている。現況は畑地・林地である。標高は頂部が約34m、鞍部が約18m、裾部は西側が約14mである。本丘陵の標高約25m以上は傾斜が緩やかになっており、約128m×54m規模の頂部平坦面を形成する。丘陵斜面は、西側、北側および南側は緩斜面、南東側は急斜面である。

調査対象地は丘陵頂部平坦面を中心とした範囲（宅地部分）であり、取付道路部分で試掘調査の結果から遺構が確認されなかったため調査対象地からは除外した。調査の結果、宅地部分からは縄文時代、古代以降の遺構が検出され、平坦面の南西側落ちぎわには縄文時代の竪穴遺構、南側には古代以降の掘立柱建物跡、斜面部には縄文時代の遺物包含層が分布する状況が認められた（図版6）。

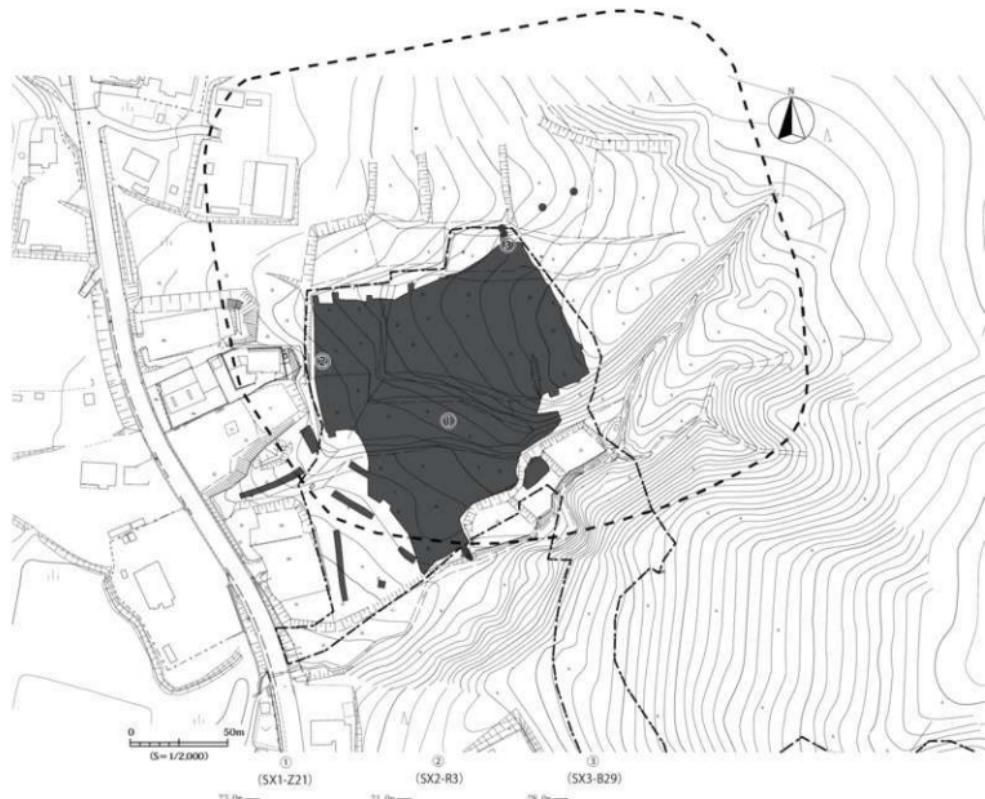
第2節 基本層序

調査区内における基本層序は上から順に、I層=表土・耕作土・盛土、II層=再堆積層、III層=遺物包含層、IV層=包含層堆積以前の旧表土、V層=地山の5層に分けられる（図版5）。

丘陵頂部は表土（I層）直下が地山（V層）であり、遺構は地山面で検出している。

地山はローム質の部分と軟質の岩盤（アマ岩）の部分がある。層の違いが地表面に縞状に現れており地山の地層は傾斜していると考えられる。遺構堆積土中にみられる地山ブロックにもローム質由来のものと軟質の岩盤由來のものがみられた。

斜面部には、浅い谷地形部分3か所に遺物包含層（III層）・旧表土（IV層）が分布する。これらの間のゆるい尾根に当たる箇所は表土直下が地山であり、表層土が流失しやすい状況にあったとみられる。包含層の時期はいずれも縄文時代前期から中期を主体としており、旧表土はそれ以前の堆積層である。包含層中には十和田中振火山灰が認められる。また、再堆積層（II層）中には十和田a火山灰が認められる。なお、斜面部にも等高線に沿った段切りや、水路跡などの地形の変化がみられる。



柱状図 (1/40)

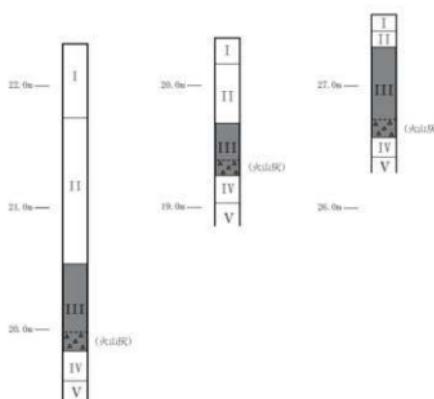
I : 表土・耕作土・礫土

II : 西洋積層

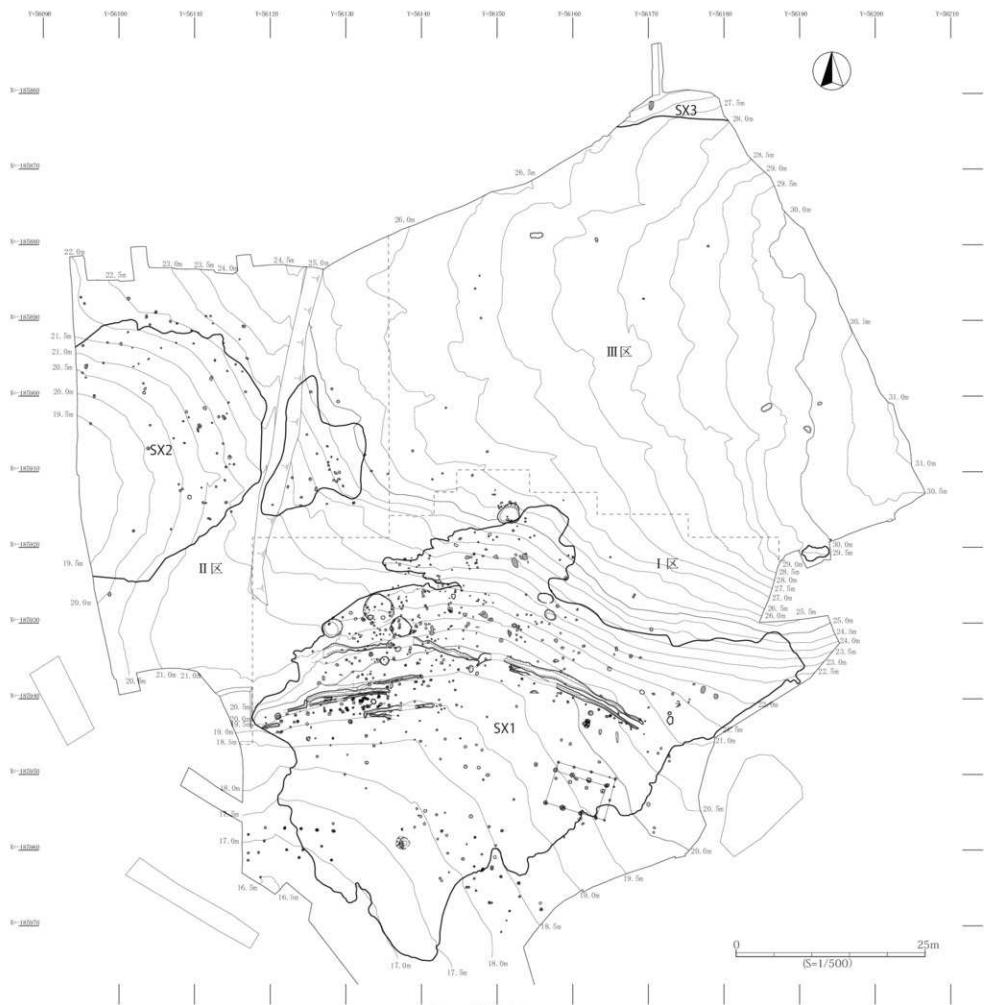
III : 遺物包含層

IV : 包含物層縫隙の鉄歯土

V : 地山



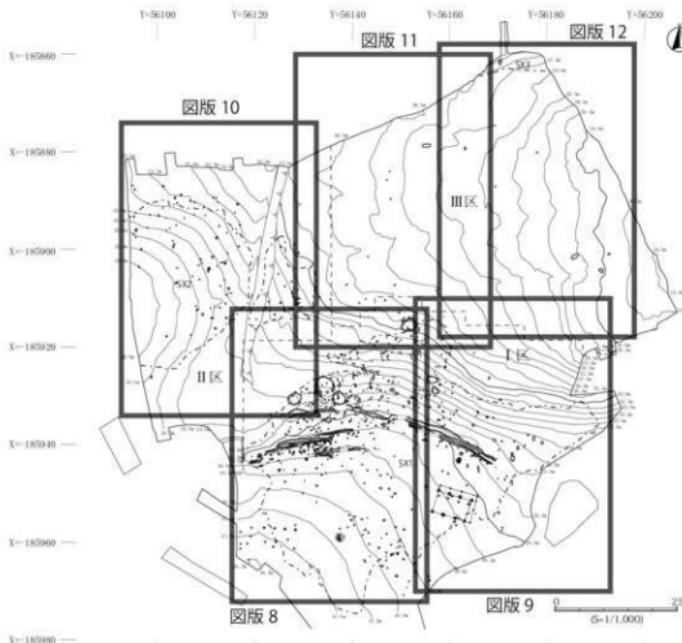
図版5 遺跡の地形と基本層序



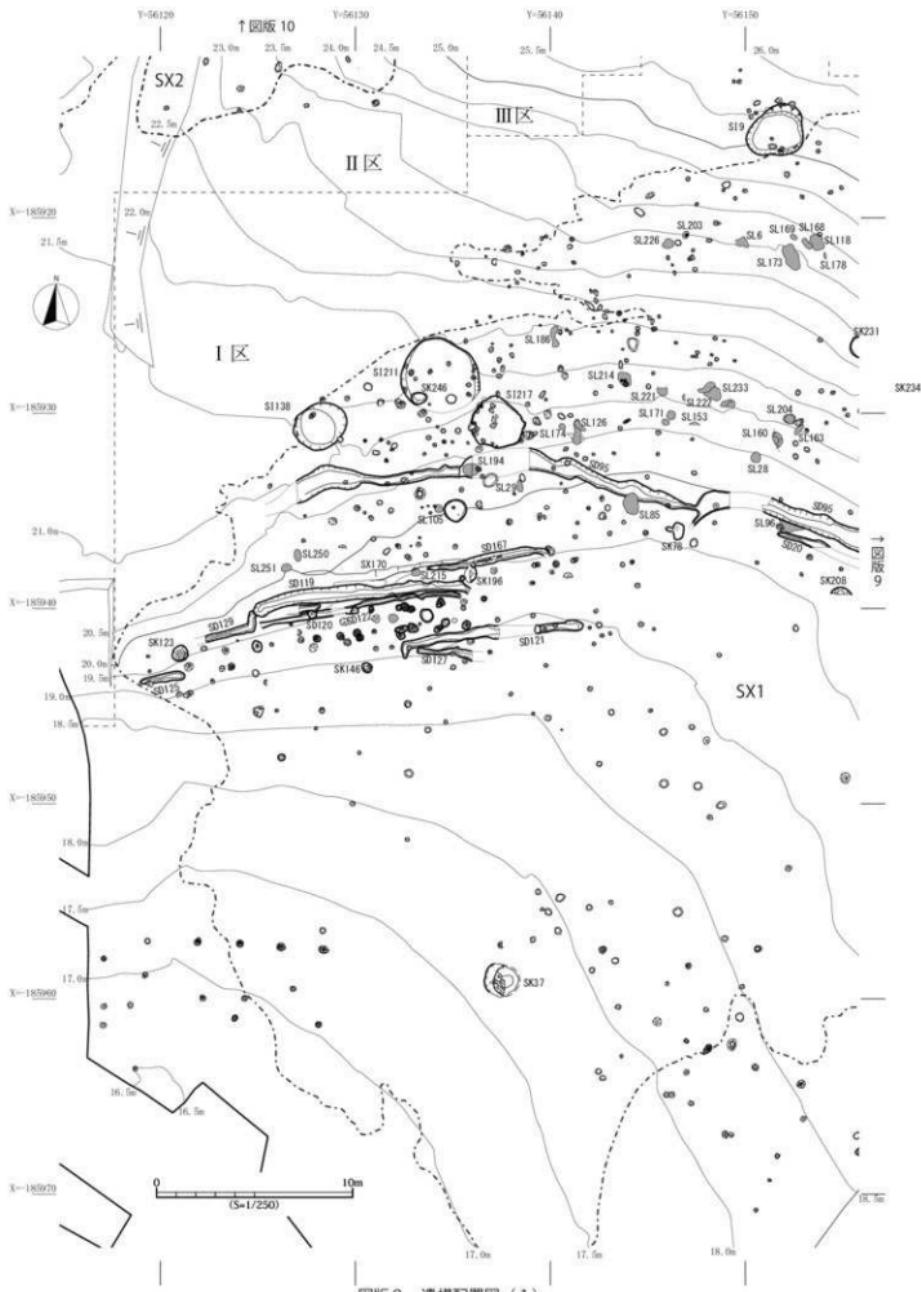
図版6 遺構全体図

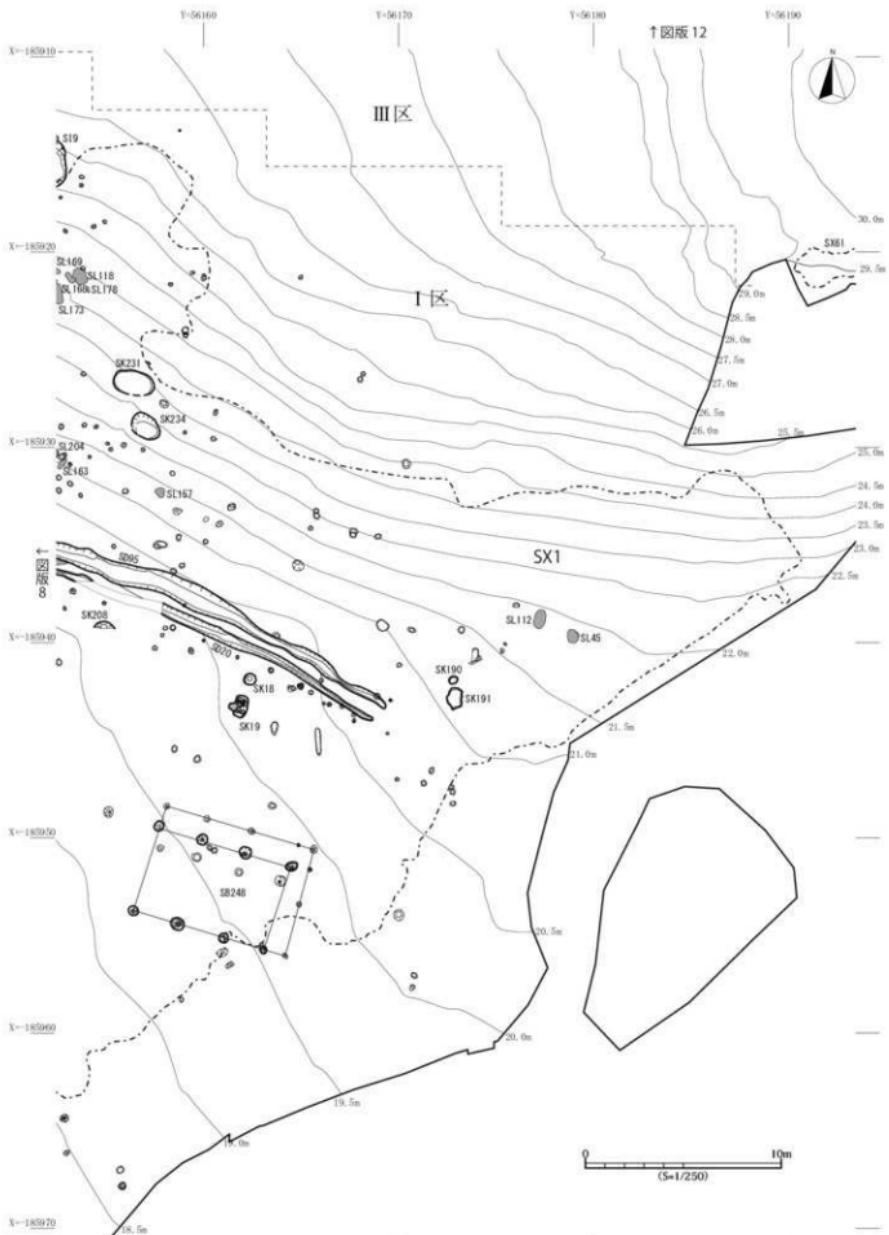
第4章 発見された遺構と遺物

発見された遺構は、遺物包含層、竪穴遺構、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、炉跡、ピット群等である。出土遺物や検出面から時期が判断できるものには縄文時代と古代末～中世がある。基本層IV層（包含層堆積以前の旧表土）や基本層V層（地山）の面で検出した遺構で出土遺物などもみられないものについては、堆積土の特徴、遺構の形態などから帰属時期を判断した。土坑、溝跡、柱穴は、堆積土の特徴に褐色・黄褐色シルトがみられるものと暗褐色・黒褐色シルトがみられるものがあった。時期が判断できる遺物が出土している遺構や検出面が判断できるものを基準とし、堆積土に褐色・黄褐色シルトがみられるものを縄文時代、暗褐色・黒褐色シルトがみられるものを古代末～中世に帰属する遺構と判断した。竪穴遺構については、I区の北側の斜面上部に位置するSI9は土器がつぶれたような状態で出土する良好な縄文時代の遺物包含層が残存している範囲にあり、堆積土中や竪穴遺構を含む範囲から古代末～中世の遺物の分布が全くみられないことから縄文時代の遺構と判断した。他の竪穴遺構については、SI9と規模や形態が類似しており、堆積土中からも古代末～中世の遺物が全く確認

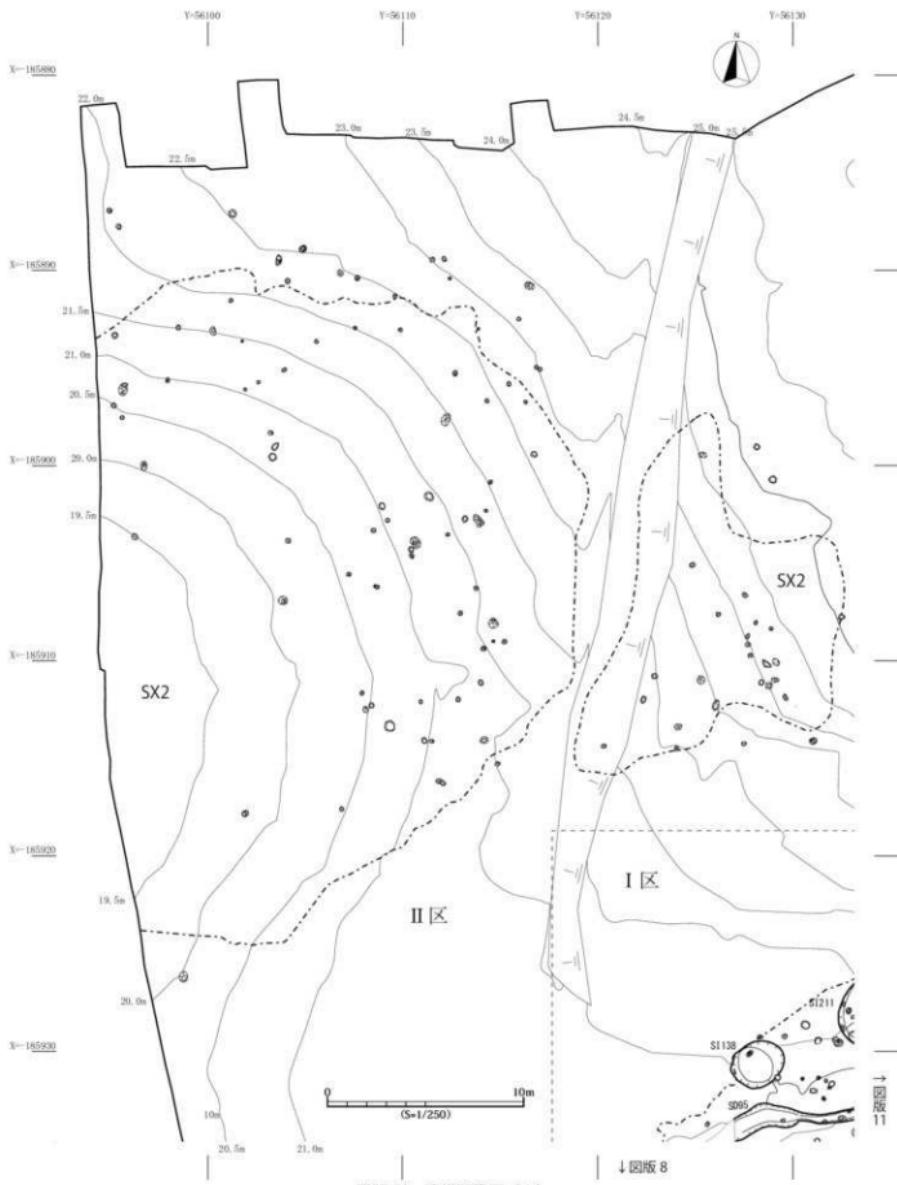


図版7 遺構配置区割り図 (S=1/1000)

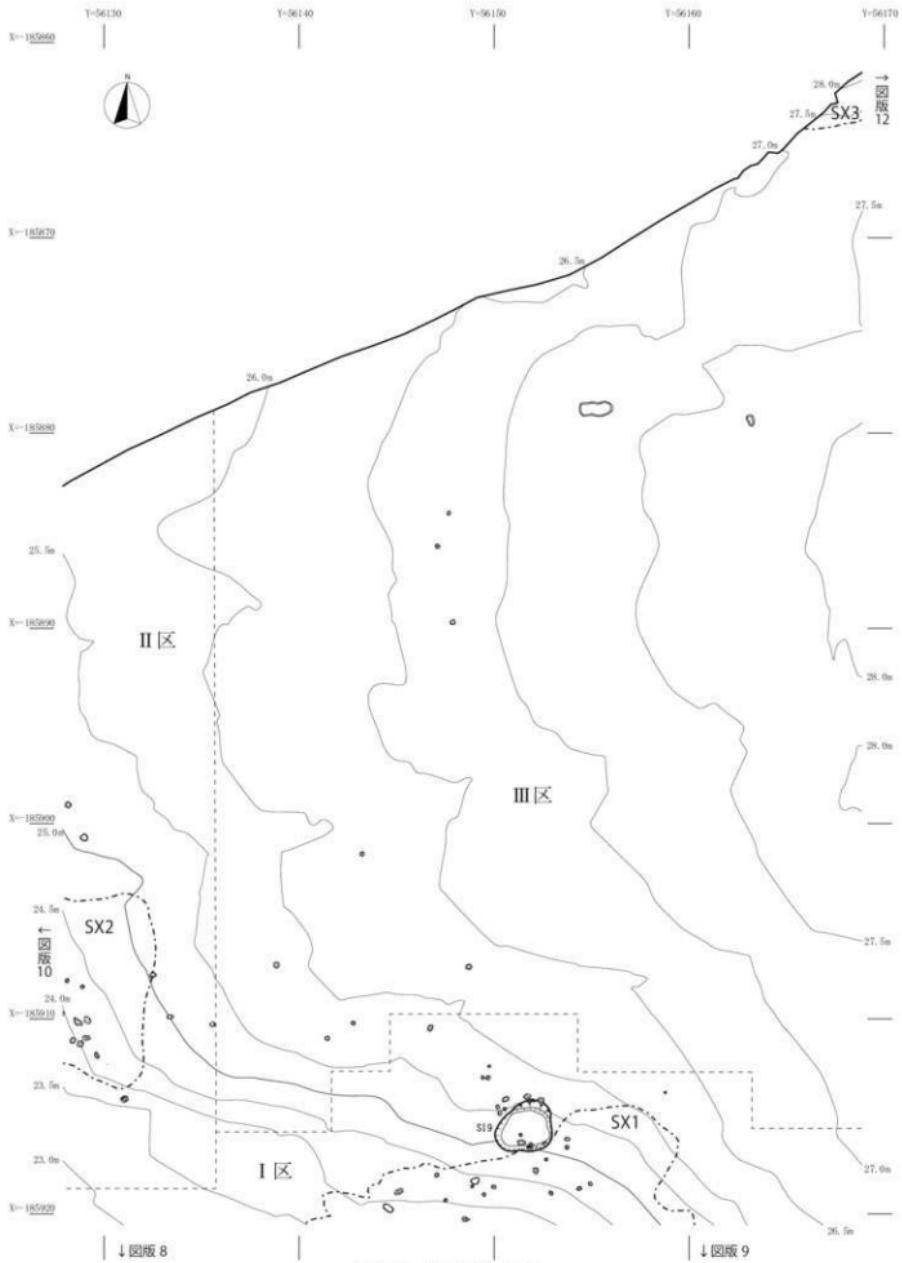




図版9 遺構配置図(2)



図版 10 遺構配置図 (3)



図版 11 遺構配置図 (4)



図版 12 遺構配置図 (5)

されていないことから、SI9と同様に縄文時代の遺構として判断した。

検出した遺構には、上記の基準で判断できないものもあり、それらについては時期不明とした。ただし、少なくとも出土している遺物は縄文時代と古代末～中世におさまり、本調査で実施している放射性炭素年代測定値でも同様な時期が示されていることから、本調査でみつかった遺構は縄文時代もしくは古代末から中世のどちらかに帰属することは想定できる。

古代末～中世の出土遺物は、縄文時代の遺物が出土する包含層と同一層からの出土として取り上げているものもあるが、それらは古代以降の部分的な搅乱などにより、縄文時代の遺物包含層に混入したものと考えられる。そのため、古代末から中世の遺物で取り上げ層が縄文時代の遺物包含層としたものについては、遺構外遺物として扱い、その他の遺物として掲載する。

以下では、主に縄文時代と古代末から中世に帰属することが判断できた遺構を取り上げ、時期ごとに記述をおこなう。

遺構の分布は、調査区を縮尺250分の1で図版8～12に分割して示した。ピットは建物に関係なくP1～P1710まで番号を付けたが、本書では時期が判断できたもので個別の遺構平面図に掲載されるものや断面図・出土遺物を掲載したピットのみ番号を掲載している。

第1節 縄文時代

丘陵斜面部の浅い谷地形部分3か所において、縄文時代の遺物包含層を調査した（SX1、2、3）。それ以外には、竪穴遺構4基、土坑3基、炉跡43基などがある。それらの遺構から出土した遺物として、縄文土器、土製品、石器、石製品などがある。

包含層では、「堆積状況と分布範囲」→「出土土器・土製品」→「出土石器・石製品」の順に記述する。包含層の層番号は、大別層をローマ数字で、細別層をアルファベット小文字で示した。遺物包含層は基本層Ⅲ層に該当する。

遺物は細別層単位で取り上げているものが多いため、基本的に細別層ごとに報告している。

主要な土器・土製品は実測図または拓本で報告し、写真図版を掲載した。これらすべての土器の特徴を観察表に記載した。観察表の器種類型、装飾類型の分類基準等については、総括（第6章第1節）に説明されている。本報告書においては、各層出土土器の中で検討対象となった点数を記し、図を掲載した土器の特徴をまとめて記述した。

主要な石器・石製品は実測図で報告し、写真図版を掲載した。石器・石製品の観察表における器種分類の基準については、総括（第6章第2節）で説明している。

1. 遺物包含層と出土遺物

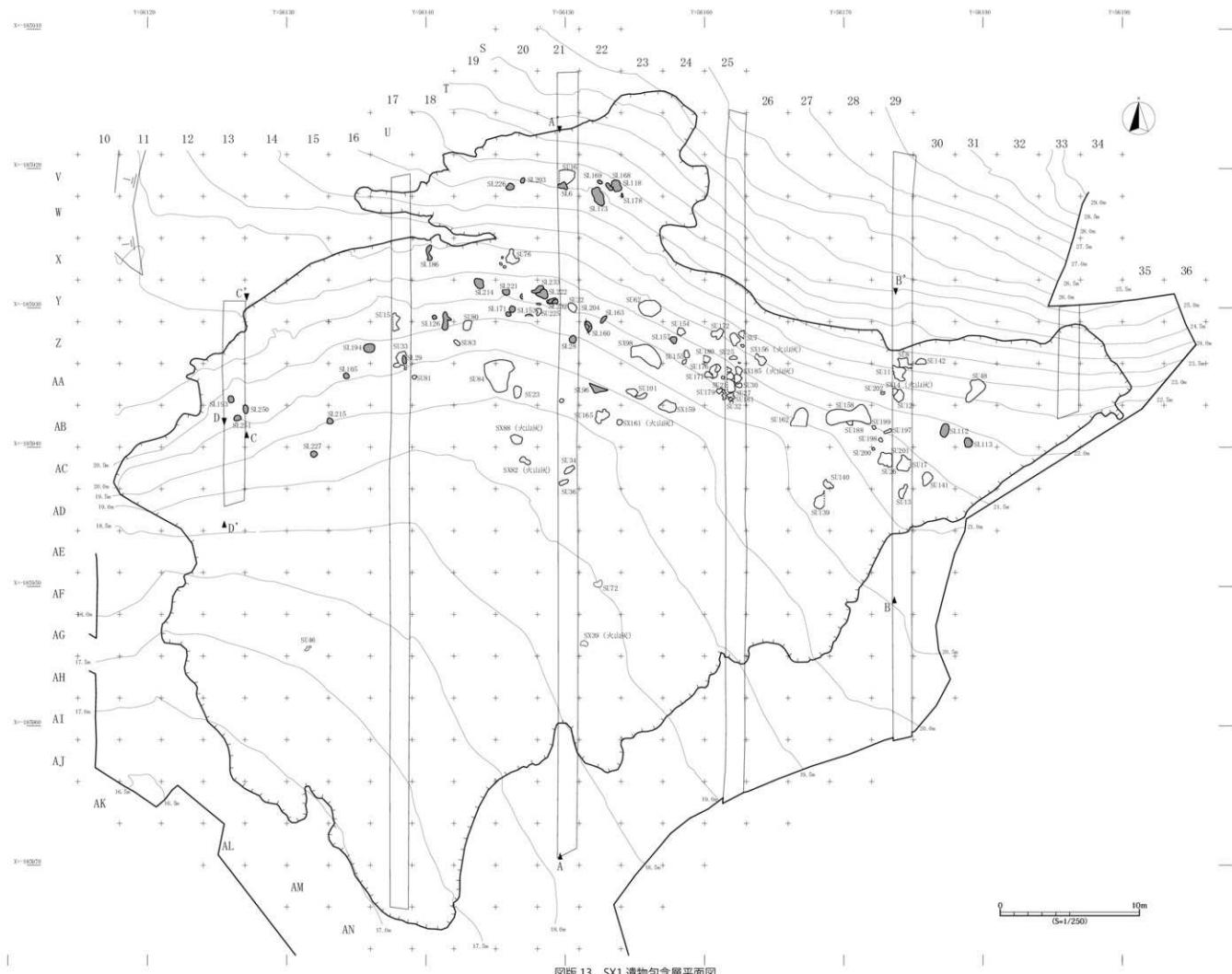
【SX1 遺物包含層】

（1）堆積状況と分布範囲（図版13～16）

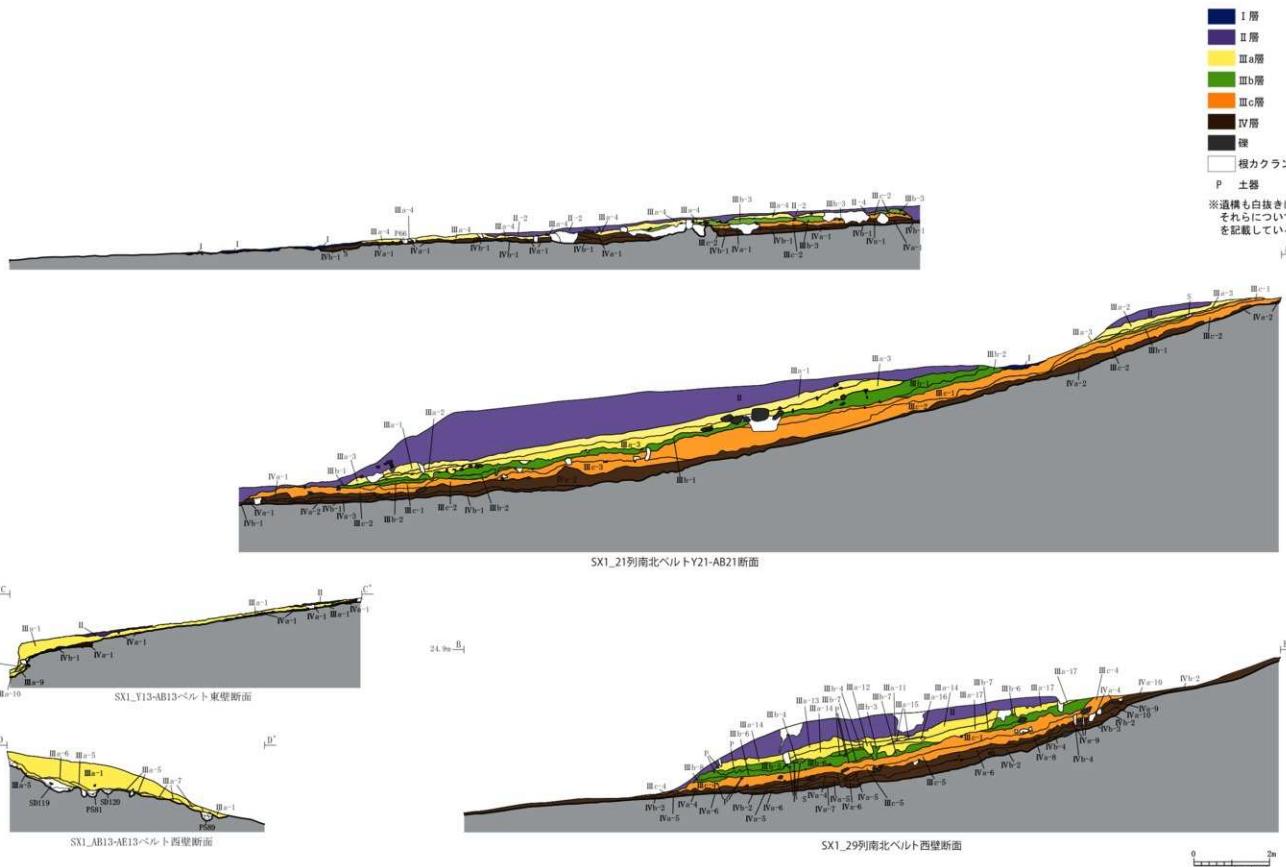
丘陵の南斜面に形成された幅69.7m、奥行き60.2mの遺物包含層である。立地は北東から南西に向に入る緩やかな谷地形に当たる。傾斜は比較的緩やかで、斜面下方の末端近くでは水平に近くなる。

表2 SX1 遺物包含層土層注記

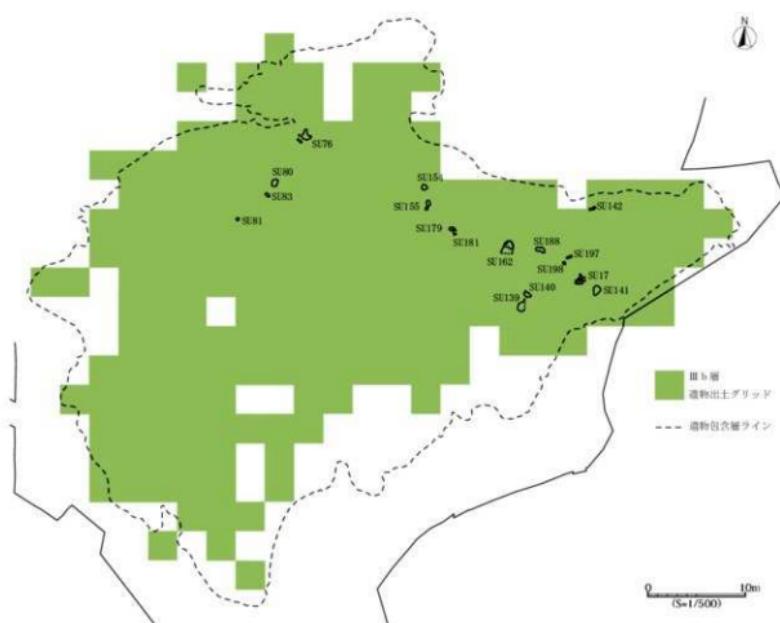
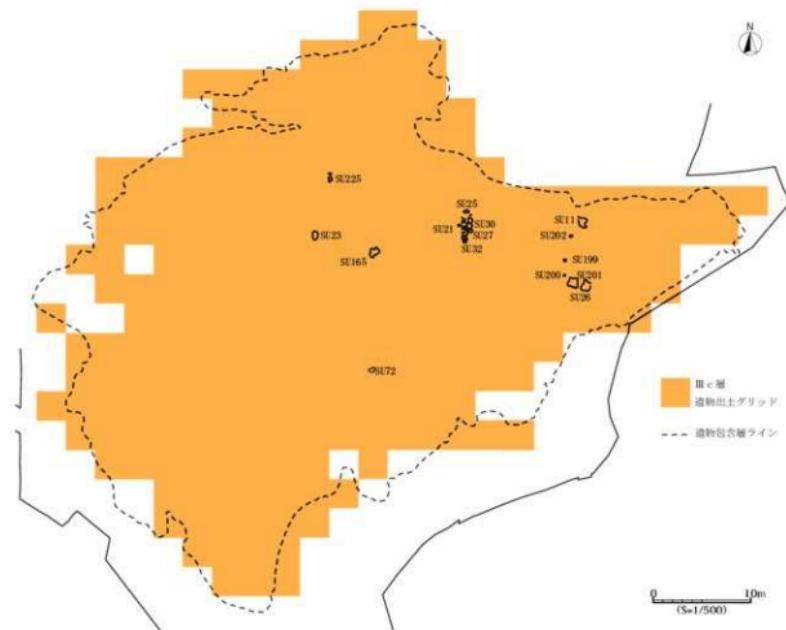
層	土色名	土質	混入物等	性格
Ⅲ	にぶい黄褐色～濃にぶい黄褐色 (10YR4/3 ~ 10YR5/3)	シルト		両堆積層
Ⅲ a-1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	埴土ブロックを若干含む。地山ブロックを若干含む。火山灰をブロック状に局所的に少量含む。	
Ⅲ a-2	暗赤黄褐色 (10YR4/2)	シルト		
Ⅲ a-3	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	礫をやや多く含む。	
Ⅲ a-4	黒褐色～暗赤黄褐色 (10YR3/2 ~ 10YR4/2)	シルト	砂粒を多く含む。	
Ⅲ a-5	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	径1mmの埴土粒を若干含む。径1mmの炭化物を若干含む。黄褐色土がしみ状に含む。	
Ⅲ a-6	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	径1mmの埴土粒を若干含む。径1mmの炭化物を多く含む。黄褐色土をしみ状に多く含む。	
Ⅲ a-7	褐色 (10YR4/4)	シルト	径1mmの埴土粒を多く含む。径1mmの炭化物を多く含む。	
Ⅲ a-8	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	径1~2mmの埴土粒を2%程度含む。径1~2mmの地山小礫を若干含む。黄褐色土をしみ状に多く含む。	
Ⅲ a-9	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	黄褐色土をしみ状に多く含む。	
Ⅲ a-10	褐色 (10YR4/4)	シルト	径1~2mmの埴土粒を若干含む。	
Ⅲ a-11	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	径2~5mmの炭化物を若干含む。地山小礫を若干含む。	
Ⅲ a-12	濃黒褐色 (10YR3/2)	シルト	径5mmの炭化物を若干含む。地山小礫を若干含む。	
Ⅲ a-13	暗赤黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山礫を径1~2mmと多く含む。	
Ⅲ a-14	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	径5mmの炭化物を若干含む。地山小礫を多く含む。	
Ⅲ a-15	灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト	砂粒と地山小礫を多く含む。	
Ⅲ a-16	黒褐色 (10YR3/2)	シルト		
Ⅲ a-17	黒褐色～暗褐色 (10YR3/2 ~ 10YR3/3)	シルト		
Ⅲ b-1	褐色 (10YR4/4)	シルト	径3mmの炭化物を若干含む。地山小礫を多く含む。	
Ⅲ b-2	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	径1~3mmの炭化物・埴土ブロックを若干含む。地山礫がⅢ b-3層に比べ多く含む。黄褐色土がしみ状に含む。	
Ⅲ b-3	濃にぶい黄褐色 (10YR6/4)	シルト	径3~5mmの炭化物を若干含む。地山小礫を若干含む。	
Ⅲ b-4	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	シルト	径5mmの炭化物を若干含む。地山小礫を若干含む。	
Ⅲ b-5	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	径3~5mmの炭化物を若干含む。地山小礫を若干含む。	
Ⅲ b-6	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	径3mmの炭化物を若干含む。地山礫を若干含む。	
Ⅲ b-7	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地山小礫を若干含む。	
Ⅲ b-8	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地山小礫を若干含む。	
Ⅲ c-1	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	径2mmの炭化物を若干含む。地山小礫を若干含む。	
Ⅲ c-2	暗褐色 (10YR3/3 ~ 10YR3/4)	シルト	径1~3mmの炭化物・埴土粒・地山小礫を若干含む。1cmの地山礫を若干含む。	
Ⅲ c-3	黒褐色 (10YR2/1 ~ 10YR3/1)	シルト		
Ⅲ c-4	黒褐色～黒褐色 (10YR2/1 ~ 10YR3/1)	シルト	炭化物・埴土粒を若干含む。地山礫を多く含む。火山灰をブロック状に多く含む。	
Ⅲ c-5	黒褐色～暗赤黄褐色 (10YR3/2 ~ 10YR4/2)	シルト	炭化物を若干含む。地山礫を多く含む。	
IV a-1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小礫を多く含む。径3~10mmの炭化物を若干含む。	地山兼移層
IV a-2	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	地山小礫を多く含む。地山礫を若干含む。	地山兼移層
IV a-3	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		地山兼移層
IV a-4	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物を若干含む。埴土粒を若干含む。大形の地山礫を多く含む。	地山兼移層
IV a-5	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	大形の地山礫を多く含む。	地山兼移層
IV a-6	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		地山兼移層
IV a-7	闇灰～灰黄褐色 (10YR4/1 ~ 4/2)	シルト	径2~5mmの炭化物を若干含む。地山小礫を若干含む。	地山兼移層
IV a-8	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物・地山小礫を若干含む。	地山兼移層
IV a-9	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	径3mmの炭化物を若干含む。地山小礫を若干含む。	地山兼移層
IV a-10	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	径3mmの炭化物を若干含む。地山小礫を多く含む。	地山兼移層
IV b-1	明黄褐色 (10YR6/6)	シルト	地山礫を若干含む。	地山兼移層
IV b-2	明黄褐色 (10YR6/6)	シルト	径2~5mmの炭化物を若干含む。地山小礫を多く含む。中段上位では黄褐色土に漸移的に変化する。	地山兼移層
IV b-3	褐色 (10YR4/6)	シルト		地山兼移層
IV b-4	褐色 (10YR5/6)	シルト		地山兼移層
V	黄褐色 (10YR7/8)	シルト	径10~30mmの地山礫を多く含む。	地山



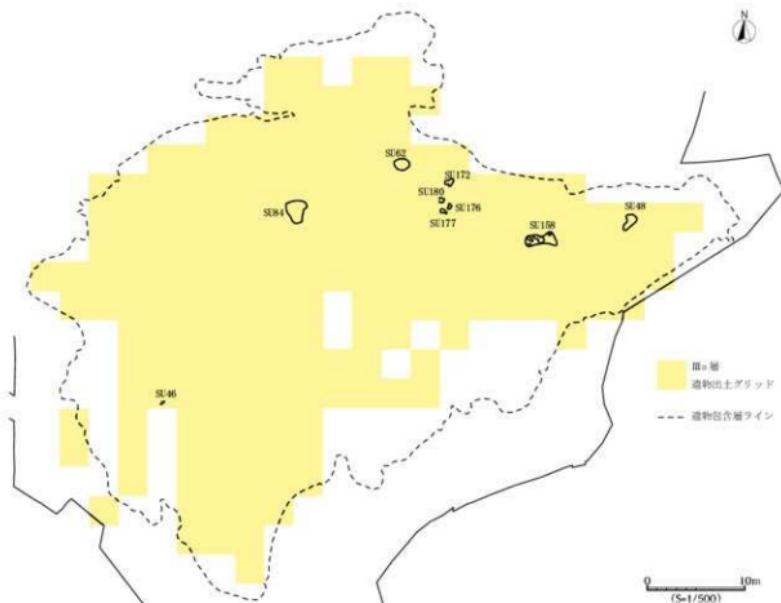
図版 13 SX1 遺物包含層平面図



図版 14 SX1 遺物包含層断面図



図版15 SX1 遺物包含層各層の平面図（1）



図版 16 SX1 遺物包含層各層の平面図（2）

II層が再堆積層、III層が縄文時代の遺物包含層、IV層が包含層堆積以前の旧表土である。

SX1 遺物包含層は部分的に確認されたものを含めると 31 層あるが、それらの上下関係については捉えられないものが多く、また遺物は細別層（III a 層、III b 層、III c 層）単位で取り上げているものが多いため、基本的には細別層ごとに報告し、それらの層に帰属する遺構、および掲載遺物で出土地点の記録のあるものについて、分布図を示した。堆積土中には火山灰の堆積がみられた（III a 層、III c 層）。また、西端では地山が段状に削平され、III a 層が厚く堆積している様子がみられた。

各層の堆積範囲については、堆積状況を把握するために先行して調査したトレンチで III a 層～III c 層の範囲に差がないことが判明していたため、復興事業であることを踏まえ作業効率を考えた上で、包含層の分布範囲は検出状況の範囲を記録するにとどめた。ただし、その範囲内で遺物の出土傾向を把握するために遺物の出土したグリッドを平面図に明示した。その結果、III a 層、III b 層、III c 層にはわずかな違いはみられたものの、大きな偏在性は認められなかった。そのため、各層で遺物が分布する範囲はほぼ同一傾向を示すことがわかった。

図版 13 に示した等高線は、遺物包含層である III 層が堆積する以前の地形を示している。

[III c層]

斜面全体に広く分布し、厚さは最大60cmである。黒色～暗灰黄褐色のシルトで、径1～3mm程度の炭化物・焼土粒と径1～10mmの地山礫を含む。さらに薄い層に細分される箇所もある。火山灰をしみ状・ブロック状に含む。

[III b層]

斜面中腹を中心に分布し、厚さは最大60cmである。暗褐色～濃い黄橙色シルトで、径1～5mm程度の炭化物・焼土粒と地山礫を若干含む。さらに薄い層に細分される箇所もある。南西部では、黄褐色の色調が強くあらわれる範囲がみられた。

[III a層]

斜面全体に広く分布し、厚さは最大50cmである。黒褐色～灰黄褐色のシルトで、径1～5mm程度の炭化物・焼土粒と径1～2mmの地山礫を含む。さらに薄い層に細分される箇所もある。火山灰がブロック状に少量確認されている。

(2) SX1 出土土器

SX1 遺物包含層は、3か所ある遺物包含層のうち、最も繩文土器の出土量が多く、テンパコ換算で約720箱に相当する量である。それらの出土状況および内容について各層ごとに特徴を述べる。

[III c層]

器種は、ほとんどが深鉢であり、鉢、浅鉢がわずかに出土している。126点を掲載した。

この層は胎土に纖維を含む土器が多く、その中には回転押捺施文の繩文以外の装飾を持たないか限定的な使用のみのものが多い。繩文には、斜行繩文（図版17-1・2、図版19-7、図版20-1、図版21-8～10、図版23-2）、末端ループ文（図版20-3）、重層末端ループ文（図版17-3～5）、側面ループ文（図版17-6～9、図版20-4・5）、非結束羽状繩文（図版17-2～4、図版18-1～3、図版19-8、図版20-2、図版23-4）、斜行繩文に結節回転文が伴うもの（図版18-4・5）、斜行繩文に附加条繩文が伴うもの（図版18-6）、組紐回転文（図版17-8、図版18-7・8、図版19-1、図版21-6）、撚糸文（図版19-2～4、図版22-9・10）、木目状撚糸文（図版19-5・6、図版21-12・13、図版22-1・2）、結節繩文（図版19-7・8、図版20-1～6、図版21-1～3、図版22-5・8、図版23-5）、葺瓦状撚糸文（図版21-4、図版22-3）、網目状撚糸文（図版21-3、図版21-5～7）がある。また、繩文以外の装飾を主体とするものには、口縁部に沈線文や平行沈線文を縦位に引くもの（図版21-8～10）、沈線文と刺突文で意匠を描くもの（図版21-11）、口縁部に沿う横位・波状・鋸歯状の平行沈線文や押引文を施すもの（図版21-12・13、図版22-1～8）、櫛歯状工具による平行沈線文で横位・波状・鋸歯状の平行沈線文や押引文を施すもの（図版22-9～22）、押圧繩文（図版23-1～5）、円形刺突文（図版23-6）、無文（図版23-7）がある。これらは、丘陵南斜面上部（U17～X25）から中部東半（Y24～AD34）にかけて多く出土し、図版17-3、図版18-1、図版20-6、図版23-7などは斜面上部でつぶれたような状態で出土している。

纖維を含まない土器には、粘土紐貼付文や沈線文、平行沈線文で意匠を描くものが多い。粘土紐貼

付文には、横位を主体とした貼付文上に刺突文や刻目文を施すもの（図版 23-8～10）、波状・渦巻状・梯子状・格子状やそれらを用いた幾何学的意匠を描くもの（図版 23-11、図版 24-1、図版 25-1、図版 26-1～7、図版 27-1）、電光状や鋸歯状を施すもの（図版 27-2～10）がある。沈線文で横位鋸歯状を施すもの（図版 27-11～13、図版 28-1・2）や、平行沈線文で交互弧状を描くもの（図版 28-3・4）、直線的な横位・縦位・斜位の組み合わせで意匠が描かれるもの（図版 28-5～7、図版 29-1・2）、結節浮線文やソーメン状浮線文を施すもの（図版 29-3～6）、沈線文で体部に渦巻や斜位を描くもの（図版 29-7）がある。これらは、丘陵南斜面中部東半（Y24～AD34）に多く出土し、図版 28-1、図版 29-2 などは斜面上部でまとまった状態で出土している。このほか、破片資料が多く出土状況にまとまりがみられない土器の装飾には、刻目文や短沈線文で装飾が描かれ口縁部折返しとなるもの（図版 29-8・9、図版 30-1）、口縁部に縦位の押圧繩文や刺突文が施されるもの（図版 30-2・3）、隆沈線文（図版 30-4・5）、ヒレ状隆線文や沈線文による区画に充填・磨消繩文が伴うもの（図版 30-6～8）、無文（図版 30-9）、輪積痕跡を明瞭に残すもの（図版 30-10）、変形工字文（図版 30-11）がある。

[III b 層]

器種はほとんどが深鉢であるが、鉢、浅鉢、台付鉢、有孔鈍付土器がある。143 点を掲載した。

胎土に纖維を含む土器は、回転押捺施文の繩文以外の装飾を持たないか限定期的な使用のみのものが多い。繩文には、斜行繩文（図版 32-3）、重層末端ループ文（図版 31-1）、側面ループ文（図版 31-2）、非結束羽状繩文（図版 31-3・4、図版 31-9、図版 31-14、図版 32-4）、斜行繩文に結節回転文が伴うもの（図版 31-5）、組紐回転文（図版 31-6）、撚糸文（図版 31-7・8）、結節繩文（図版 31-9・10、図版 31-15・16、図版 32-5）、葺瓦状撚糸文（図版 31-11）、網目状撚糸文（図版 31-12・13）がある。繩文以外の装飾を持つものには、口縁部に沿う沈線文を引くもの（図版 31-14）、半截竹管状工具による刺突文が口縁部に巡るもの（図版 31-15）、波状の平行沈線文を引くもの（図版 31-16）、櫛歯状工具により横位・波状の平行沈線文を引くもの（図版 32-1・2）、押圧繩文を施すもの（図版 32-3・4）、竹管状工具による刺突文を施すもの（図版 32-5）がある。

胎土に纖維を含まない土器には、粘土組貼付文や沈線文、平行沈線文で意匠を描くものが多い。口縁部に沿う粘土組貼付文に刻目文を施すもの（図版 32-6）、粘土組貼付文で、波状・渦巻状・梯子状・格子状やそれらを用いた幾何学的意匠を描くもの（図版 32-7～9、図版 33-1・2、図版 34-1～4、図版 35-1、図版 36-1～3、図版 37-1～4、図版 38-1～4、図版 39-1～4、図版 40-1・2、図版 41-1～3）、電光状や鋸歯状を描くもの（図版 41-4～6、図版 42-1～4、図版 43-1・2）、沈線文で鋸歯状や電光状を描くもの（図版 43-3～6）がある。平行沈線文で、交互弧状を描くもの（図版 43-7～9）、直線的な横位・縦位・斜位の組み合わせや刺突文で意匠が描かれるもの（図版 43-10、図版 44-1～6、図版 45-1～4、図版 46-1～5、図版 47-1・2、図版 48-1～4、図版 49-1～4）、沈線文で体部に渦巻や斜位が描かれるもの（図版 50-1～3）、ソーメン状浮線文（図版 50-4～6）がある。これらは、丘陵南斜面中部東半（Y24～AD34）にかけて多く出土し、図版 33-1、図版 35-1、図版 39-2 などは一個体がまとまって出土している。このほか、破片資料が多く出土状況にま

とまりがみられない土器の無い装飾には、口縁部に折返しや横位・縱位貼付文、短沈線文を伴うもの(図版 51-1 ~ 3、図版 51-5・6)、沈線文で意匠を描き三角状や交互刺突文を施すもの(図版 51-4、図版 51-7・8、図版 52-1 ~ 5)、隆沈線文で体部に区画を施すもの(図版 52-6、図版 53-1)、波頂部に刻目文を持つ突起が付される浅鉢(図版 52-7・8)、隆線文や隆沈線文で意匠を描くものや口縁部に空洞部分を持つ立体突起、S字状突起、縱位の押圧繩文を持つもの(図版 53-2 ~ 11、図版 54-1 ~ 5)、隆沈線文で横位渦巻を描くもの(図版 55-1・2)、沈線文で区画され、充填・磨消繩文(図版 55-3・4)が伴うもの、ヒレ状隆線文に刺突文が沿うもの(図版 55-5)、斜行繩文のみ(図版 55-6)、無文(図版 55-7)、透かしを持つ台付鉢(図版 55-8)、有孔鍔付土器(図版 55-9)、π字文(図版 55-10)、変形工字文(図版 55-11)がある。

[III a 層]

器種は、ほとんどが深鉢で、わずかに浅鉢がある。106点を掲載した。

胎土に纖維を含む土器には、回転押捺施文の繩文以外の装飾を持たないか限定的な使用のものが多い。繩文には、重層末端ループ文(図版 56-1)、側面ループ文(図版 56-2)、非結束羽状繩文(図版 56-1・7)、斜行繩文に結節回転文が伴うもの(図版 56-3)、斜行繩文に附加条が伴うもの(図版 56-4)、撚糸文(図版 56-5)、木目状撚糸文(図版 56-6)、結節繩文(図版 56-7・8・11)、葺瓦状撚糸文(図版 56-9)、網目状撚糸文(図版 56-10)がある。また、繩文以外の装飾を主体とするものには、口縁部に沿う平行沈線文(図版 56-11)、櫛齒状工具による平行沈線文や刺突文(図版 56-12・13)がある。これらの装飾を持つ土器は、破片資料が多いが丘陵南斜面中部東半(Y24 ~ AD34)に多い。

胎土に纖維を含まない土器には、粘土紐貼付文や沈線文、平行沈線文で意匠を描くものが多い。S字状連鎖撚糸文(図版 56-14)、横位の粘土紐貼付文上に刺突文を施すもの(図版 56-15)、粘土紐貼付文で波状・渦巻状・梯子状・格子状やそれらを用いた幾何学的使用を描くもの(図版 57-1 ~ 8、図版 58-1 ~ 4、図版 59-1)、電光状や鋸歯状を施すもの(図版 59-2 ~ 4、図版 60-1 ~ 5、図版 61-1・2)がある。沈線文で横位鋸歯状を施すもの(図版 61-3・4)、平行沈線文で交互弧状を描くもの(図版 61-5・6)、直線的な横位・縱位・斜位の組み合わせや意匠が描かれるものや半截竹管状工具による刺突文を施すもの(図版 61-7 ~ 10、図版 62-1 ~ 7、図版 63-1 ~ 7、図版 64-1)、結節浮線文やソーメン状浮線文を施すもの(図版 64-2 ~ 7)、沈線文で体部に渦巻や斜位を描くもの(図版 64-8)があり、これらは数が多い。多くは無いが、口縁部に折返しや横位・縱位貼付文、短沈線文を伴うもの(図版 64-9、図版 65-1 ~ 9)、交互刺突文(図版 65-10)、隆沈線文で体部をY字に区画するもの(図版 65-11)、口縁部に空洞を持つ立体突起やS字状突起を持つもの(図版 66-1 ~ 6)、口縁部に縱位押圧繩文を持つもの(図版 66-7 ~ 9、図版 67-1・2)、隆沈線文により体部に渦巻を描くもの(図版 67-3 ~ 7)、ヒレ状隆線文や沈線文に充填・磨消繩文が伴うもの(図版 67-8 ~ 11)、輪積痕を明瞭に残すもの(図版 67-12・13)、変形工字文(図版 67-14 ~ 16)、流水工字文(図版 67-17)がある。

(3) SX1 出土土製品

[III c 層]

土製垂飾類（図版 68-1）、土偶（図版 68-2・3）、円盤状土製品（図版 68-4）がある。図版 68-1 は、平面形状が勾玉状を呈し、端部に穿孔がある。図版 68-2 は胎土に纖維を含む板状土偶で、頭部が山形に尖り、その下には膨らんだ乳房が表現されている。乳房の左右には短く尖る腕のような部分が表現、肩部と腕部の境は不明瞭である。体部より下は欠損しているため形態は不明である。図版 68-3 は同じく板状土偶だが、胎土に纖維を含まず、頭部及び体部より下の部分の形状は不明である。表面には、丸いリング状の高まりを持ち、その下には膨らんだ乳房が表現されている。対となる乳房の真ん中からは、下半身へ向けて沈線文が伸びる。背面には、沈線文で区切られた体部上半部に刺突文が施されている。図版 68-4 は、結束第 1 種羽状繩文が施されている土器片を用いた円盤状土製品である。

[III b 層]

土偶（図版 68-5）、円盤状土製品（図版 68-6・7）がある。図版 68-5 は、板状土偶で、頭部、体部下半が欠損しているため形態は不明である。前面、背面ともに半截竹管状工具による平行沈線文で装飾が施されており、前面の体部中央には円形の凹みがある。胎土に纖維は含まれていない。図版 68-6・7 は土器片を用いた円盤状土製品である。どちらも粘土紐貼付文が施された土器を使用している。

[III a 層]

イチジク形土製品（図版 68-8）、土製耳飾（図版 68-9）、土偶（図版 68-10）、円盤状土製品（図版 68-11）、袖珍土器（図版 68-12・13）がある。図版 68-8 は、大部分が欠損しているがイチジク形土製品と考えられる。先端部には前面に刺突文が巡る。図版 68-9 は、土製栓状耳飾と言われるもので、中央に大きく穴が開いたリング状の形態である。図版 68-10 は板状土偶で、頭部や体部下半を欠損しているため形態は不明である。円形の凹みを持ち、その下には膨らんだ乳房が表現されている。欠損しているが、乳房の下方には穿孔が施されていたようである。そのほか、押圧繩文により装飾が施される。図版 68-11 は、土器片を用いた円盤状土製品で、一部に半截竹管状工具による平行沈線文がかかる。図版 68-13 は袖珍土器で、輪積痕を明瞭に残す深鉢形で口唇部には粘土紐貼付文が付く。底部が穿孔されている。図版 68-12 は、破片資料であるが残存部から土器のように外面が湾曲する様子がみられ、図版 68-13 と同様に袖珍土器と考えられる。鋸歯状を区画する横位 2 条の粘土紐貼付文が施されている。

(4) SX1 出土石器・石製品

SX1 では、石器・石製品が 6,174 点出土している。器種別の点数は、石鏃 234 点、尖頭器 49 点、石錐 30 点、石匙 50 点、竈状石器 9 点、打製石斧 33 点、礫器 10 点、磨製石斧 60 点、板状石器 4 点、櫻形石器 222 点、不定形石器 282 点、磨石・敲石類 1,780 点、砥石 30 点、石皿・台石類 82 点、剥片 2,824 点、石核 140 点、石錐 17 点、块状耳飾 12 点、扁平円形容石製品 47 点、有孔石製品 16 点、ヘラ状石製品 1 点、男根状石製品 6 点、石棒・石劍類 161 点、線刻礫 7 点、L 字状石製品

6点、柄付石製品5点、棒状石製品32点、異形石器2点、石器模造品2点、その他の石製品21点である。307点を掲載した。

[III c層]

III c層からは、1,357点出土し、石鎌53点、尖頭器18点、石錐7点、石匙16点、鏃状石器4点、打製石斧19点、礫器4点、磨製石斧10点、楔形石器42点、不定形石器80点、磨石・敲石類392点、砥石14点、石皿・台石類23点、剥片581点、石核38点、石錘6点、玦状耳飾2点、扁平円形状石製品10点、有孔石製品4点、石棒・石剣類22点、線刻鏃1点、柄付石製品2点、棒状石製品6点、異形石器1点、その他の石製品2点である。

石鎌は、基部の形態が四基（図版69-1～3）のものが主体を占めているが、平基（図版69-4～7）のものもみられる。尖頭器は、基部が突出するもの（図版69-8～11）が主体を占めるが、基部に両側から抉りを入れてつまみ部を作出しているもの（図版69-11）や、直線的なもの、抉りを入れているものもみられる。石錐は、尖頭部は一端のみでつまみ部をもつもの（図版69-13）が主体を占めているが、両端に尖頭部を有するもの（図版69-12）もみられる。石匙は、つまみ部に対して先端部が縦方向に長いもの（図版69-14、図版70-1・3）が主体を占めているが、横方向に長いもの（図版69-15）や斜方向に長いものもみられる（図版70-2）。鏃状石器は、両側辺が直線的で刃部がやや開くもの（図版70-4～6）が主体を占めているが、全体の形状が椭円形を呈するもの（図版70-7）もみられる。打製石斧は、全体の形状が椭円形を呈し、裏面に自然面を残したもの（図版70-8、図版71-1・2）が主体を占めている。その他には、刃部がやや開くものもみられる。礫器は、素材礫の長軸端部の片側のみに二次加工が施されるもの（図版71-3）が主体を占めているが、両側に二次加工を施すものもみられる。磨製石斧は、全体を研磨と敲打で整形しているものが主体を占めているが、剥離による整形の痕跡を大きく残すもの（図版71-5）もみられる。また、小型のもの（図版71-4）や刃部のみ研磨により作出し、大部分は自然面の形状を残すもの（図版72-1）もみられる。楔形石器は、対になる2辺1組に両極剥離痕が観察されるもの（図版72-2）が主体を占めているが、対になる2辺2組に両極剥離痕が観察されるものもみられる。不定形石器は、剥片等の縁辺に二次加工を施すもの（図版72-3）が主体を占めているが、面的な二次加工を施すものや尖頭部を作出しているもの（図版72-4）もみられる。磨石・敲石類は、円礫や楕円礫を素材とし、磨面や敲打痕、凹痕を単独もしくは複合的に有するもの（図版72-6、図版73-1、図版75-2・3・6、図版76-3～5）が主体を占めるほか、側面稜部に幅が狭い磨面を有するもの（図版72-5、図版73-2、図版74-1、図版75-1・4）や、椭円形の両端もしくは片端の両側面の対になる箇所に磨面がみられるもの（図版76-2）、70mm以下の小形の礫を素材とし、磨面を有するもの（図版72-7、図版75-5）、280mm以上の大型の礫を素材とし、磨面を有するもの（図版74-2）もみられる。砥石は、扁平な礫を素材とし、数条の溝が確認されるもの（図版77-1～3）である。石皿・台石類は、無縁で断面形が内湾するもの（図版77-4、図版79-1）が主体を占めるほか、無縁で断面形が平坦なもの（図版78-2）や凹部の成形があるもの（図版78-1）もみられる。

石錘は、両縁辺の対になる箇所に剥離が施されているもの（図版79-2）と敲打による凹部が作出

されているものがみられる。块状耳飾は、平面形が円形のもので、中央孔が孔側の長さよりも小さく、扁平のもの(図版79-3)である。扁平円形状石製品は、周縁の全面もしくは一部に剥離を有するもの(図版79-4)のほか、研磨痕などを有するが全体的には自然面が残存しているものや周縁部に研磨による成形がみられるものがある。図版79-5の有孔石製品は、大部分が欠損しているが、中心部に貫通孔が穿たれており、側縁に数条の溝がみられる。石棒・石剣類は、一部に剥離や敲打、研磨がみられるが素材面が多く残存するもの(図版80-1・2)とほぼ全面研磨により成形されているもの(図版80-3)がほぼ同程度みられる。図版80-4の線刻礫は、両面に数条の線刻がみられるものである。線刻がみられる面は研磨により成形されている。図版81-1の柄付石製品は全面に研磨が施されており、浅い抉りを入れて柄部分を作出しているものである。柄部分の末端部は研磨により尖頭部が作出されている。図版81-2の棒形状石製品は、素材礫の片側の一部に研磨が施されて平坦面が作出されているものである。図版81-3の異形石器は、両側辺に抉りを入れて作出したつまみ部を有するものである。つまみ部の形状は2個の突起状に加工されている。片面には面的な加工を施しているが、その逆面はつまみ部と先端部を中心に加工がみられる。

[III b 層]

III b 層からは、2,282点出土し、石鏃92点、尖頭器17点、石錐12点、石匙20点、鎧状石器1点、打製石斧6点、礫器1点、磨製石斧28点、板状石器3点、楔形石器66点、不定形石器84点、磨石・敲石類785点、砥石10点、石皿・台石類29点、剥片918点、石核49点、石錐8点、块状耳飾8点、扁平円形状石製品20点、有孔石製品7点、ヘラ状石製品1点、男根状石製品2点、石棒・石剣類83点、線刻礫3点、L字状石製品5点、柄付石製品3点、棒状石製品15点、石器模造品1点、その他の石製品11点である。

石鏃は、基部の形態が凹基(図版82-1～4・7・9)のものが主体を占めているほか、平基(図版82-5・6・8)のものや円基のものもみられる。また、基部が突出するもの(図版82-10)もみられる。尖頭器は、基部が突出するもの(図版82-13・14)が主体を占めるが、基部に両側から抉りを入れてつまみ部を作出しているもの(図版82-11・16)も同程度みられる。そのほかには、浅い抉りを入れ2個の逆刺を作出しているものもみられる(図版82-12)。石錐は、尖頭部は一端のみで、つまみ部をもつもの(図版83-1・2・4)が主体を占めているが、両端に尖頭部を有するもの(図版83-3)もみられる。石匙は、つまみ部に対して先端部が縱方向に長いもの(図版83-6・7・9～11・14)、横方向に長いもの(図版83-5・9)、斜方向に長いもの(図版83-12・13)が同程度みられる。鎧状石器は、両側辺が直線的で刃部がやや開くもの(図版83-14)がみられる。打製石斧は、刃部がやや開くもの(図版83-15)と左右が非対称のもの(図版84-1)がみられる。礫器は、素材礫の長軸端部の両側に二次加工が施されるもの(図版84-2)である。磨製石斧は、全体を研磨や敲打で整形しているもの(図版84-4、図版85-1・2・4)が主体を占めているが、剥離による整形の痕跡を大きく残すもの(図版85-3、図版86-1)や板状の素材を分割した後に剥離や敲打で成形しているもの(図版84-3)もみられる。板状石器は、円盤状の素材の一部の片側に剥離が施されているもの(図版86-2)と、板状の素材の周縁に剥離が施されているもの(図版86-3)がある。楔形石器は、対にな

る2辺1組に両極剥離痕が観察されるもの（図版87-1～3）が主体を占めているが、対になる2辺2組に両極剥離痕が観察されるものもみられる。不定形石器は、剥片等の縁辺に二次加工を施すもの（図版87-5・6）が主体を占めているが、面的な二次加工を施すもの（図版87-4）や尖頭部を作出しているものもみられる。磨石・敲石類は、円礫や楕円礫を素材とし、磨面や敲打痕、凹痕を単独もしくは複合的に有するもの（図版87-9、図版89-1・3・4、図版90-1・3～5）が主体を占める。その次には、70mm以下の小形の礫を素材とし、磨面を有するもの（図版88-3）が多くなっている。そのほか、側面稜部に幅が狭い磨面を有するもの（図版88-1・2、図版89-2、図版90-2）や、楕円形の両端もしくは片端の両側面の対になる箇所に磨面がみられるもの（図版87-7、図版88-4）も一定数みられる。また、280mm以上の大形の礫を素材とし、磨面を有するもの（図版87-8）もみられる。砥石は、扁平な礫を素材とし、数条の溝が確認されるもの（図版91-1・2）である。石皿・台石類は、無縁で断面形が平坦なもの（図版91-4）が主体を占めるほか、無縁で断面形が外湾するもの（図版92-1）や内湾するもの（図版91-3）、凹部の成形があるものもみられる。

石錘は、両縁辺の対になる箇所に剥離が施されているもの（図版92-2・3）と研磨により凹部が作出されているものが同程度みられる。その他に、敲打により凹部が作出されているものもある。玦状耳飾は、平面形が長方形のもの（図版92-4～6・8・9）が主体を占めるほか、平面形が円形のもので、中央孔が孔側の長さよりも小さく、扁平のもの（図版92-7、図版93-1・2）もみられる。扁平円形状石製品は、研磨痕などを有するが全体的には自然面が残存しているもの（図版93-4）が主体を占めるほか、周縁部に研磨による成形がみられるもの（図版93-3）もみられる。また、周縁の全面もしくは一部に剥離を有するものもみられる。図版93-5の有孔石製品は、全面的に研磨により成形されており、中心に貫通孔がみられるものである。図版93-6のヘラ状石製品は、全面が研磨により成形されており、両面に線刻が施されている。上部は欠損しているが、穿孔の痕跡がみられる。男根状石製品は、全面が研磨により成形されており有頭のもの（図版93-7・8）である。石棒・石剣類は、一部に剥離や敲打、研磨がみられるが素材面が多く残存するもの（図版94-2・4、図版95-4、図版96-2）とほぼ全面研磨により成形されているもの（図版94-3、図版95-1、図版96-3）がほぼ同程度みられる。そのほかには、剥離により角棒状に成形したもの（図版94-1、図版95-3）や剥離や敲打、研磨により成形されているが研磨が一部のみに限られているもの（図版95-2、図版96-1）もみられる。図版96-4の線刻礫は、主に剥離と研磨により成形されており、両面に線刻が施されている。図版97-1のL字状石製品は、L字状を呈している礫の底面に平滑面がみられるものである。柄付石製品は剥離や敲打、研磨により成形され、棒部分を作出しているものである（図版97-2～4）。棒状石製品は、ほぼ全面が研磨により成形され、棒状を呈している（図版98-1・2）。図版98-3の石器模造品は、尖頭部をもち器体が長く細身のものである。基部側は欠損している。

[III a層]

III a層からは、2,221点出土し、石鏃89点、尖頭器12点、石錐11点、石匙13点、箆状石器4点、打製石斧7点、礫器5点、磨製石斧17点、板状石器1点、楔形石器105点、不定形石器108点、磨石・敲石類513点、砥石5点、石皿・台石類26点、剥片1170点、石核44点、石錘2点、玦状耳飾2

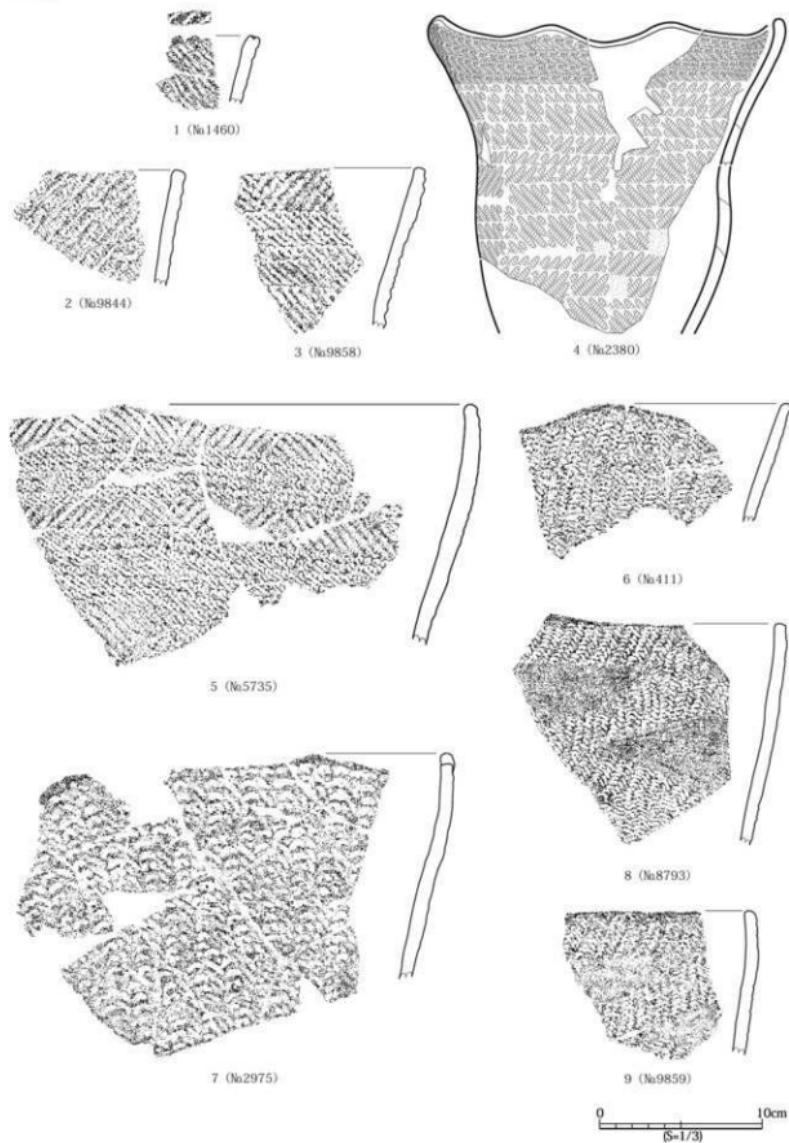
点、扁平円形状石製品 12 点、有孔石製品 5 点、男根状石製品 3 点、石棒・石劍類 43 点、線刻礫 3 点、L 字状石製品 1 点、棒状石製品 11 点、異形石器 1 点、石器模造品 1 点、その他の石製品 7 点である。

石鎌は、基部の形態が凹基（図版 99-1～3・5・13～15・20～24）のものが主体を占めているほか、平基（図版 99-16・19）のものや円基（図版 99-9・12・17）のものもみられる。また、基部が突出するもの（図版 99-6～8・18・25）も他の層よりも多くみられる。基部に両側から抉りが入れられるもの（図版 99-4・11）もみられる。尖頭器は、基部が突出するもの（図版 99-27、図版 100-2・3）が主体を占めるが、基部に両側から抉りを入れてつまみ部を作出しているもの（図版 100-1）や基部に浅い抉りを入れ 2 個の逆刺を作出しているもの（図版 99-26）もみられる。石錐は、尖頭部は一端のみで、つまみ部をもつもの（図版 100-4～8）がみられる。石匙は、つまみ部に対して先端部が縱方向に長いもの（図版 100-10～12、図版 101-1）が主体を占めるほか、横方向に長いもの（図版 100-9）や斜方向に長いもの（図版 100-13・14）もみられる。鎧状石器は、両側辺が直線的で刃部がやや開くもの（図版 101-2）と全体の形狀が楕円形を呈するもの（図版 101-3）がみられる。打製石斧は、刃部がやや開くもの（図版 101-4・5）、全体の形狀が楕円形を呈するもの（図版 102-1）、分銅型を呈するもの（図版 102-2）がみられる。礫器は、素材礫の長軸端部の両側に二次加工が施されるもの（図版 102-3・4、図版 103-1）である。磨製石斧は、全体を研磨と敲打で整形しているもの（図版 103-2・4・5）が主体を占めている。そのほかには、小型で基部が尖るもの（図版 103-3）もみられる。板状石器は、板状の素材の周縁に剥離が施されているもの（図版 104-1）がある。楔形石器は、対になる 2 辺 1 組に両極剥離痕が観察されるもの（図版 104-2～6）が主体を占めているが、対になる 2 辺 2 組に両極剥離痕が観察されるものもみられる。不定形石器は、剥片等の縁辺に二次加工を施すもの（図版 105-1・4・5）が主体を占めているが、面的な二次加工を施すもの（図版 104-7、図版 105-2）や尖頭部を作出しているもの（図版 105-3）もみられる。磨石・敲石類は、円礫や楕円礫を素材とし、磨面や敲打痕、凹痕を単独もしくは複合的に有するもの（図版 105-7・8、図版 107-2・3、図版 108-1～3、図版 109-1～4）が主体を占める。そのほかには、側面稜部に幅が狭い磨面を有するもの（図版 105-6、図版 106-4～6、図版 107-1・4、図版 108-2）や、楕円形の両端もしくは片端の両側面の対になる箇所に磨面がみられるもの（図版 106-3）、70mm 以下の小形の礫を素材とし、磨面を有するもの（図版 106-1・2）もみられる。砥石は、扁平な礫を素材とし、両面に数条の溝が確認されるもの（図版 110-1）であり、それに切られるような敲打痕が素材礫の長軸端部にみられる。石皿・台石類は、無縁で断面形が平坦なもの（図版 110-2）が主体を占めるほか、無縁で断面形が外湾するものや内湾するもの（図版 111-1）がみられるほか、凹部の成形されている有縁のものもみられる。

石鍤は、両縁辺の対になる箇所に剥離により凹部が作出されているもの（図版 111-2）と敲打により凹部が作出されているものがみられる。玦状耳飾は、平面形が円形のもので、中央孔が孔側の長さよりも小さく、扁平のもの（図版 111-3）と長方形のものがみられる。扁平円形状石製品は、周縁に研磨による成形がみられるものが主体を占めるほか、研磨痕などを有するが全体的には自然面が残存しているものや周縁の全面もしくは一部に剥離を有するもの（図版 111-4）もみられる。図版 111-5

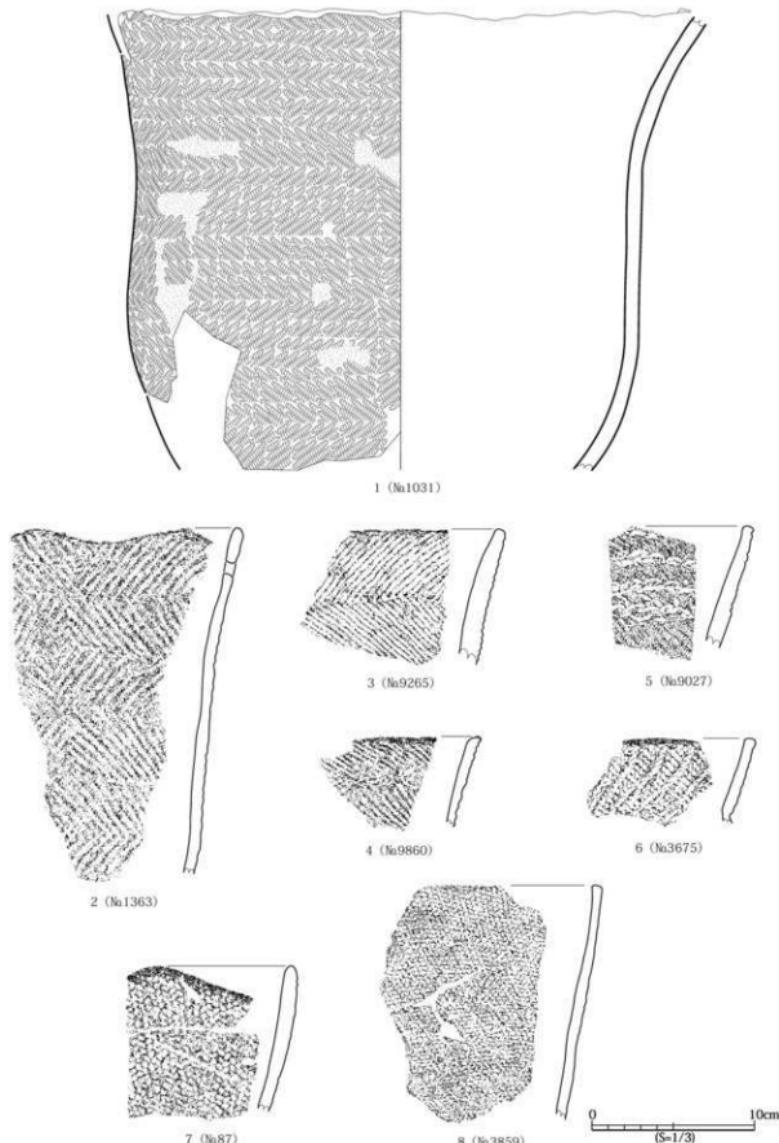
の有孔石製品は、一部に研磨により成形がみられ、中心より上端部側に貫通孔がみられるものである。男根状石製品は、全面が研磨により成形されており、一端が有頭のもの（図版 112-1・2、図版 113-1）である。石棒・石剣類は、ほぼ全面研磨により成形されているもの（図版 113-4）が主体を占めているほかには、剥離により角棒状に成形したものや剥離や敲打、研磨がみられるが、自然面が多く残存しているもの（図版 113-3・5）、剥離や敲打、研磨により成形されているが研磨が一部のみに限られているものもみられる。線刻疊は、主に研磨により成形されており、両面に線刻が施されているもの（図版 114-1）と研磨などによる成形はみられないものの片面に線刻がみられるもの（図版 114-2）がある。棒状石製品は、ほぼ全面が研磨により成形され、棒状を呈しているものである（図版 114-3・4）。図版 114-5 の異形石器は、両側辺に抉りを入れて作出したつまみ部を有するものである。先端部の形状は長さの異なる 2 個の逆刺を作出している。図版 114-6 の石器模造品は、尖頭部をもち器体が長く細身のものである。基部は直線的に成形されている。図版 114-7 のその他の石製品は、分銅型を呈しており、一端は三叉に分かれるような形状が作出されている。

IIIc層



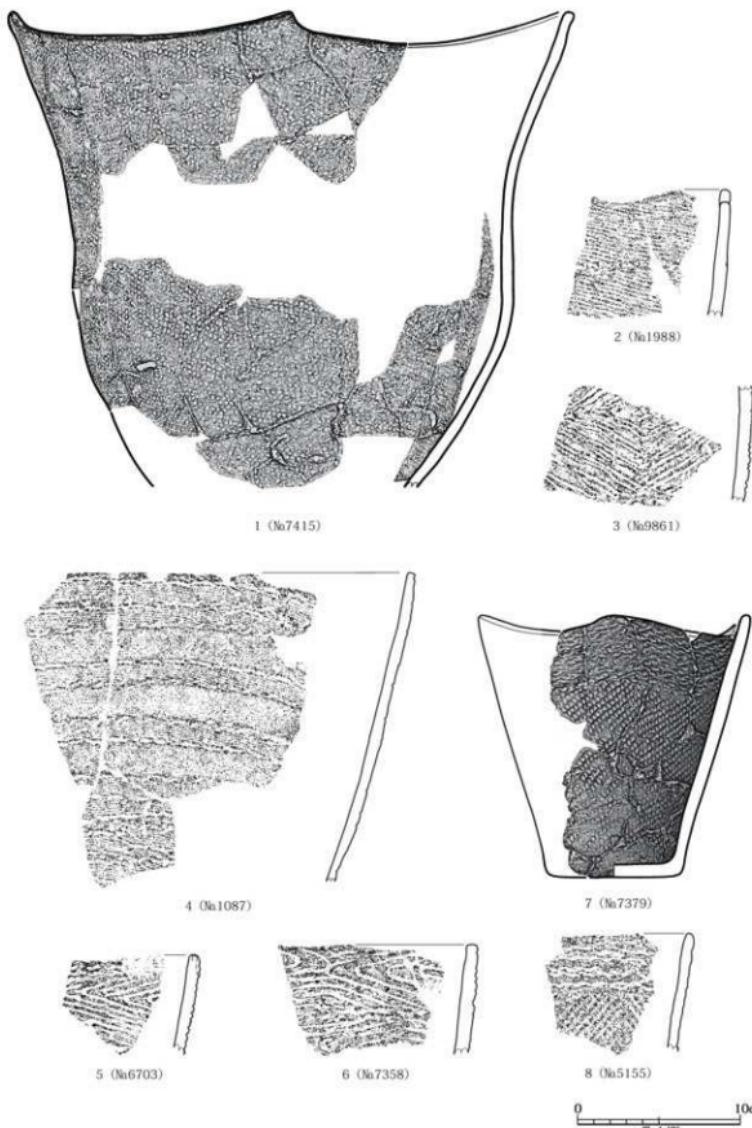
図版 17 SX1 出土土器 (1)

IIIc層



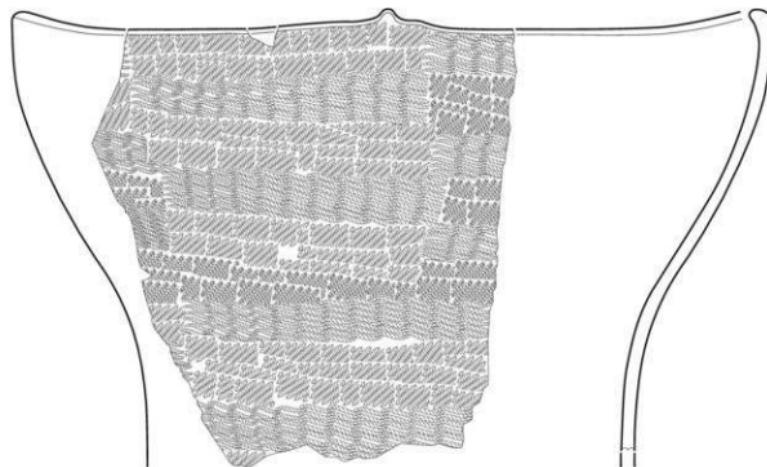
図版 18 SX1 出土土器 (2)

IIIc層

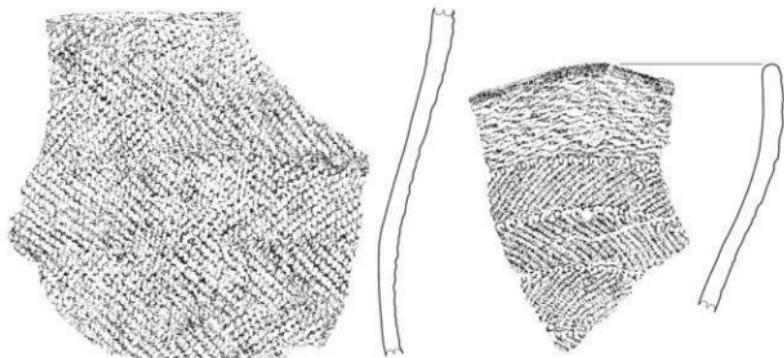


図版19 SX1 出土土器 (3)

IIIc層

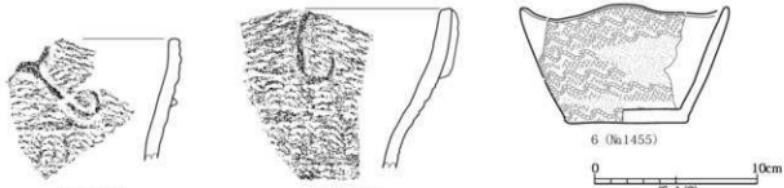


1 (No. 7430)



2 (No. 9546)

3 (No. 6671)



4 (No. 6415)

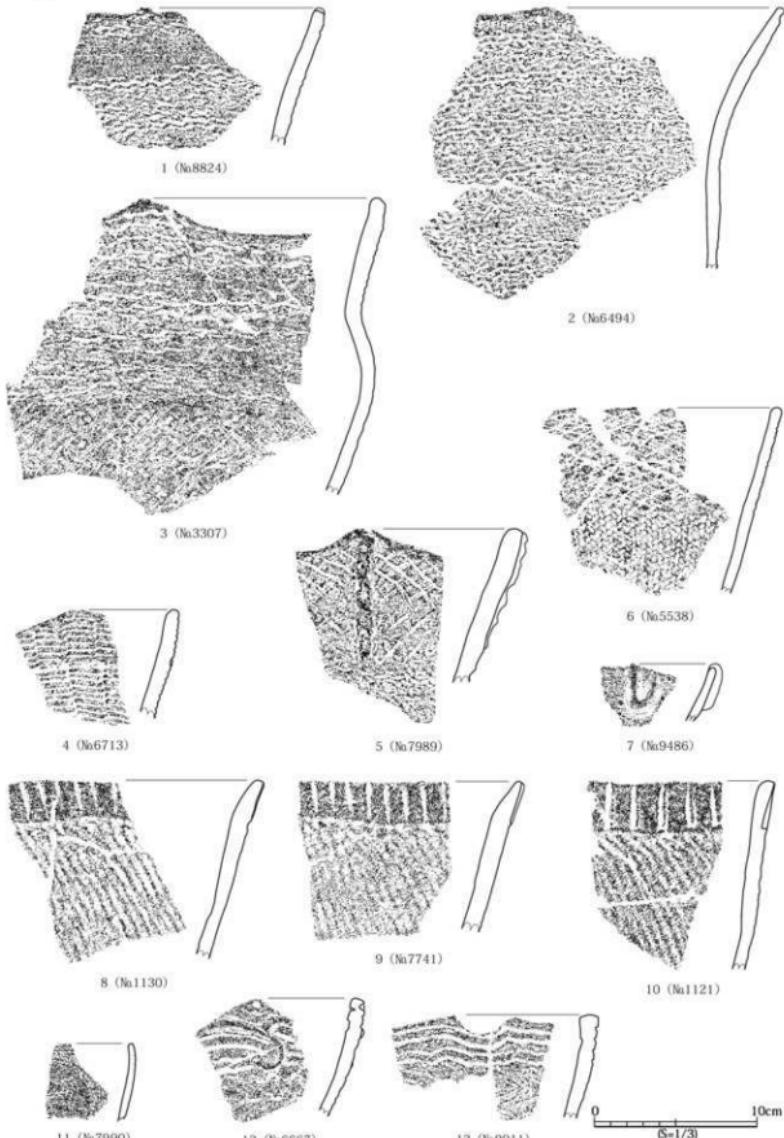
5 (No. 1918)

6 (No. 1455)

0
(S=1/3)
10cm

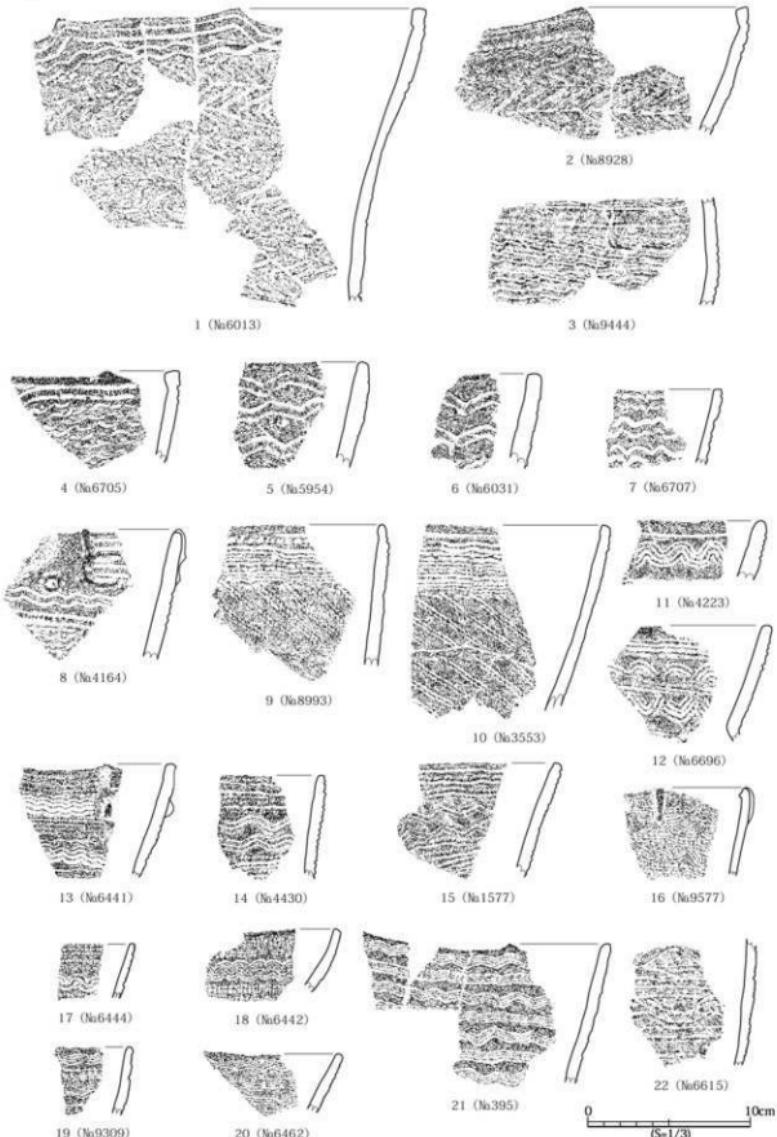
図版 20 SX1 出土土器 (4)

IIIc 層



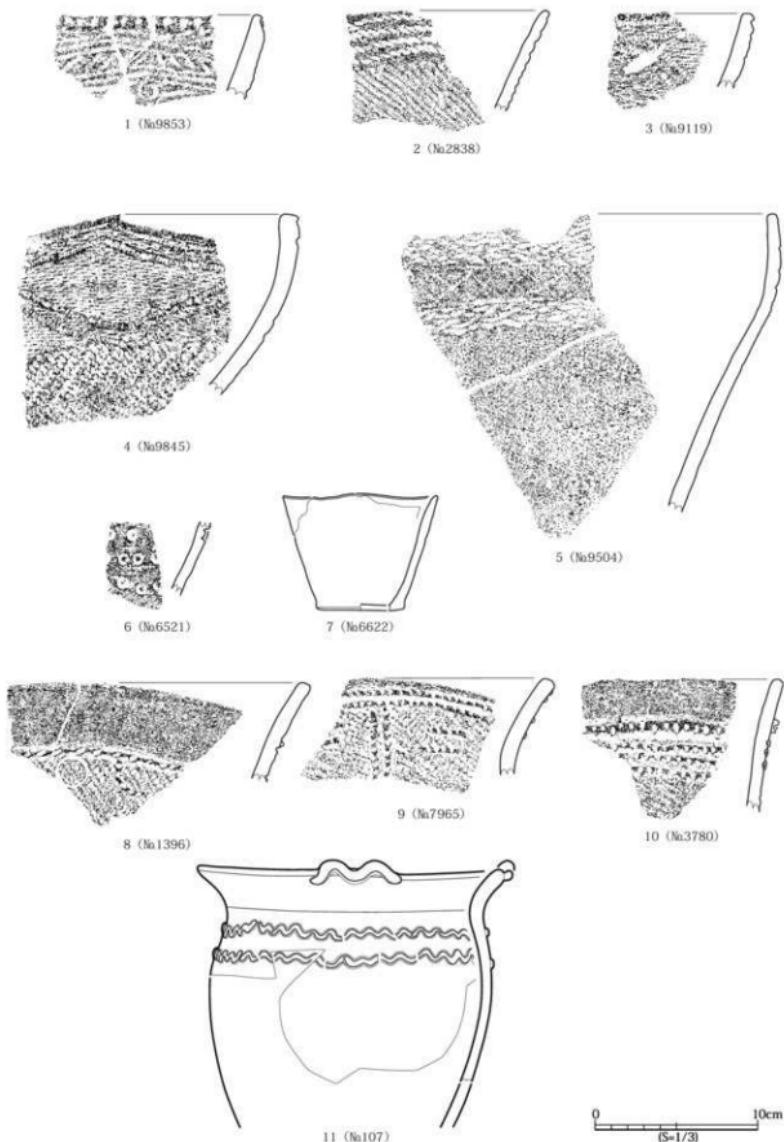
图版 21 SX1 出土土器 (5)

IIIc層



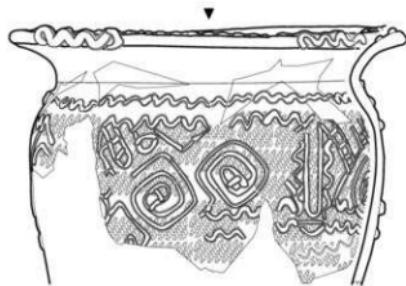
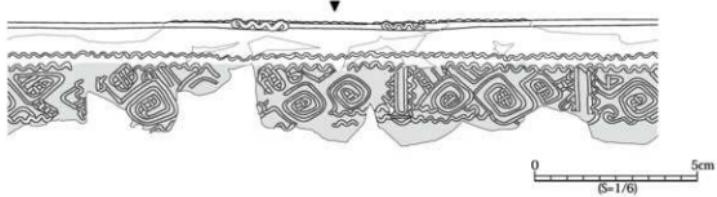
図版22 SX1 出土土器（6）

IIIc層

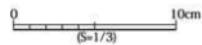


図版23 SX1 出土土器(7)

IIIc層

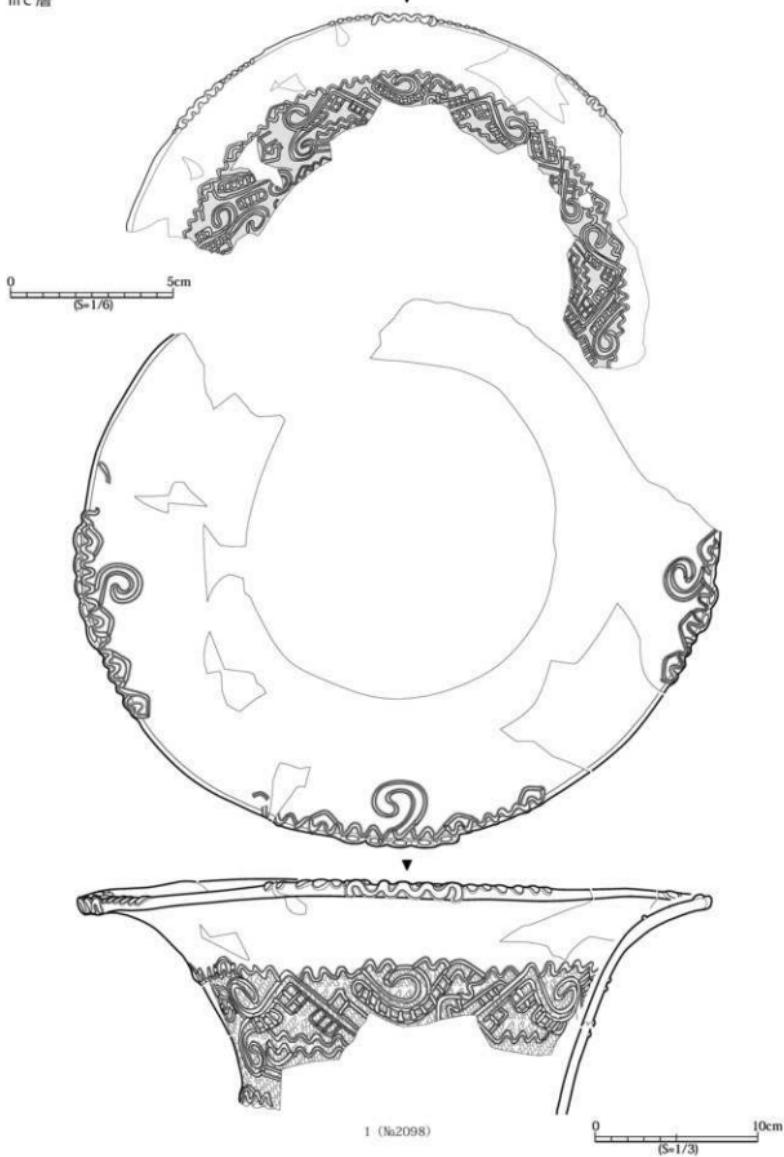


I (No.2100)



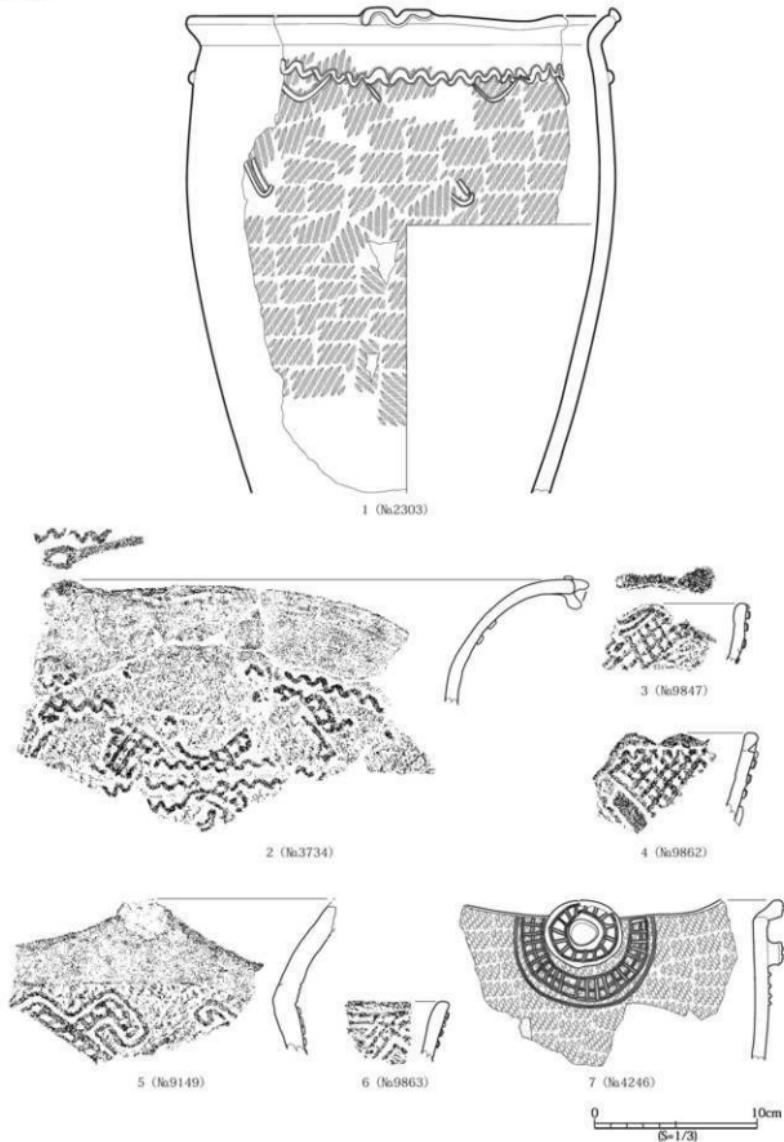
図版 24 SX1 出土土器 (8)

IIIc層



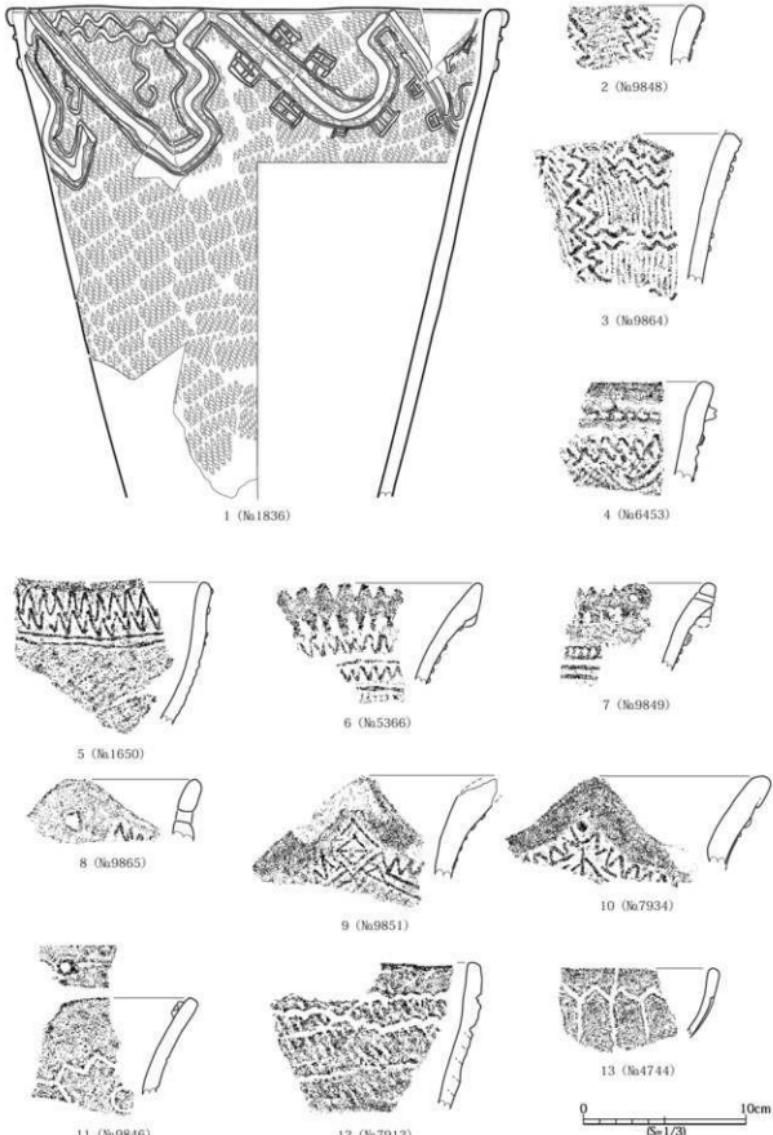
図版 25 SX1 出土土器 (9)

IIIc 層



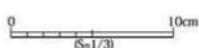
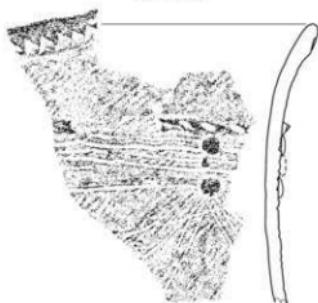
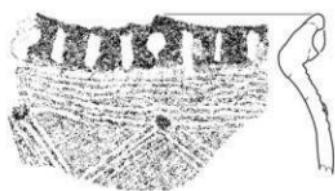
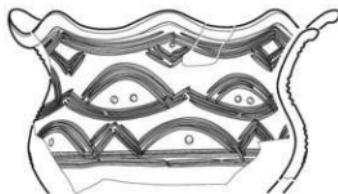
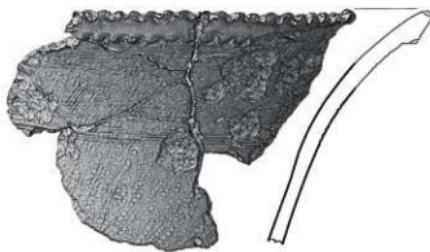
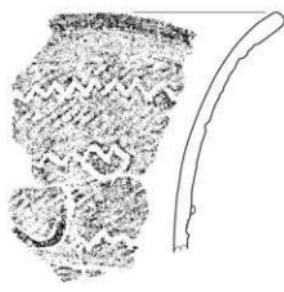
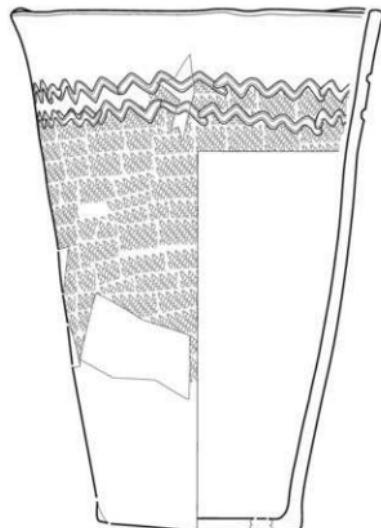
図版 26 SX1 出土土器 (10)

IIIc層



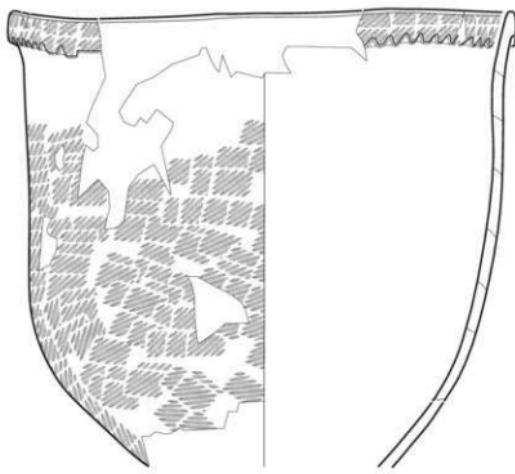
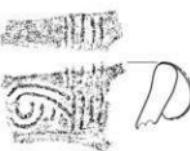
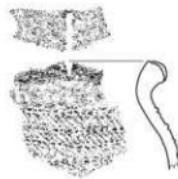
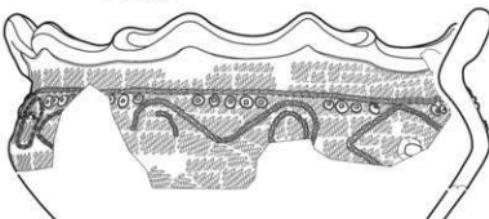
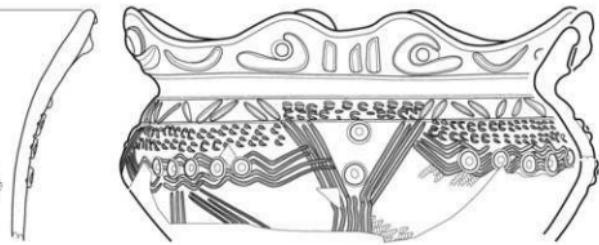
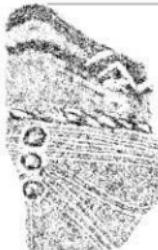
図版 27 SX1 出土土器 (11)

IIIc層



圖版 28 SX1 出土土器 (12)

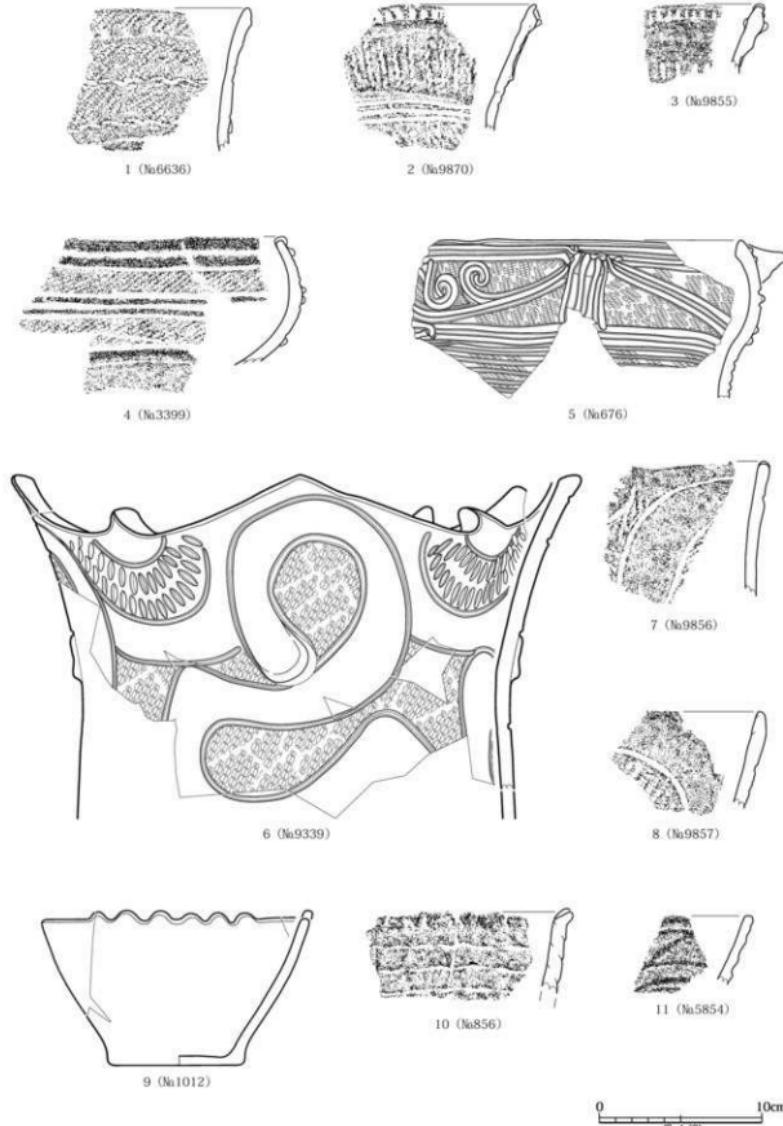
IIIc 層



0 10cm
S=1/3

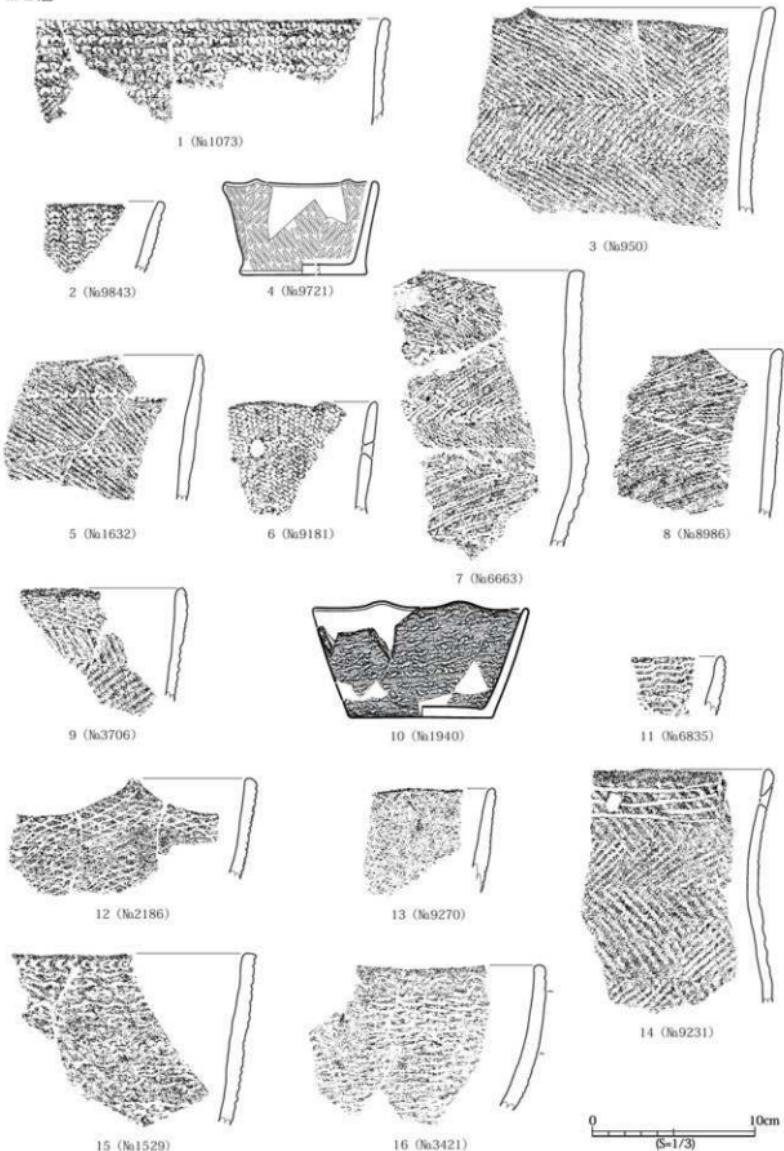
図版 29 SX1 出土土器 (13)

IIIc層



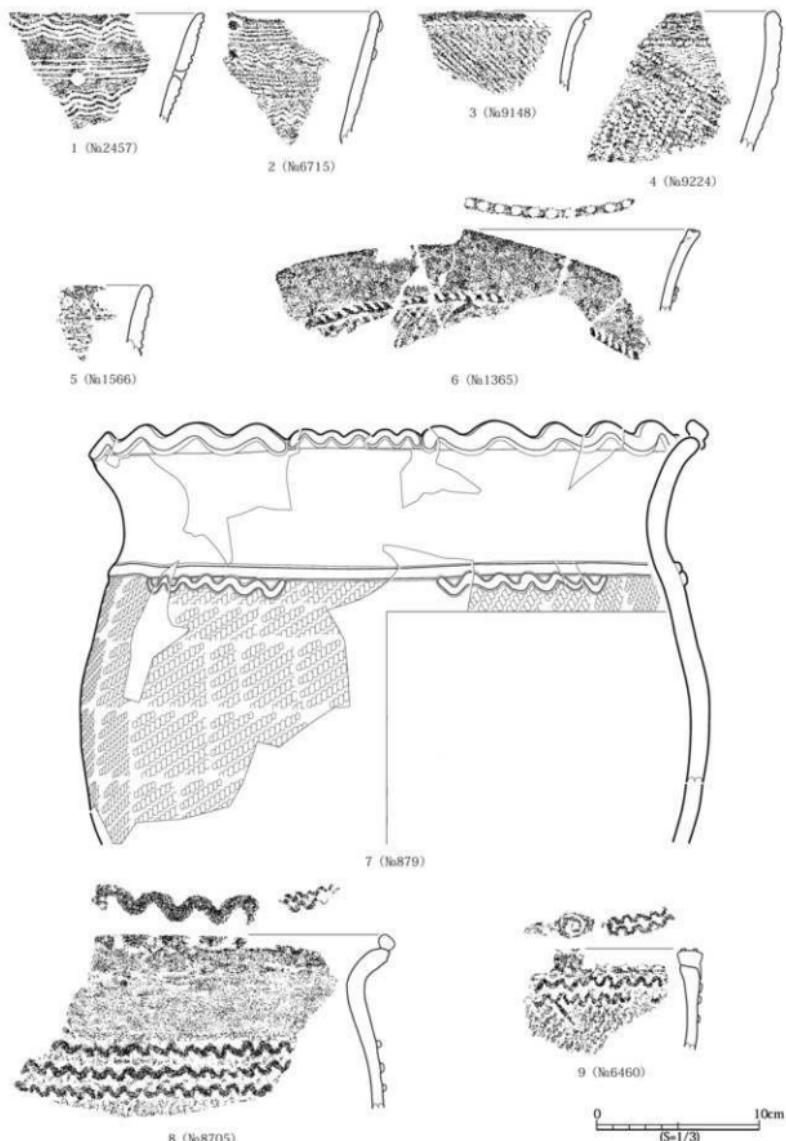
図版 30 SX1 出土土器 (14)

III b 層



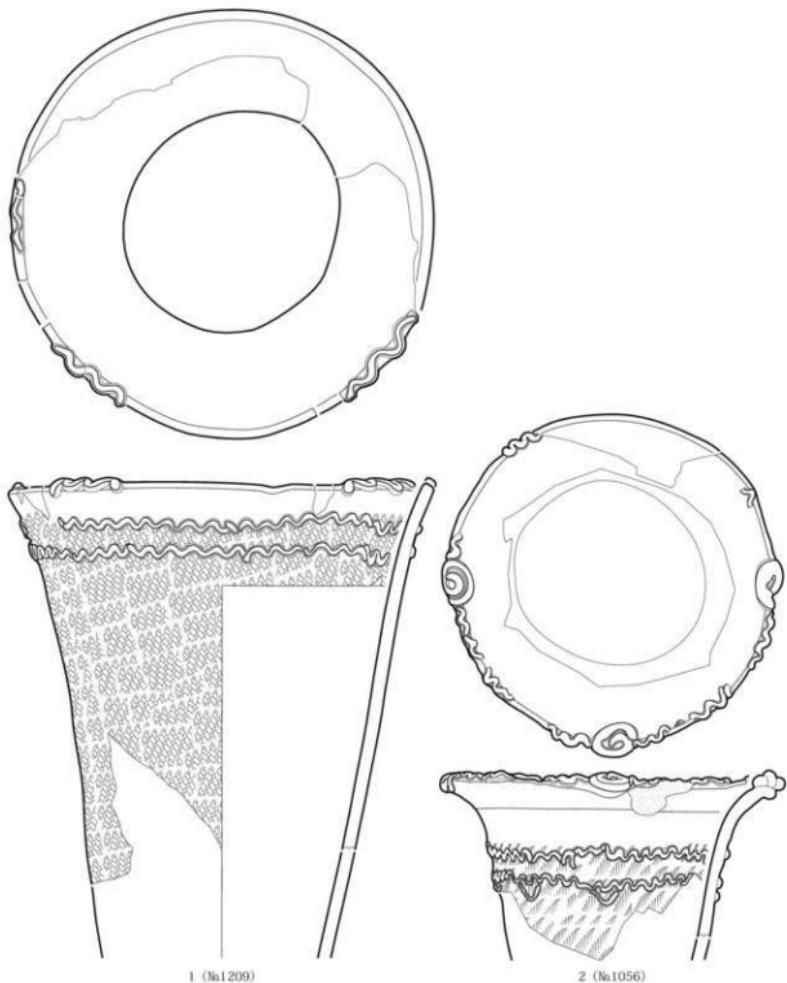
図版 31 SX1 出土土器 (15)

III b層



図版 32 SX1 出土土器 (16)

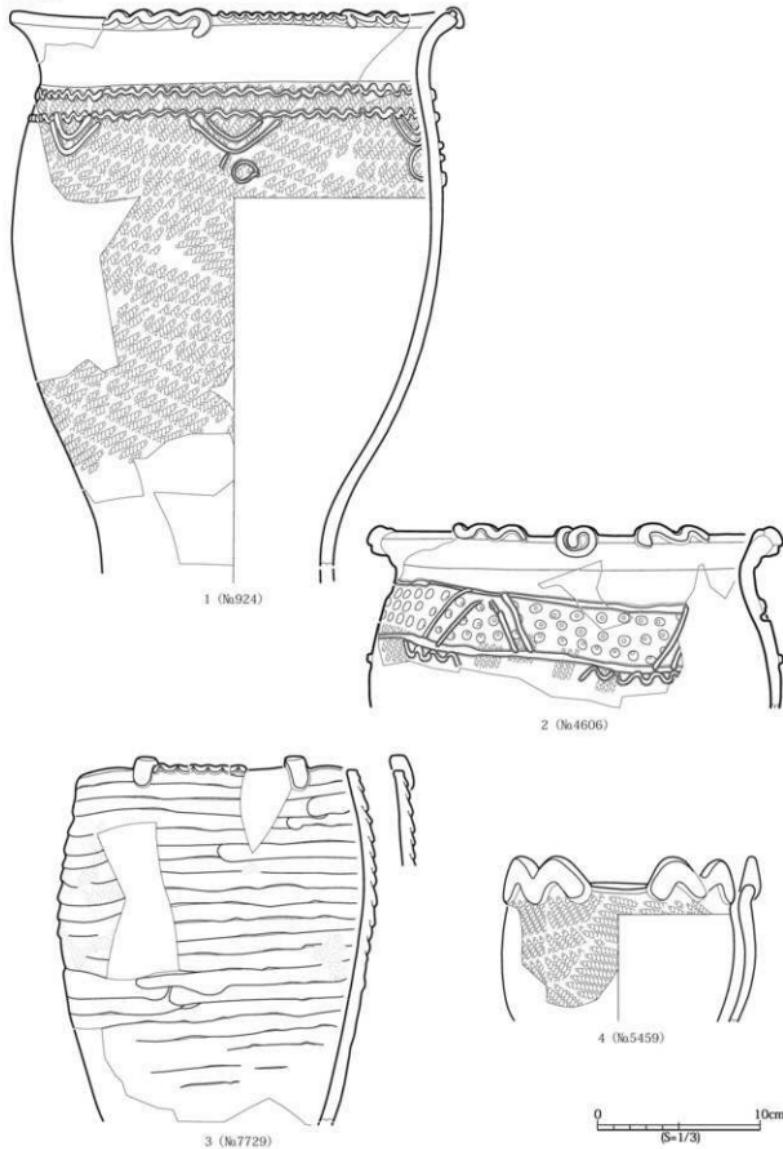
III b 層



0
10cm
(S=1/3)

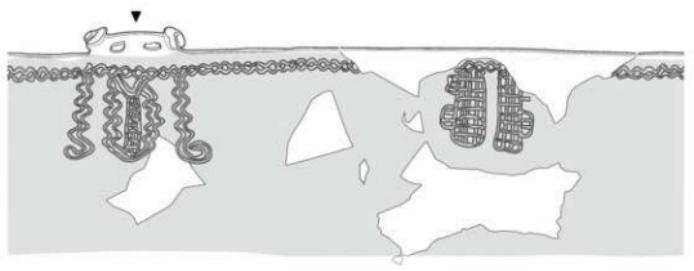
図版 33 SX1 出土土器 (17)

III b 層

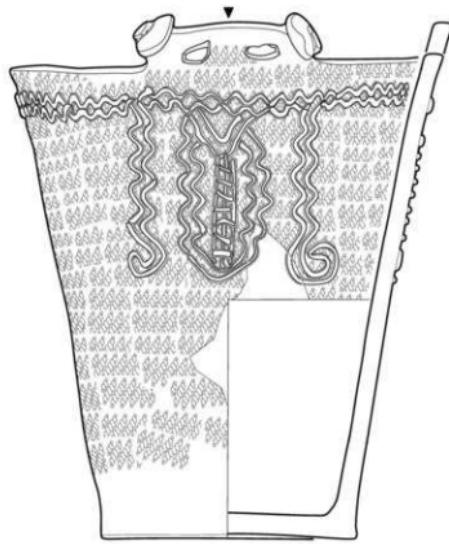


図版 34 SX1 出土土器 (18)

III b層



0 5cm
(S-1/6)

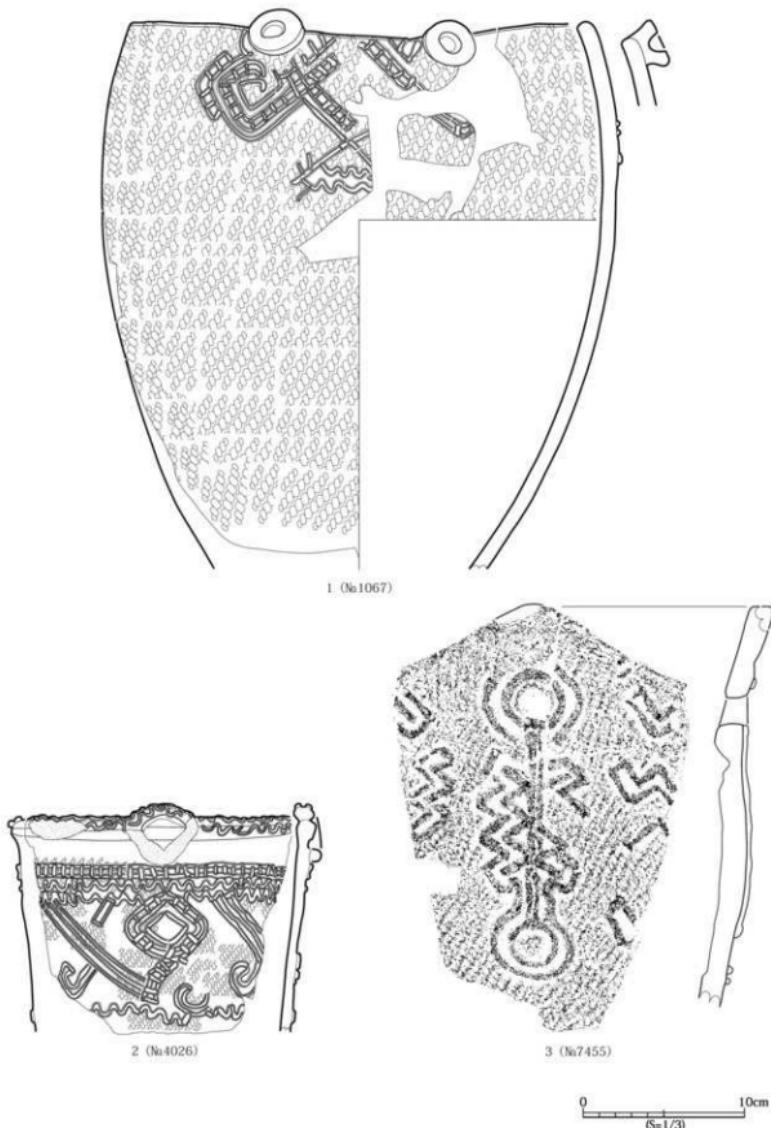


1 (No1143)

0 10cm
(S-1/3)

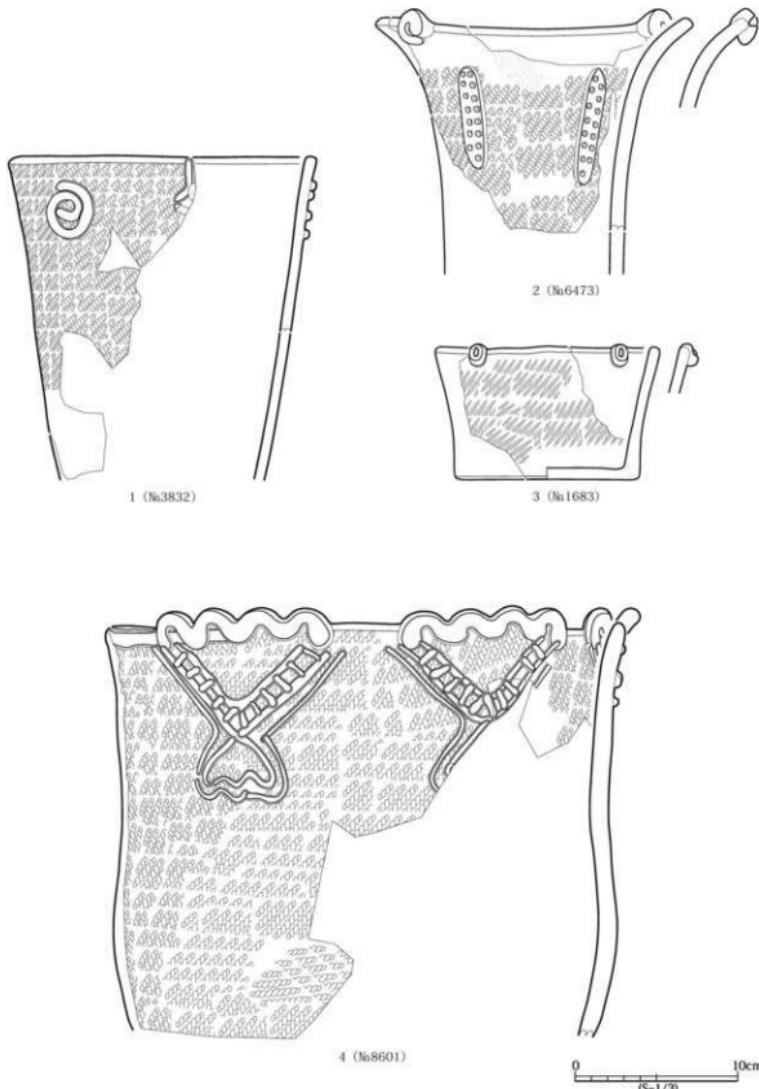
図版 35 SX1 出土土器 (19)

III b 層



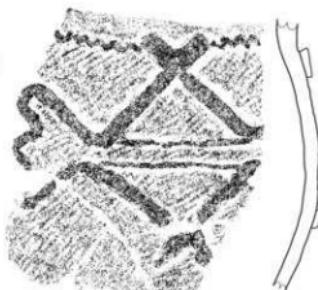
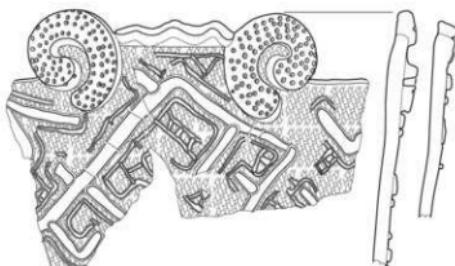
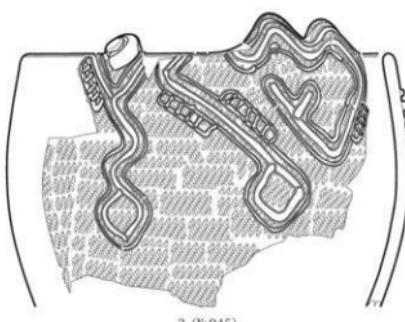
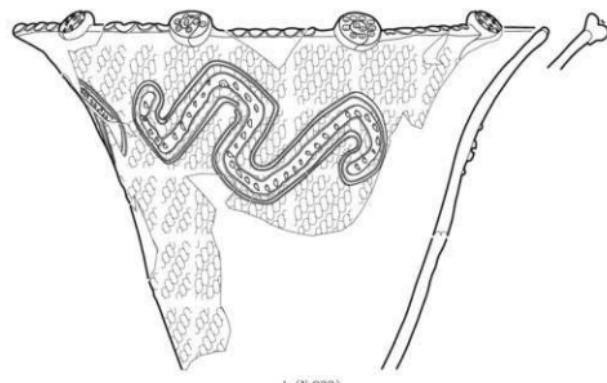
図版 36 SX1 出土土器 (20)

III b 層



図版 37 SX1 出土土器 (21)

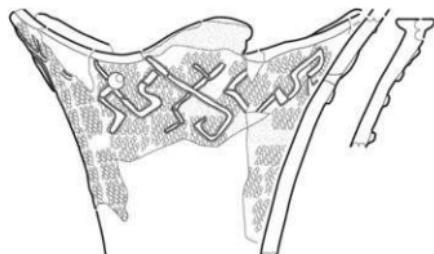
III b 層



0 10cm
(S=1/3)

図版 38 SX1 出土土器 (22)

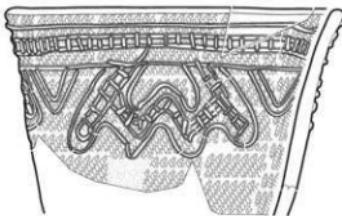
III b 層



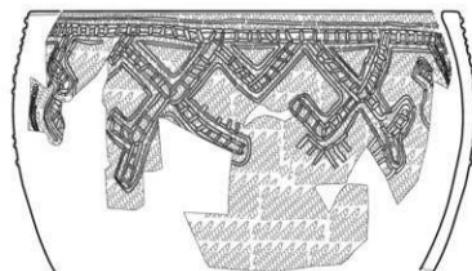
1 (No.934)



2 (No.2383)



3 (No.5071)

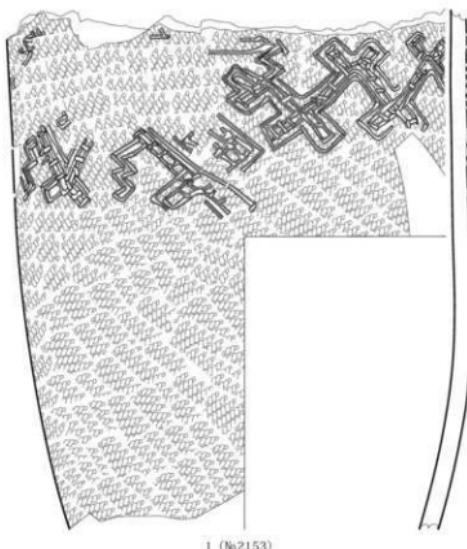


4 (No.2255)

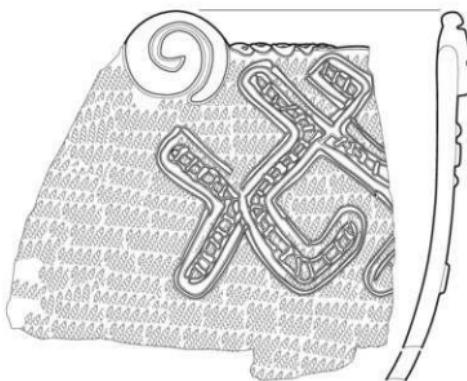
0 10cm
(S=1/3)

図版 39 SX1 出土土器 (23)

III b層



1 (No.2153)

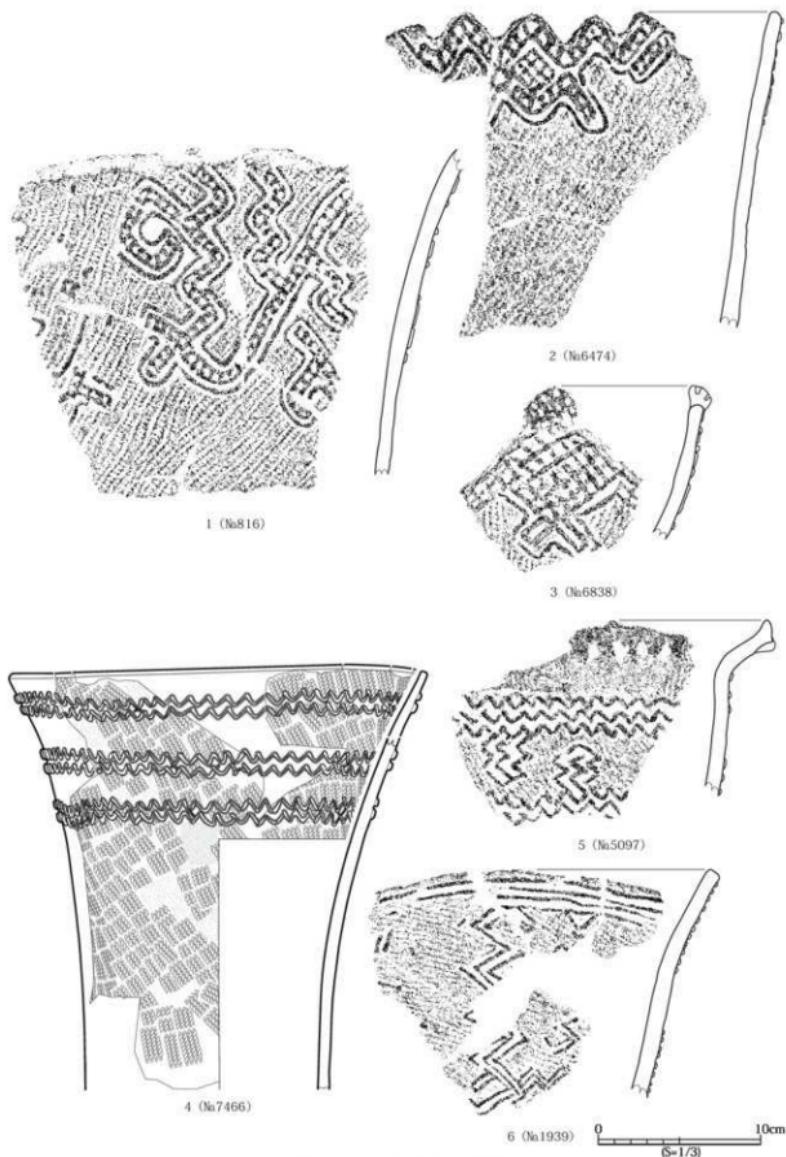


2 (No.6121)



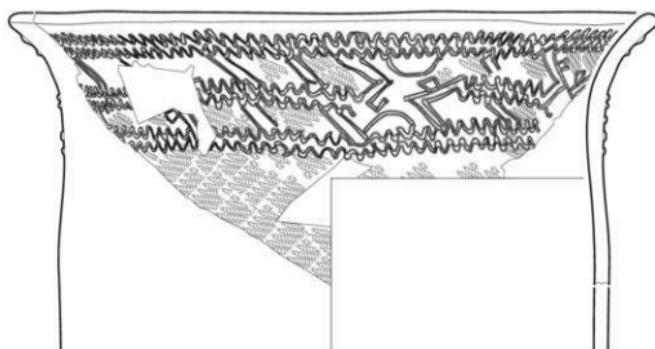
図版 40 SX1 出土土器 (24)

III b 層

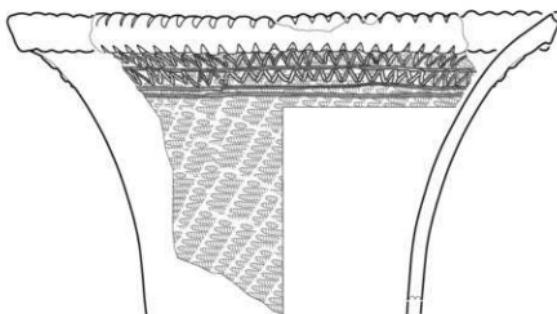


図版 41 SX1 出土土器 (25)

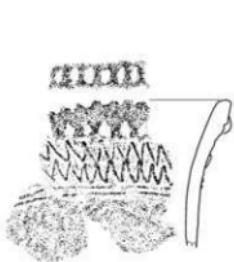
III b 層



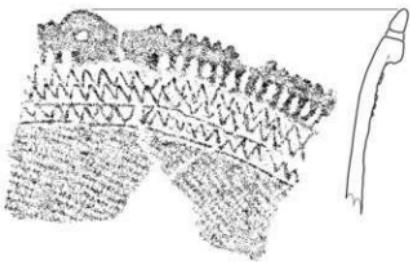
1 (No.6072)



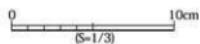
2 (No.4689)



3 (No.5649)

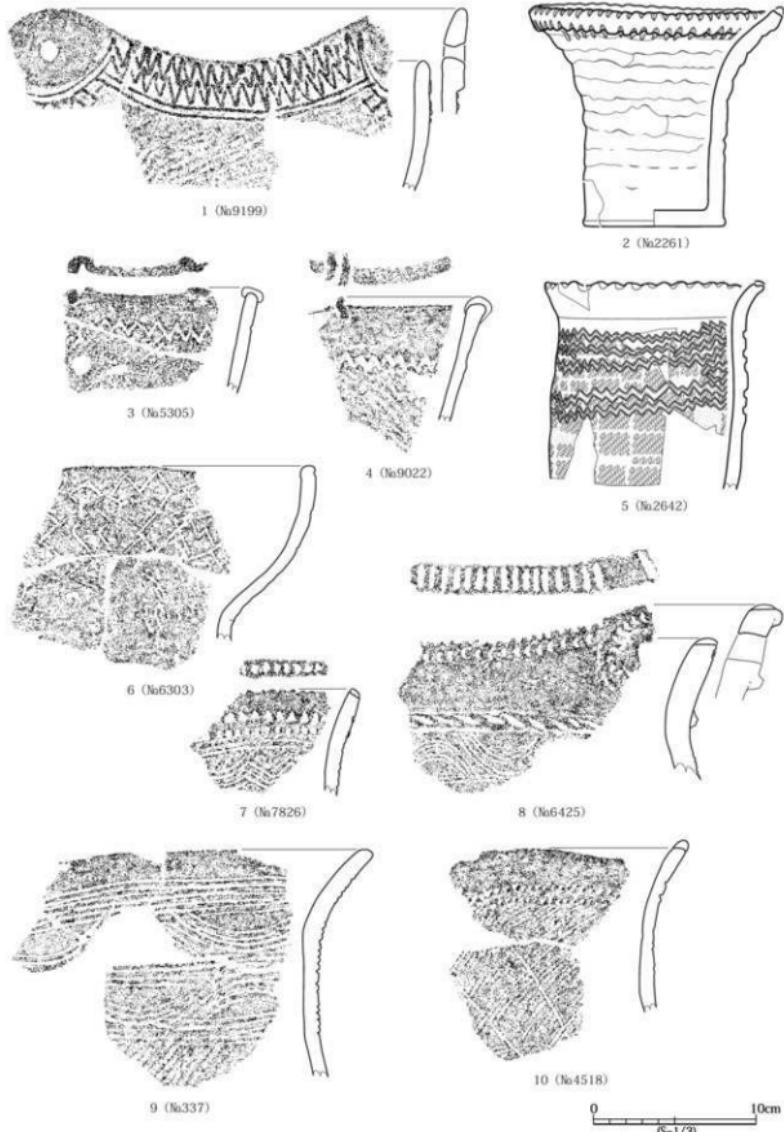


4 (No.6039)



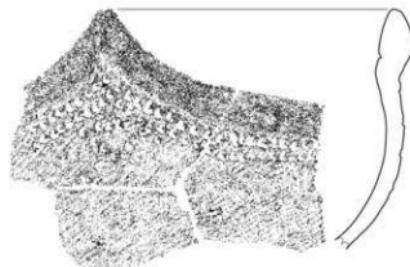
図版 42 SX1 出土土器 (26)

III b 層



図版 43 SX1 出土土器 (27)

III b層



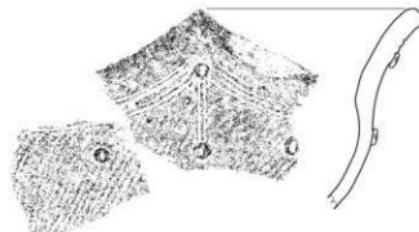
1 (No3305)



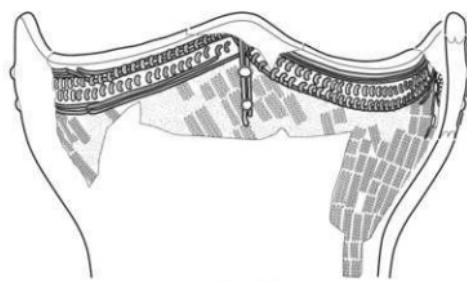
2 (No9299)



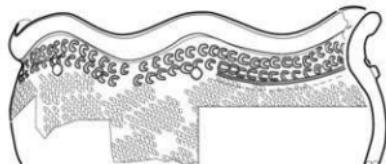
3 (No4147)



4 (No9533)



5 (No3425)

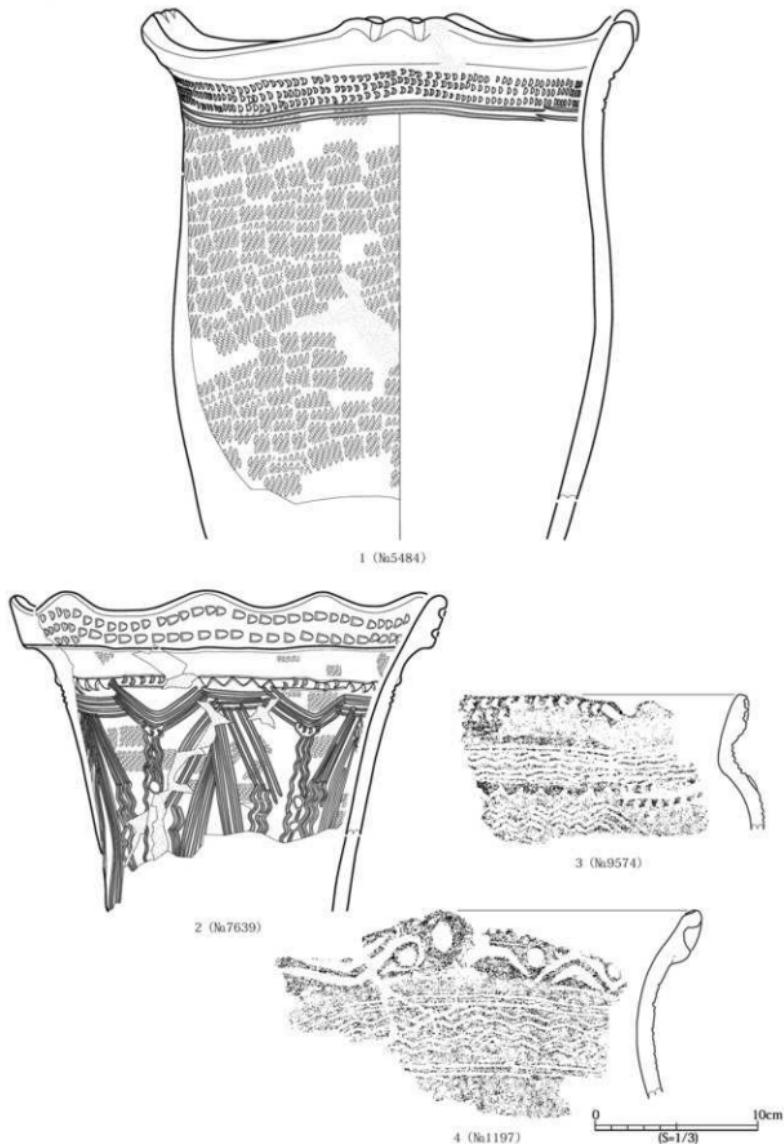


6 (No3116)

0
(S=1/3) 10cm

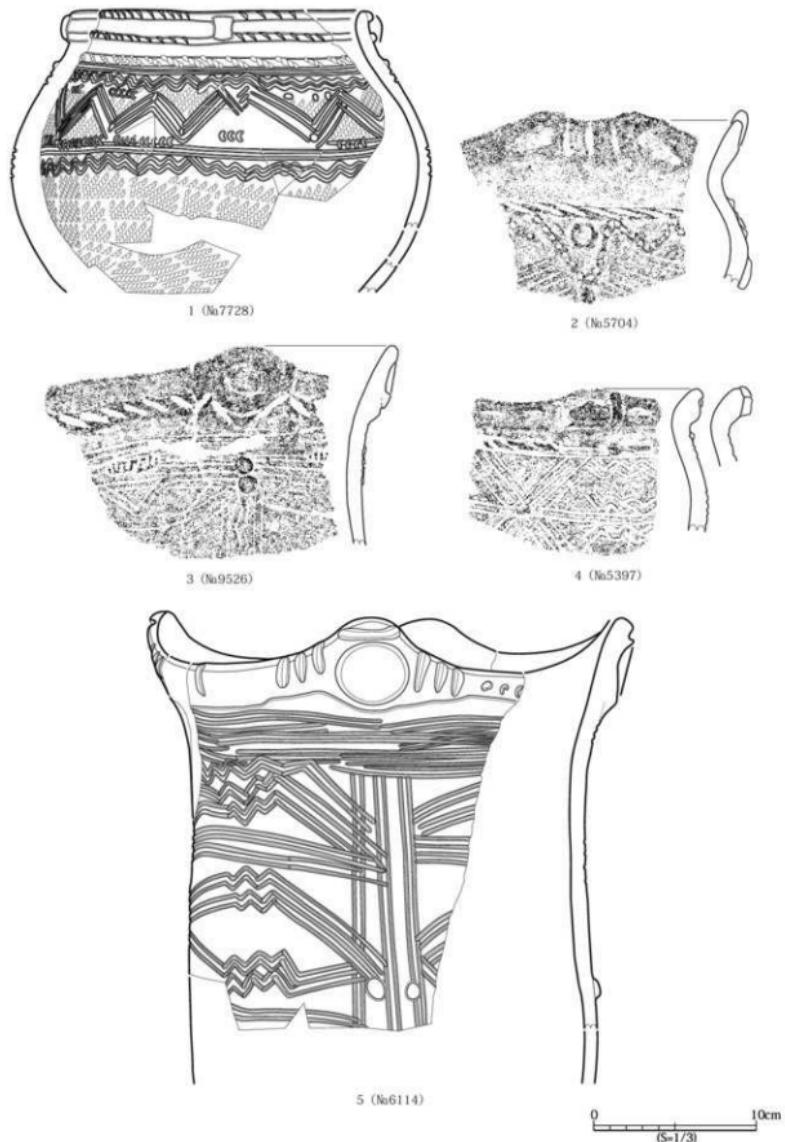
図版 44 SX1 出土土器 (28)

III b 層



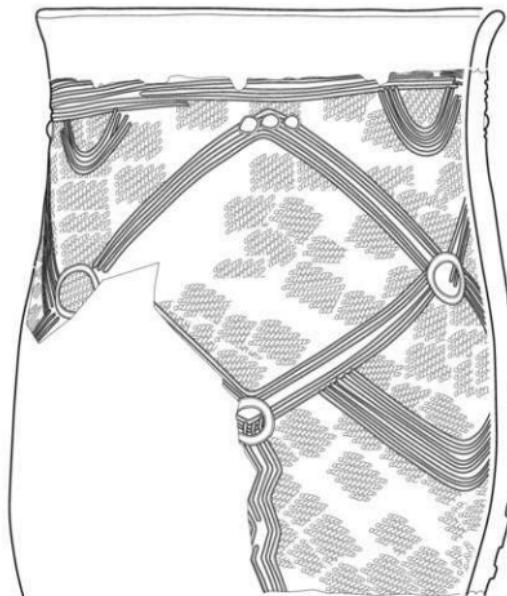
図版 45 SX1 出土土器 (29)

III b層

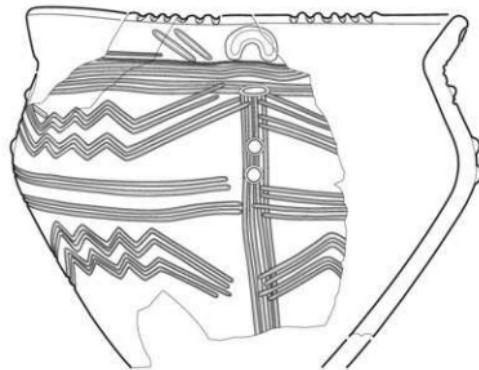


図版 46 SX1 出土土器 (30)

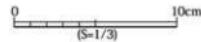
III b 層



1 (No.865)

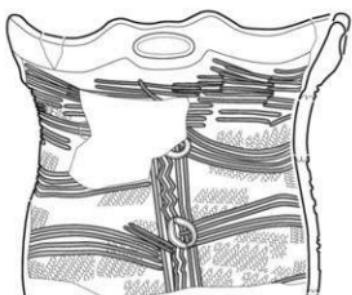


2 (No.1543)

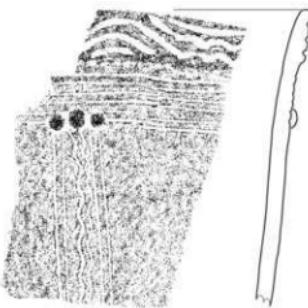


図版 47 SX1 出土土器 (31)

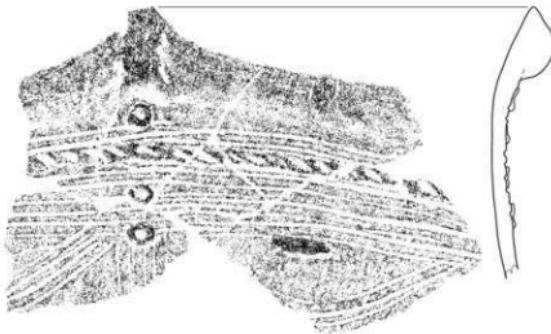
III b層



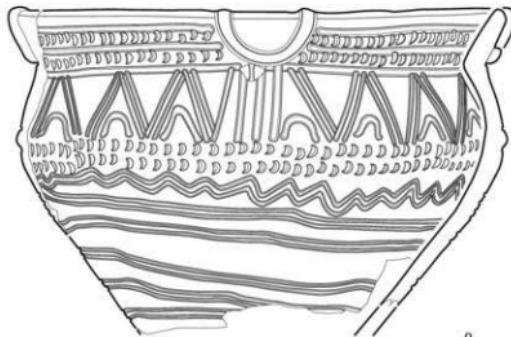
1 (No.3239)



2 (No.3037)



3 (No.2710)

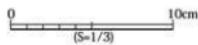
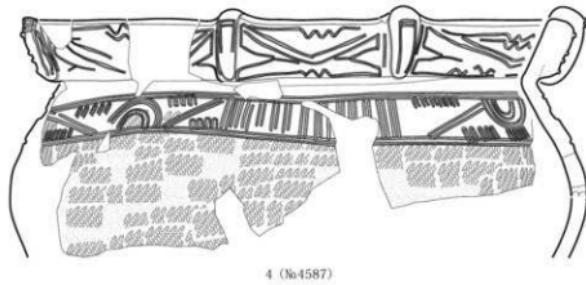
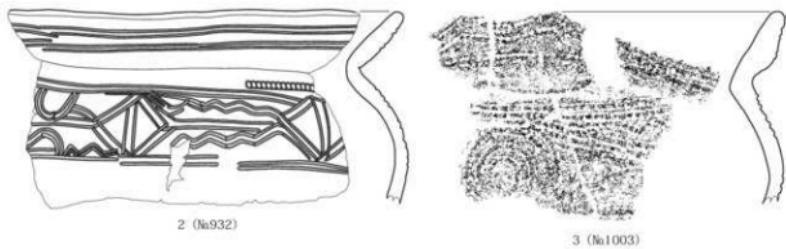
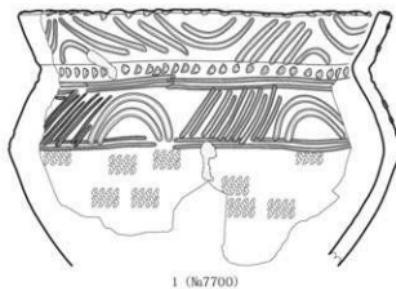


4 (No.7701)

0
10cm
(S=1/3)

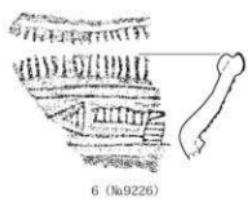
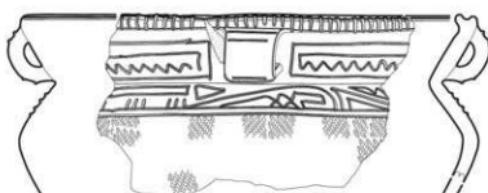
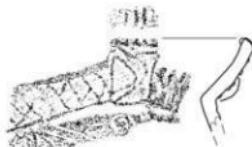
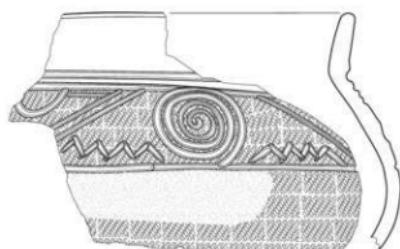
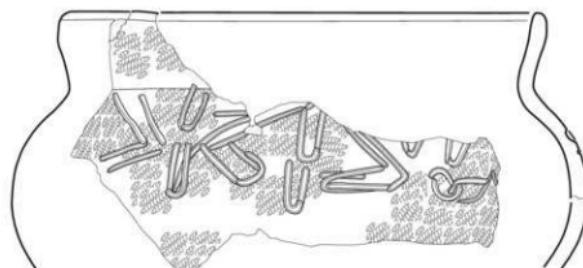
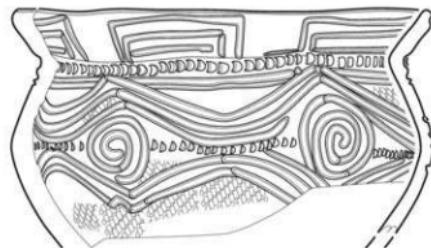
図版 48 SX1 出土土器 (32)

III b 層



図版 49 SX1 出土土器 (33)

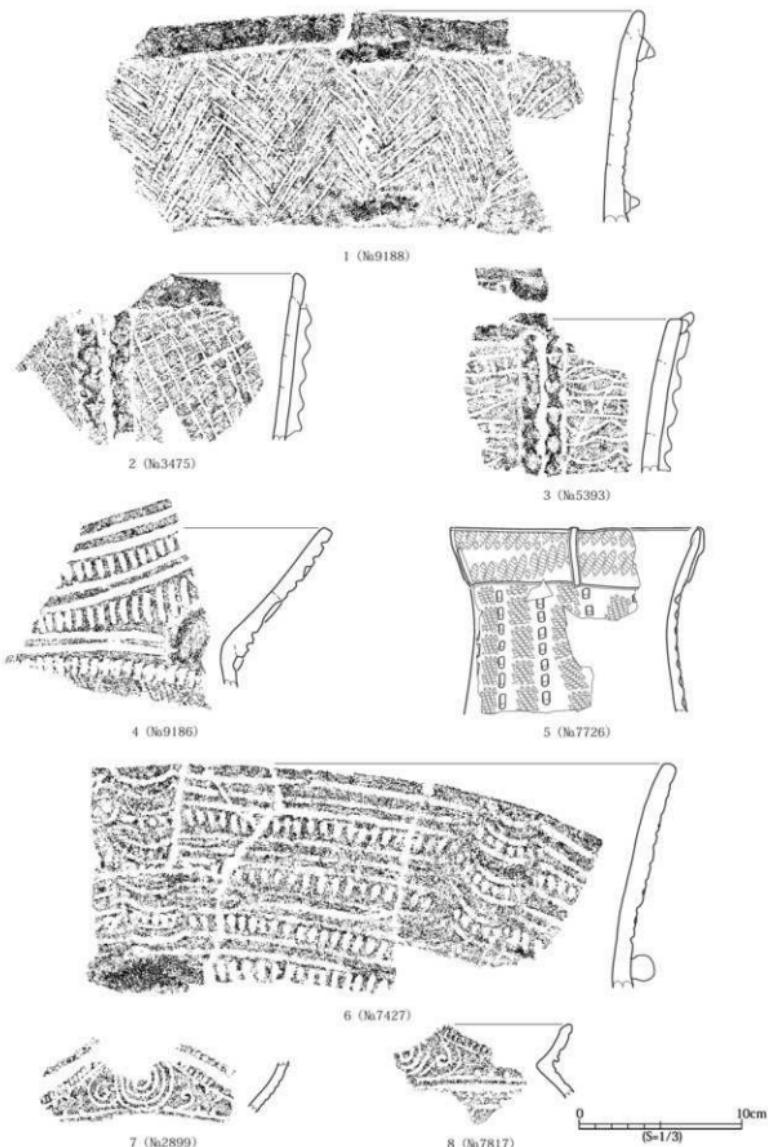
III b 層



0 10cm
(S=1/3)

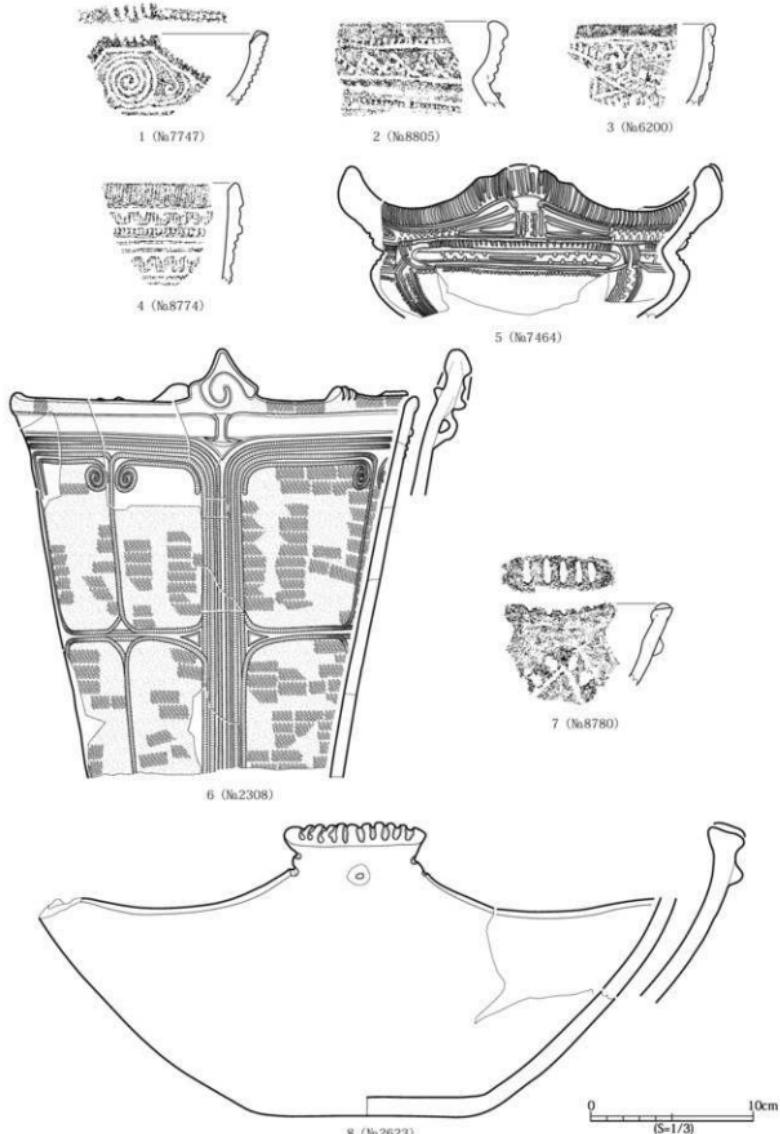
図版 50 SX1 出土土器 (34)

III b 層



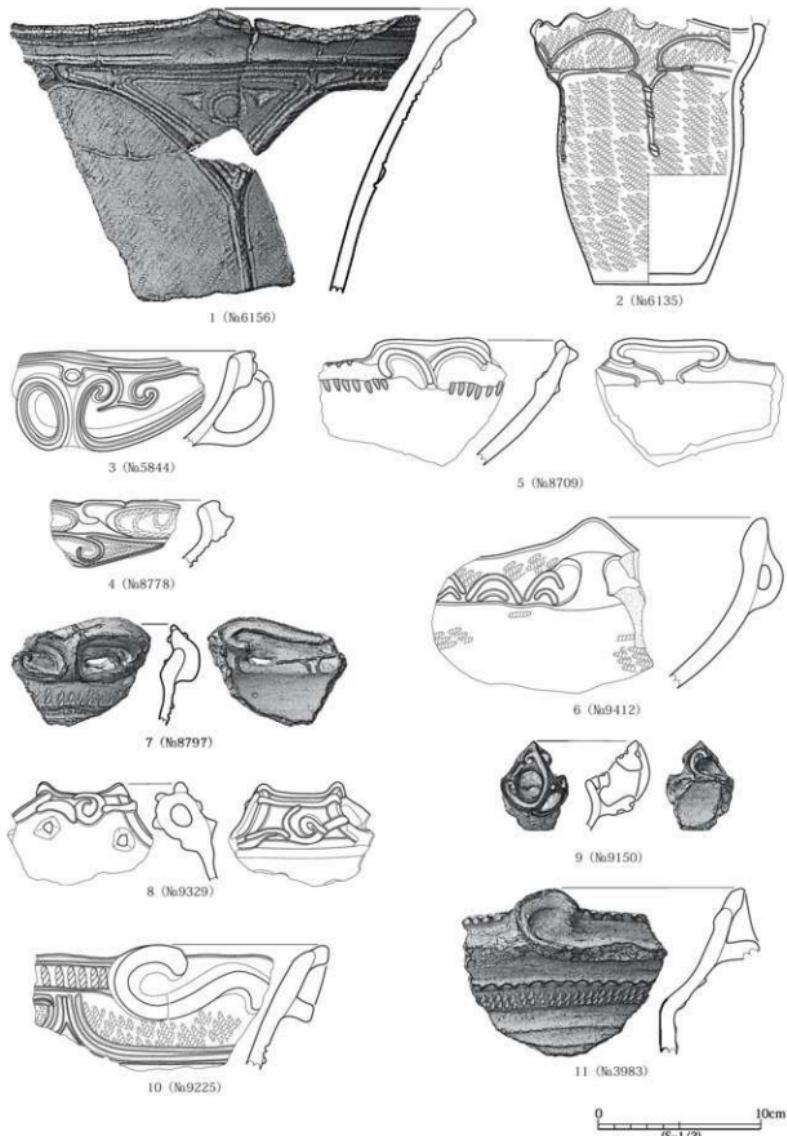
図版 51 SX1 出土土器 (35)

III b層



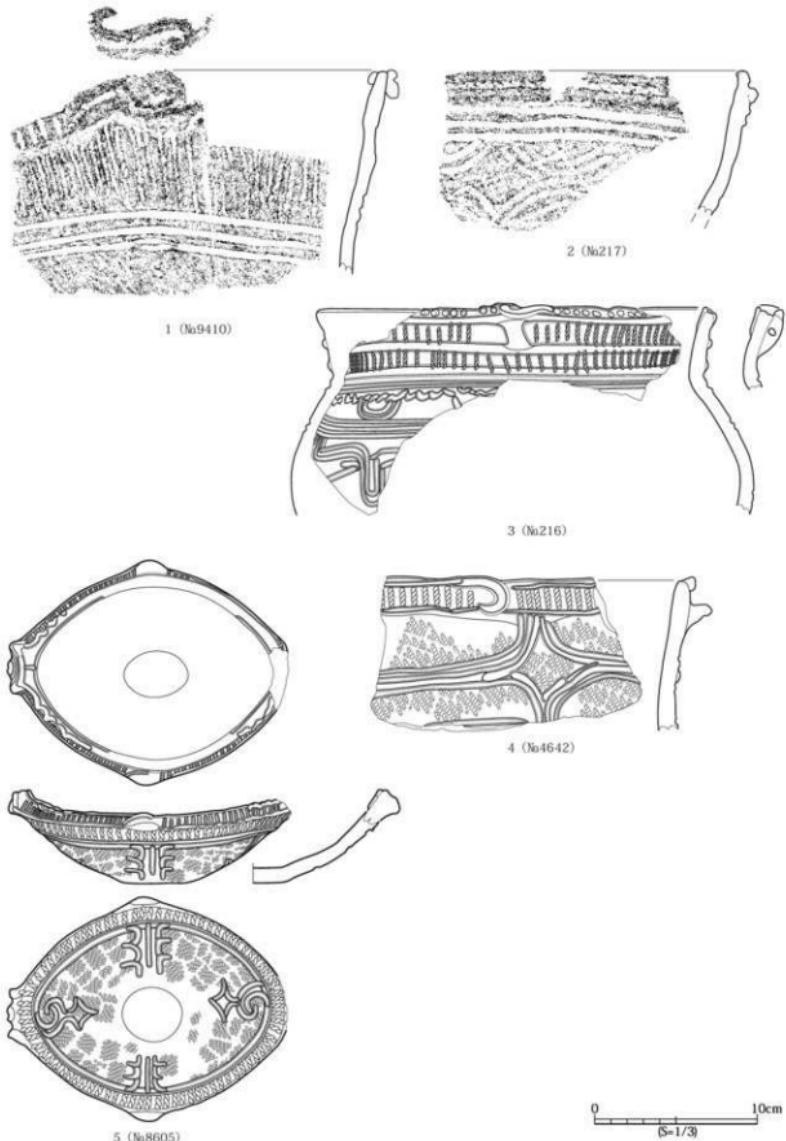
図版 52 SX1 出土土器 (36)

III b 層



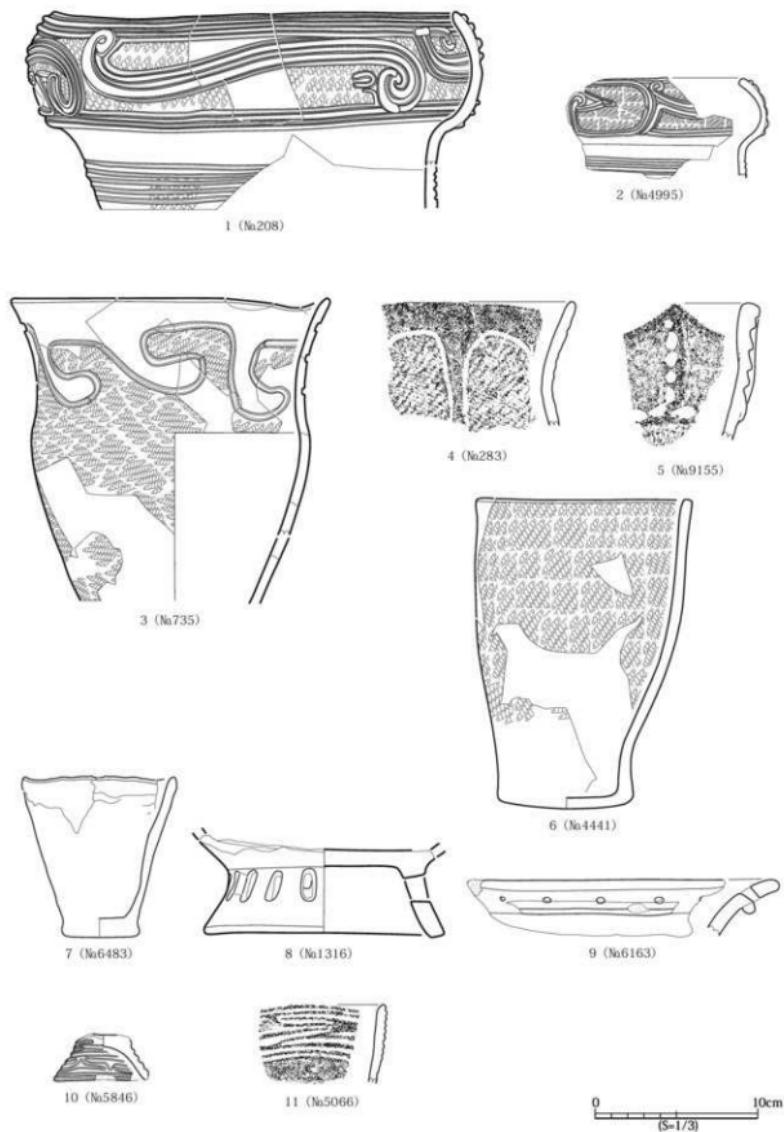
圖版 53 SX1 出土土器 (37)

III b層



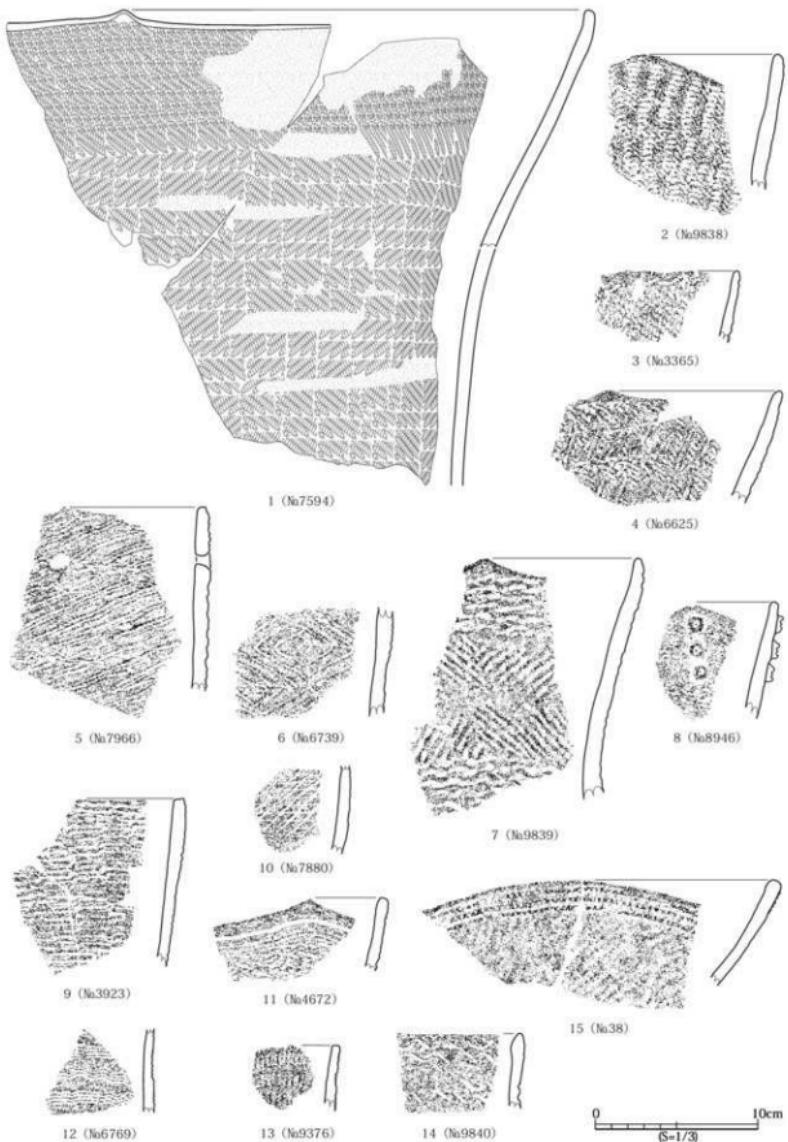
図版 54 SX1 出土土器 (38)

III b 層



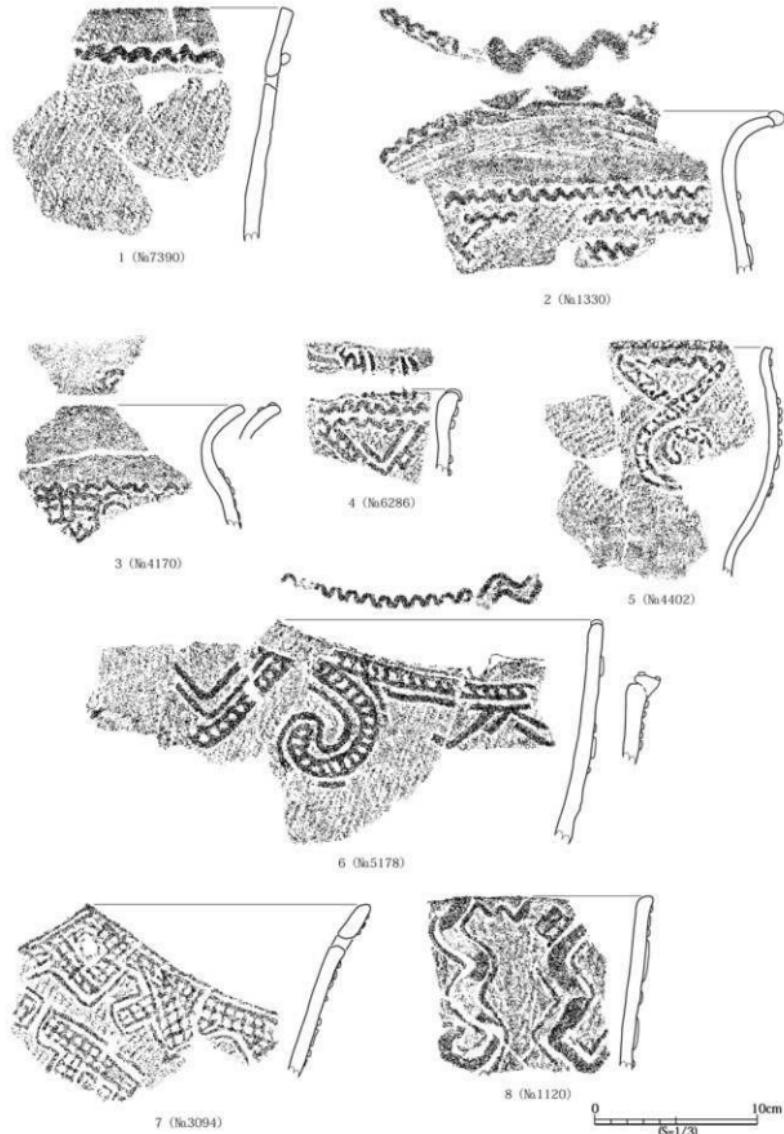
図版 55 SX1 出土土器 (39)

III a 層

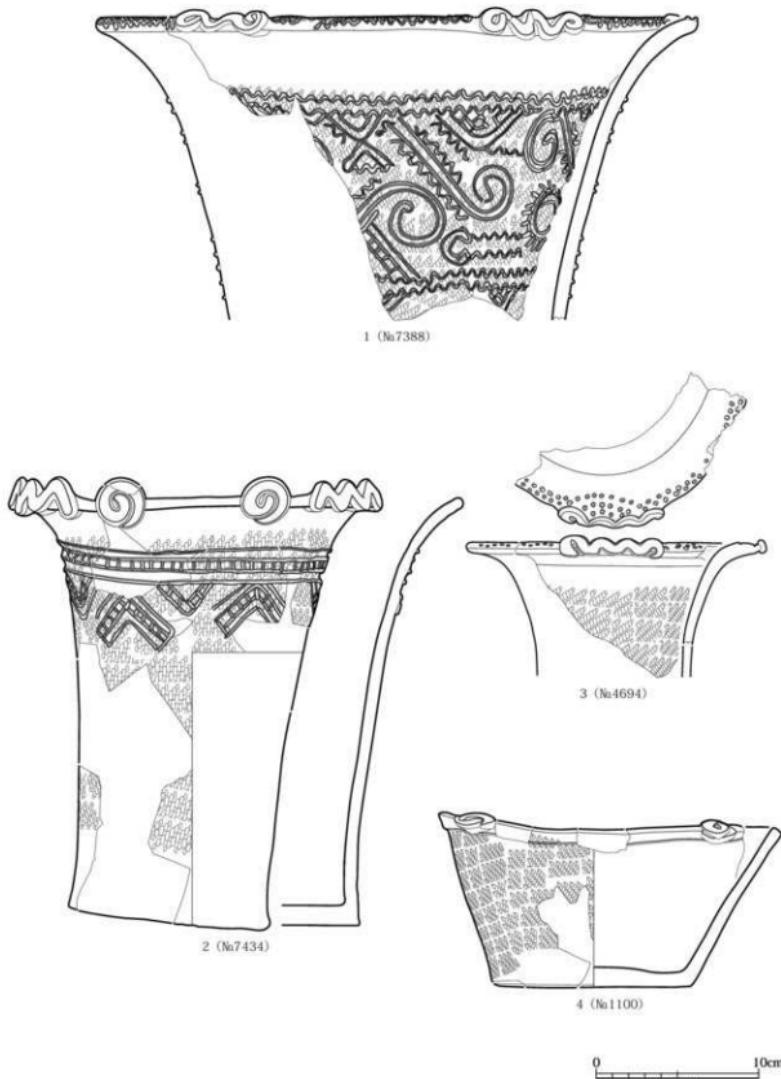


図版 56 SX1 出土土器 (40)

IIIa 層

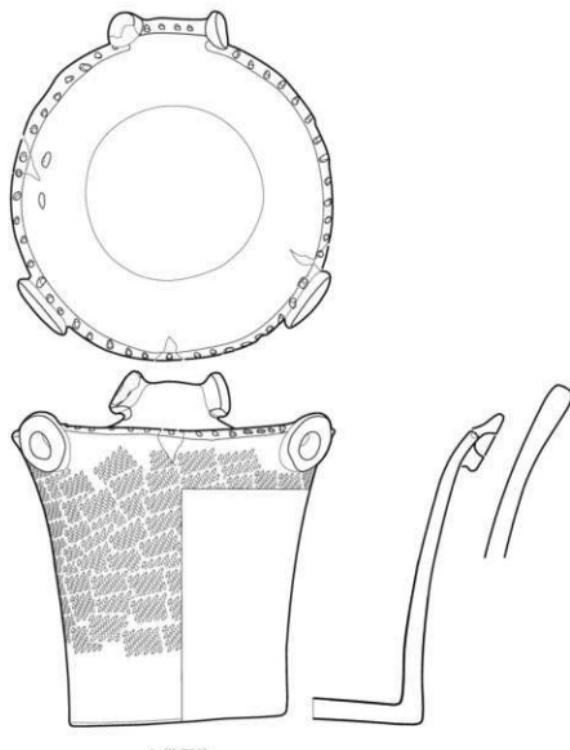


図版 57 SX1 出土土器 (41)

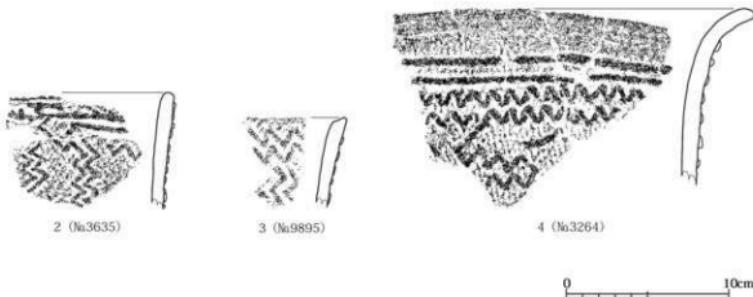


図版 58 SX1 出土土器 (42)

IIIa層

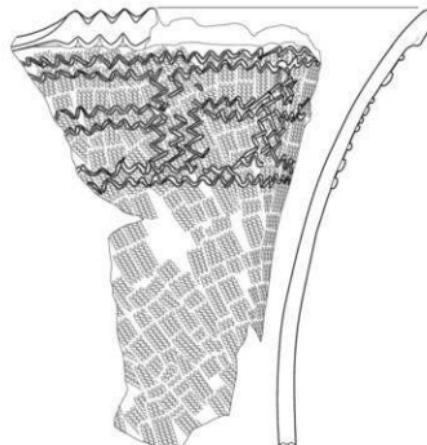


1 (No.798)

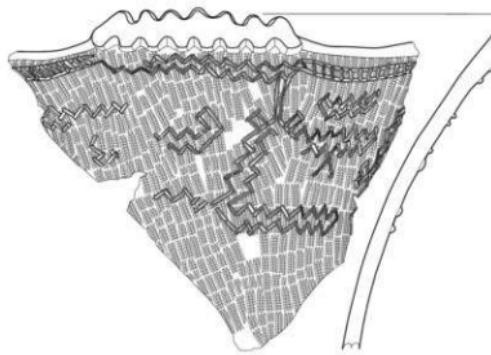


図版 59 SX1 出土土器 (43)

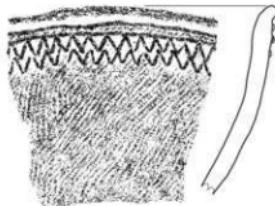
III a 層



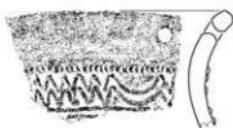
1 (No7417)



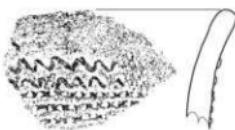
2 (No561)



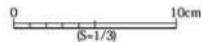
3 (No9296)



4 (No7926)

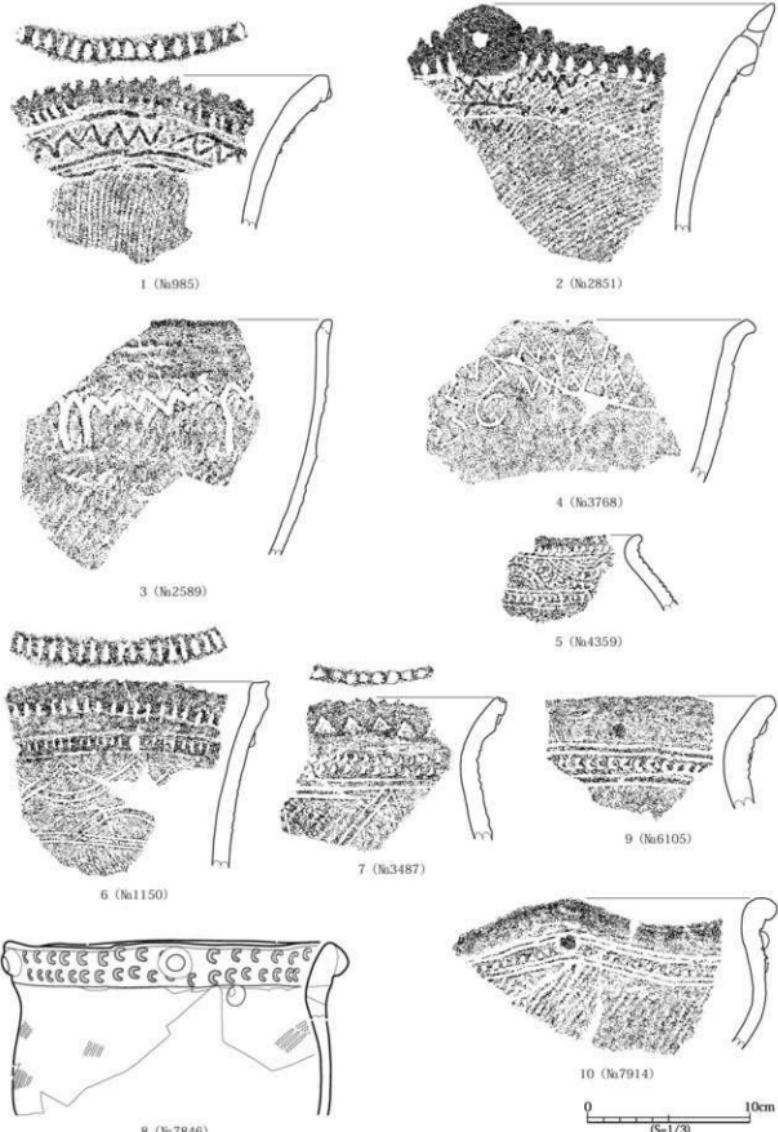


5 (No6747)



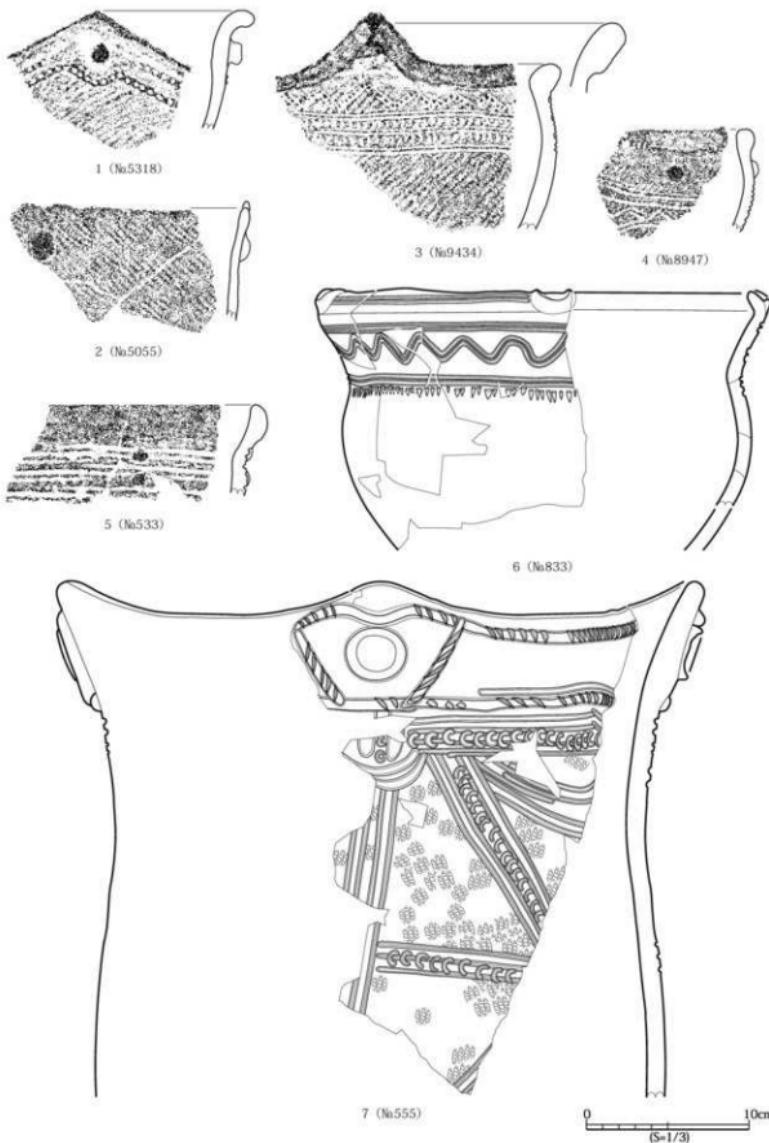
図版 60 SX1 出土土器 (44)

IIIa層



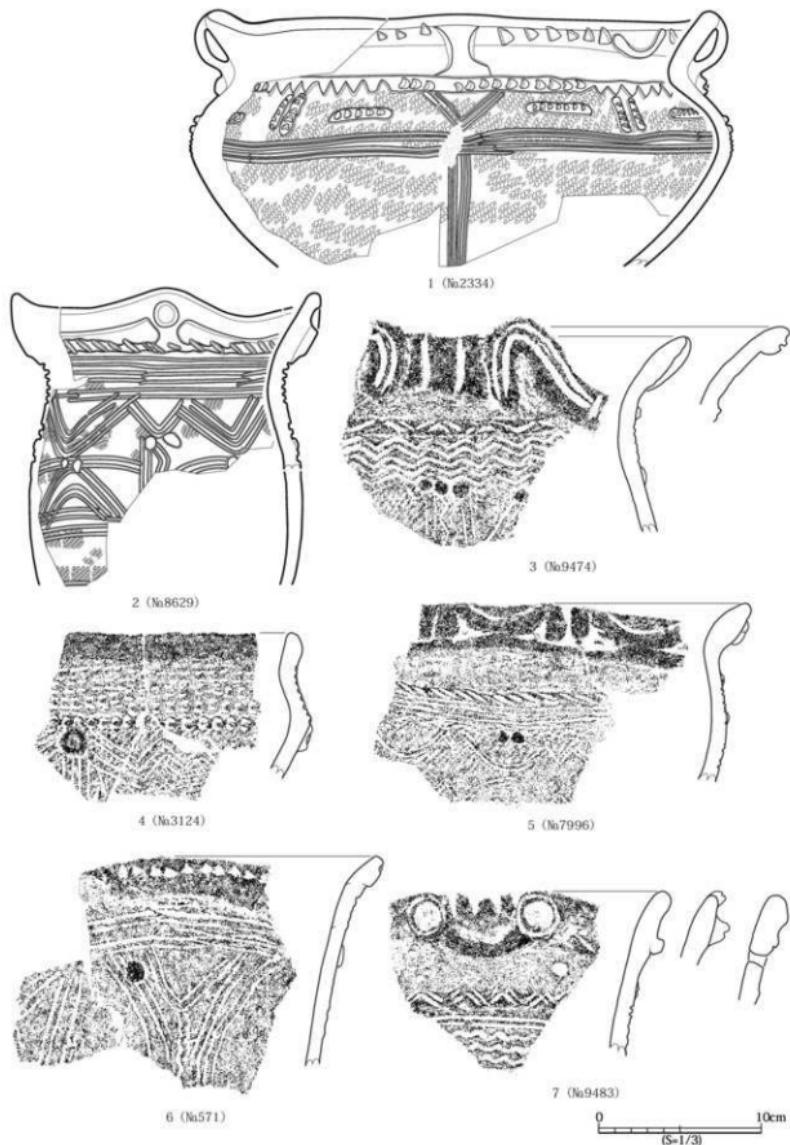
図版 61 SX1 出土土器 (45)

III a 層



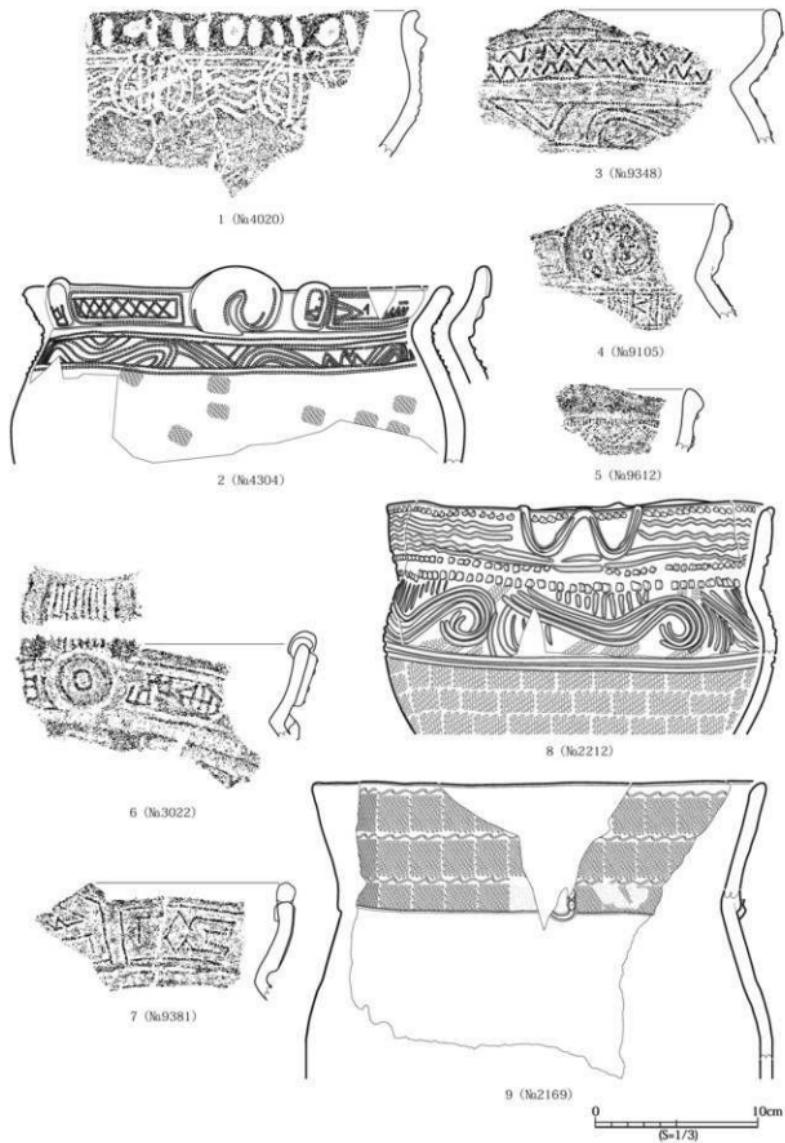
図版 62 SX1 出土土器 (46)

III a 層



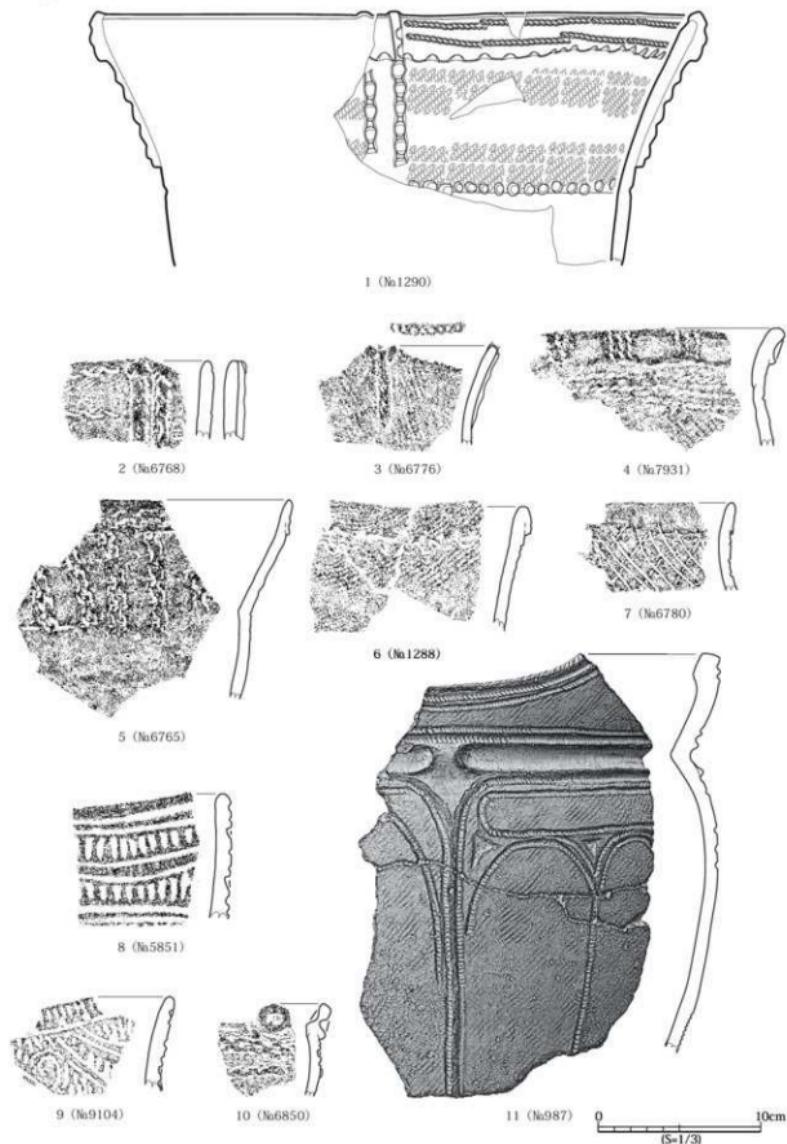
図版 63 SX1 出土土器 (47)

IIIa層



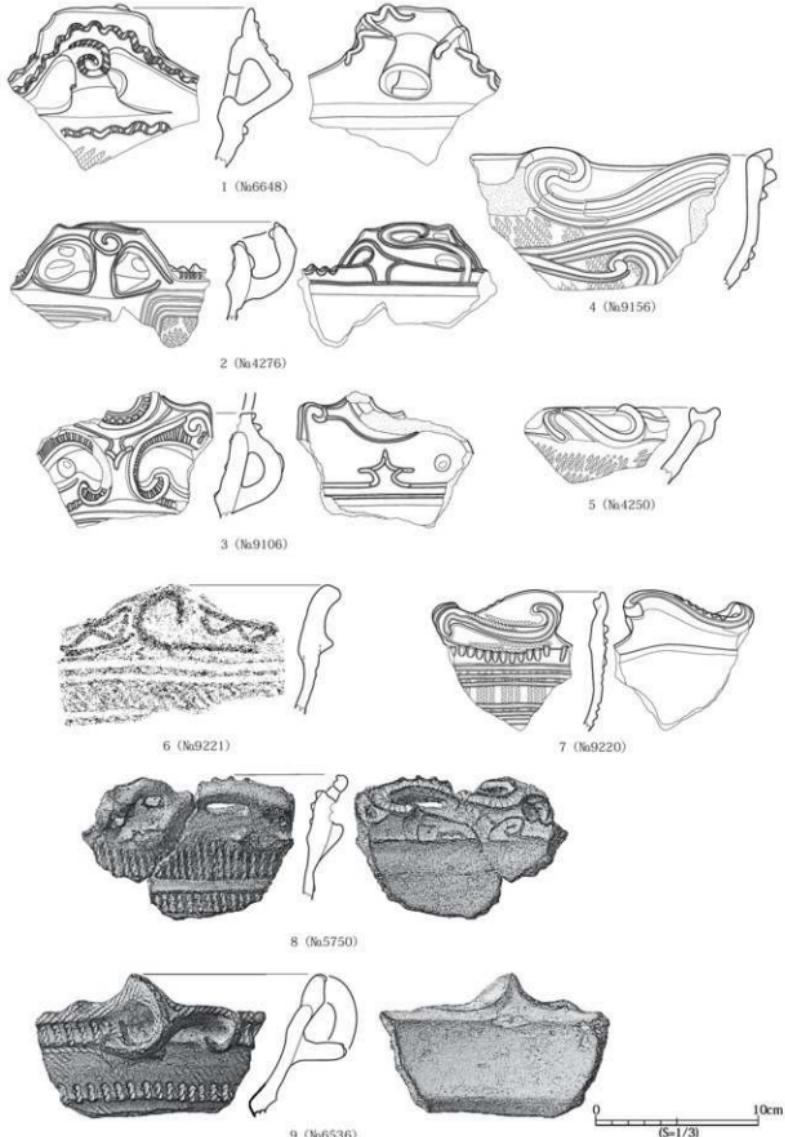
図版 64 SX1 出土土器 (48)

IIIa層



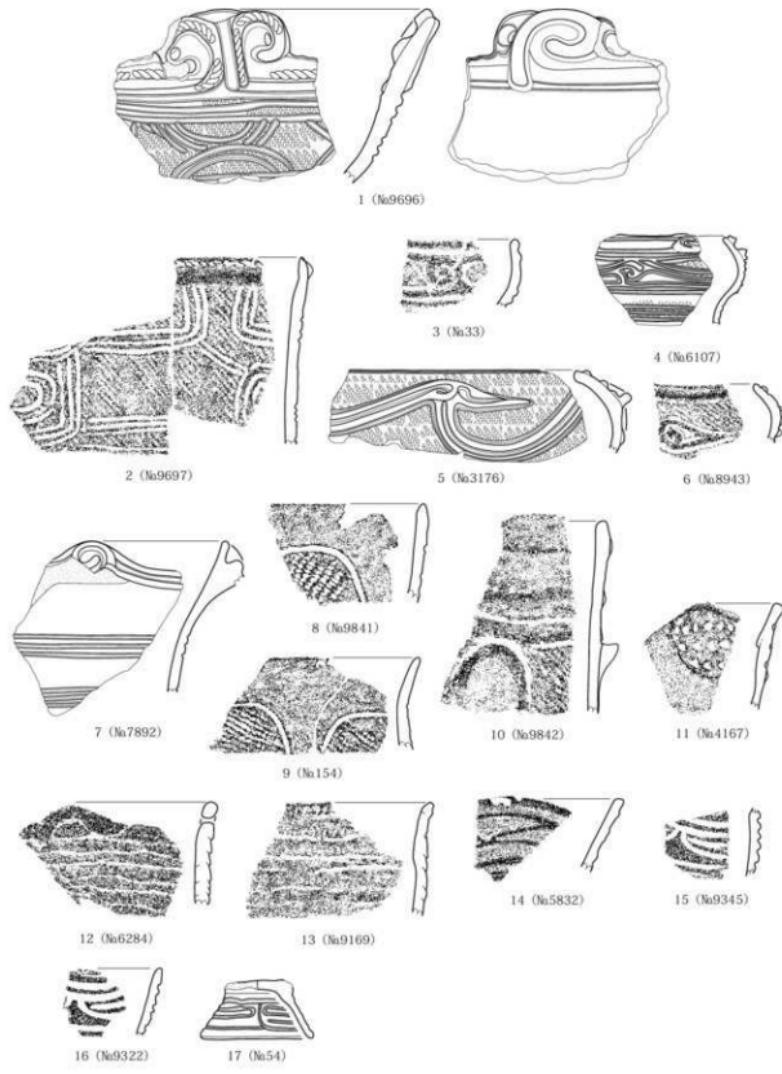
図版 65 SX1 出土土器 (49)

IIIa層



図版 66 SX1 出土土器 (50)

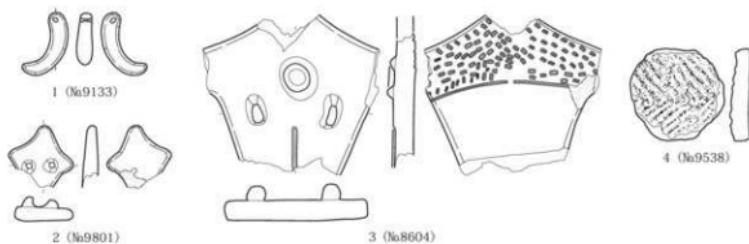
III a 層



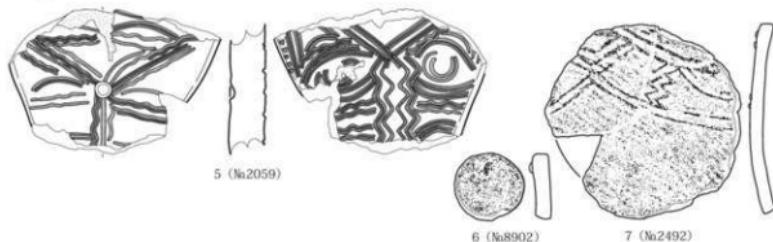
0 10cm
(S=1/3)

図版 67 SX1 出土土器 (51)

IIIc層



IIIB層



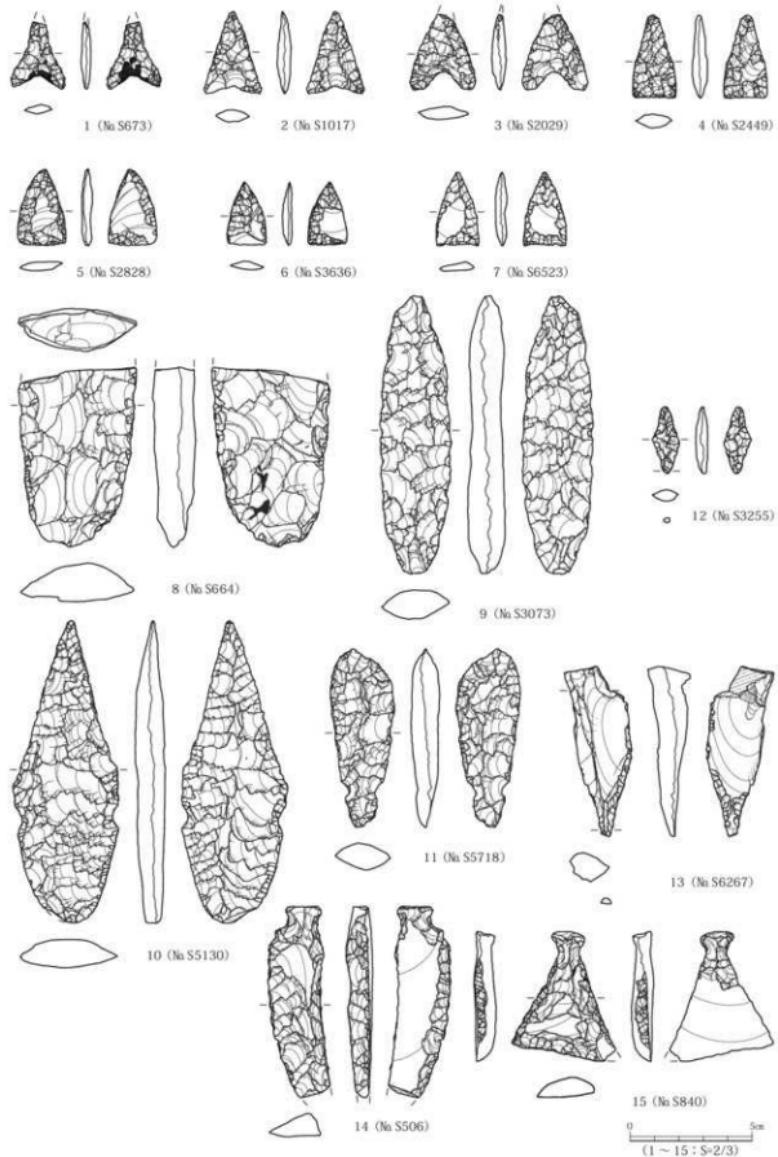
IIIA層



0 10cm
(S=1/3)

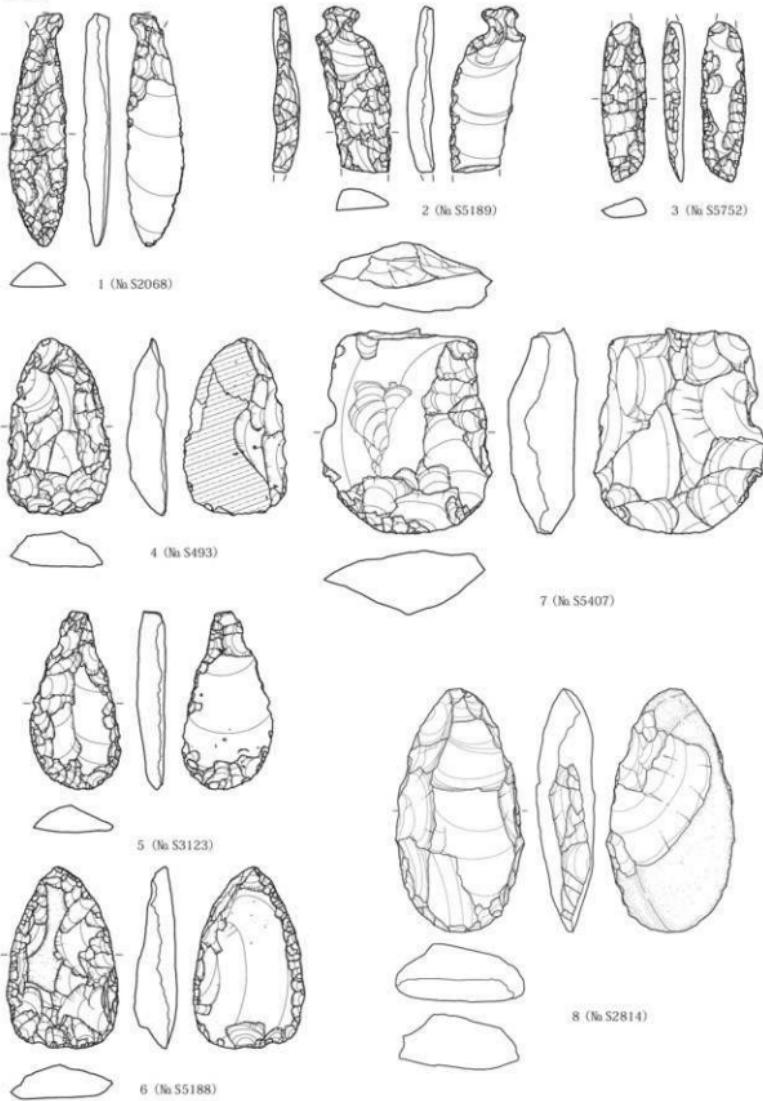
図版 68 SX1 出土土製品

III c 層



図版 69 SX1 出土石器・石製品 (1)

III c 層

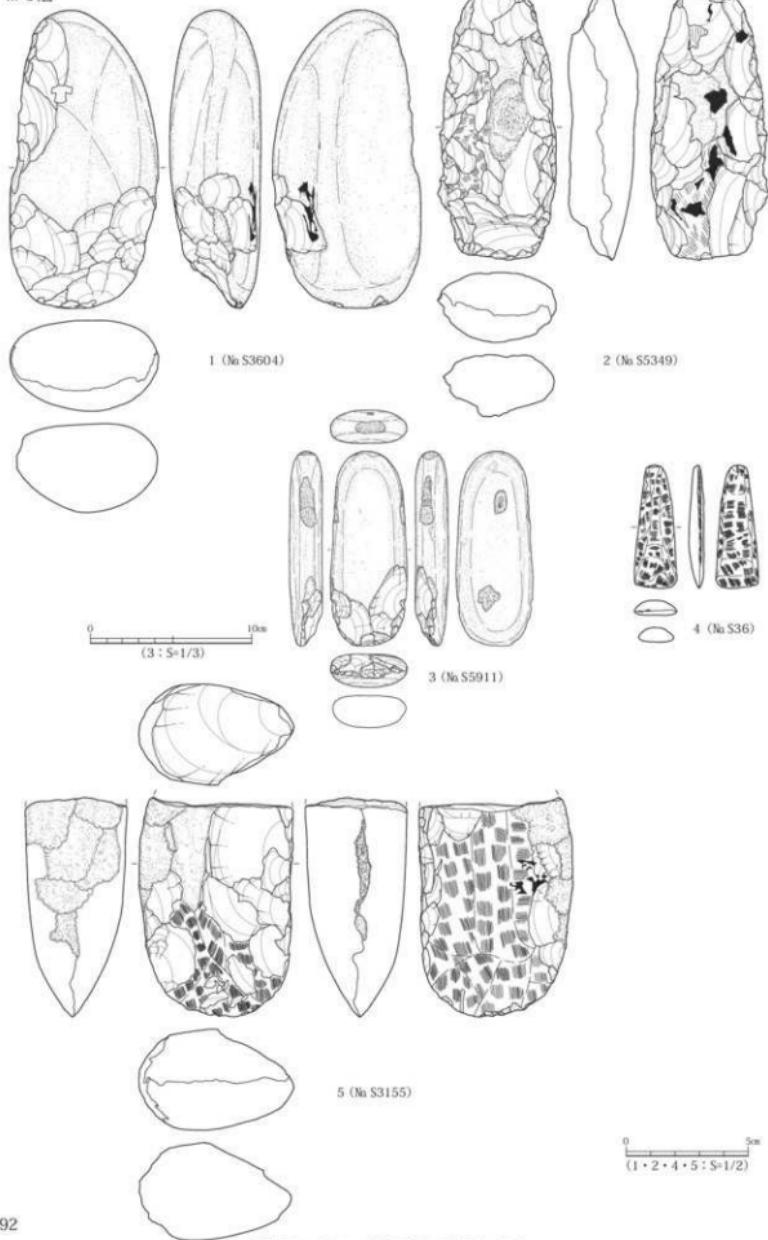


0
(1 ~ 7 : S=2/3) 5cm

0
(8 : S= 1/2) 5cm

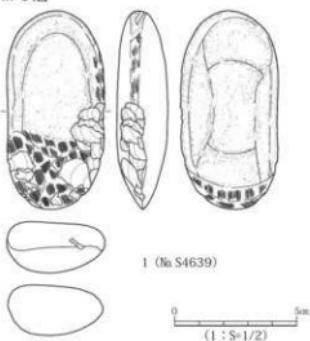
図版 70 SX1 出土石器・石製品 (2)

III c 層



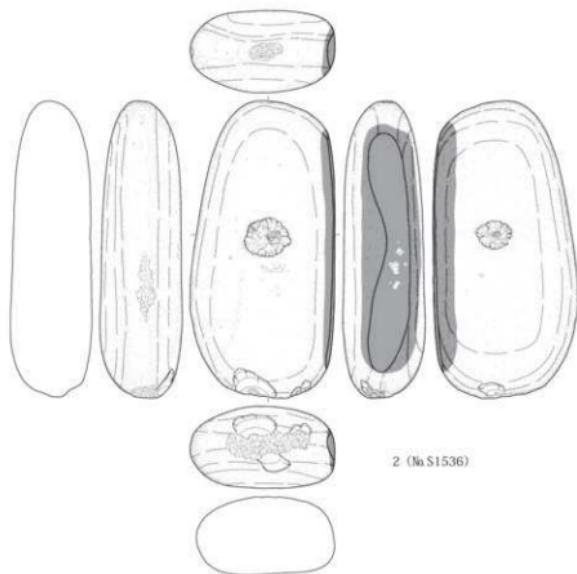
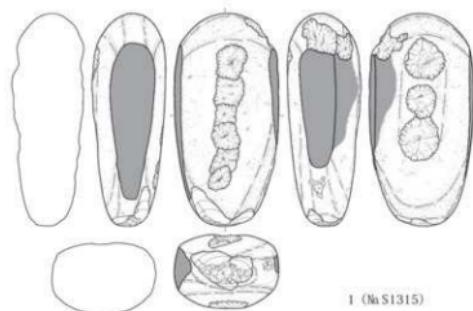
図版 71 SX1 出土石器・石製品 (3)

III c 層



図版 72 SX1 出土石器・石製品 (4)

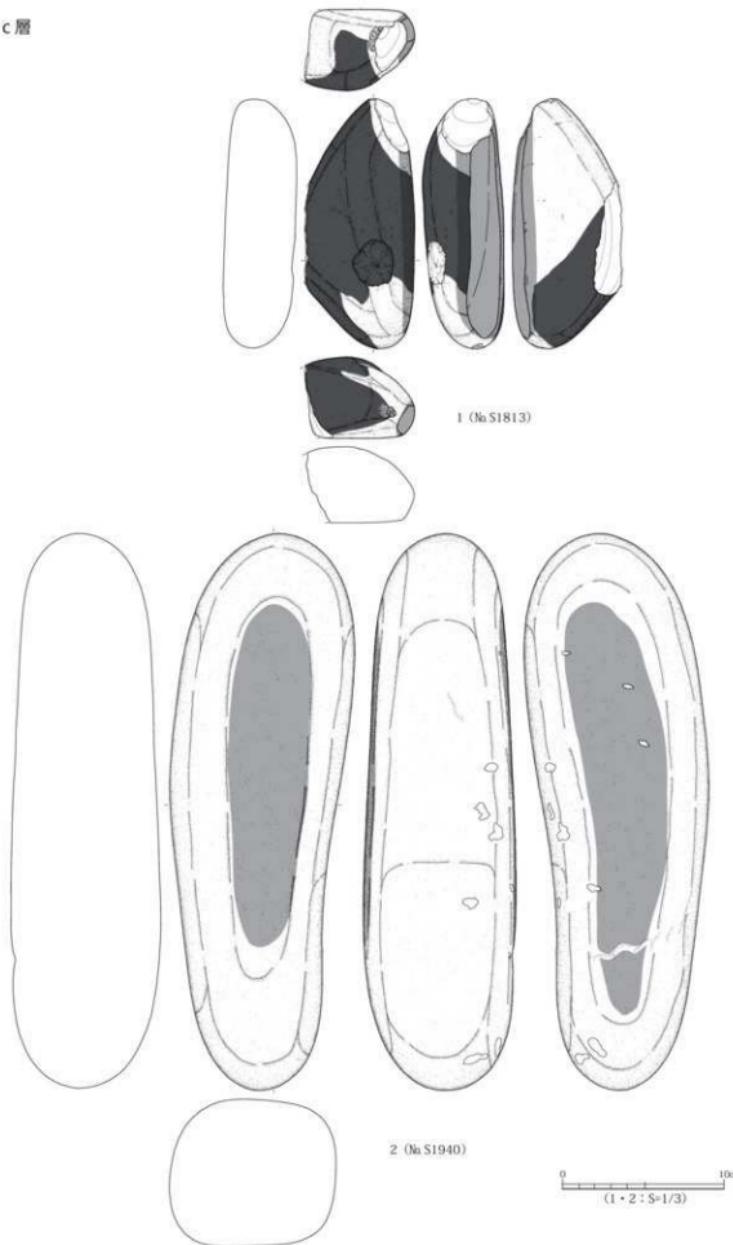
III c 層



0 10cm
(1・2 : S=1/3)

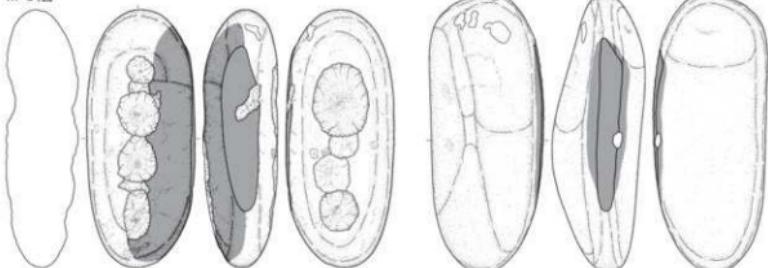
図版 73 SX1 出土石器・石製品 (5)

III c 層



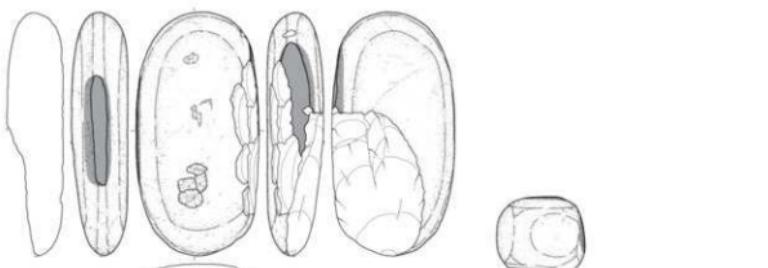
図版 74 SX1 出土石器・石製品 (6)

III c 層

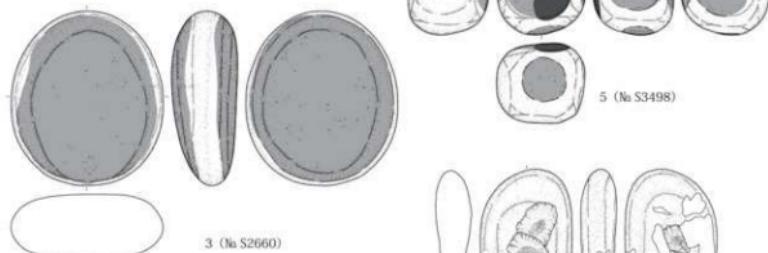


1 (No S1966)

4 (No S2851)

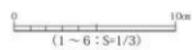


2 (No S2431)



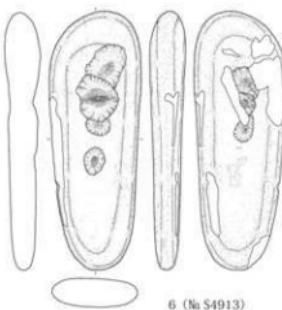
3 (No S2660)

5 (No S3498)



10mm

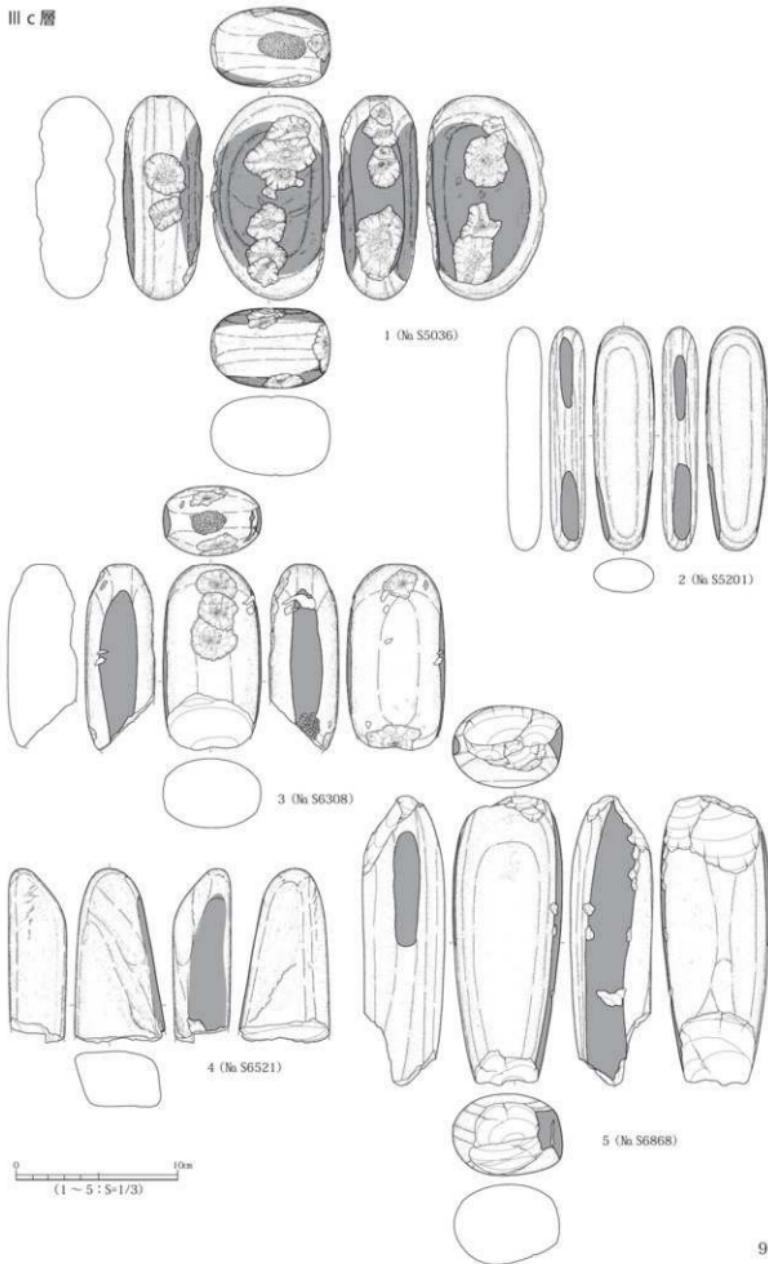
(1 ~ 6 : S=1/3)



6 (No S4913)

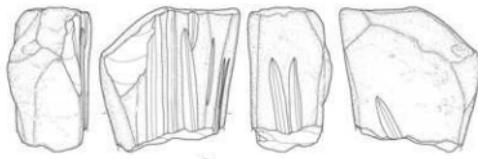
図版 75 SX1 出土石器・石製品 (7)

III c 層

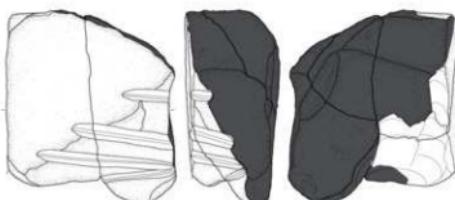


図版 76 SX1 出土石器・石製品 (8)

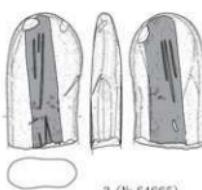
III c 層



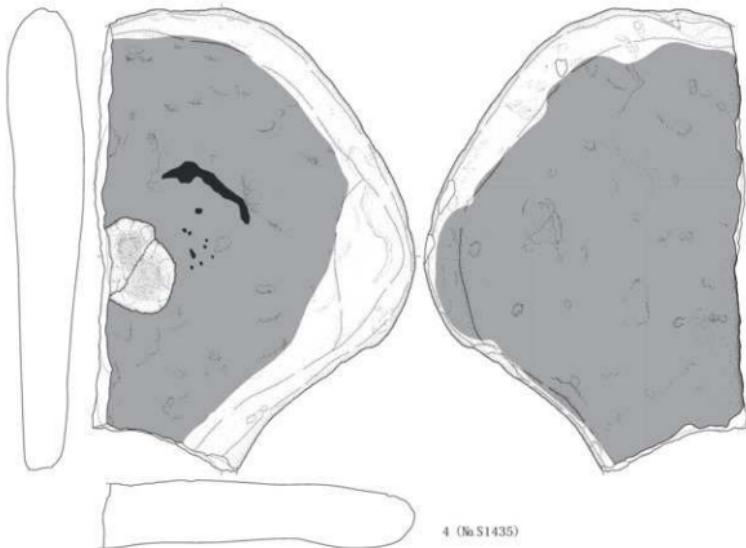
1 (No S663)



2 (No S1256)



3 (No S4665)

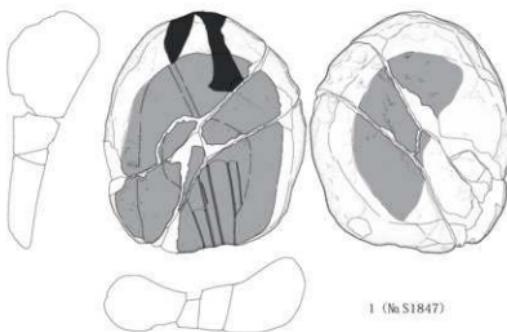


4 (No S1435)

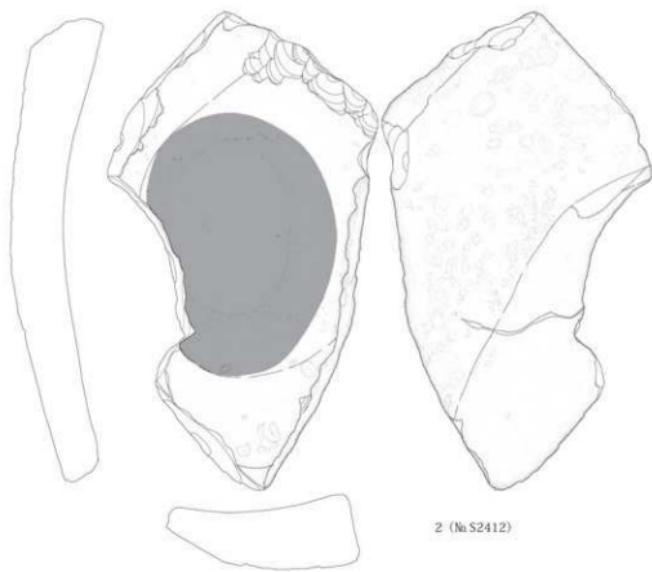


図版 77 SX1 出土石器・石製品 (9)

III c 層



1 (No.S1847)

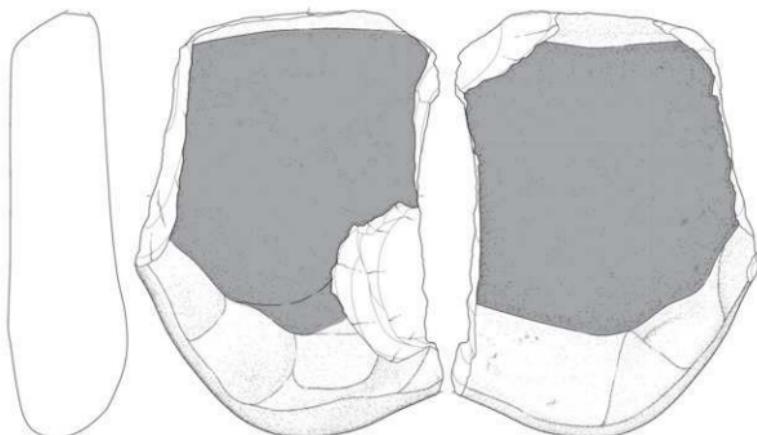


2 (No.S2412)

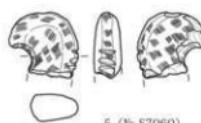
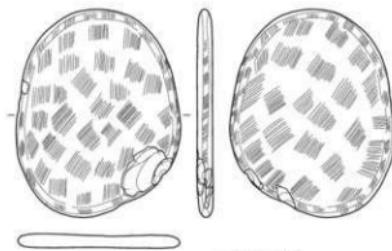
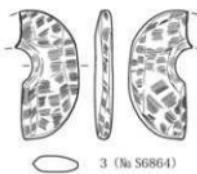
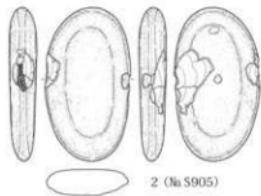


図版 78 SX1 出土石器・石製品 (10)

III c 層



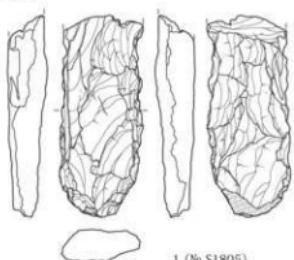
0
(1 : 2 : S=1/3) 100



0
(3 ~ 5 : S=2/3) 50

図版 79 SX1 出土石器・石製品 (11)

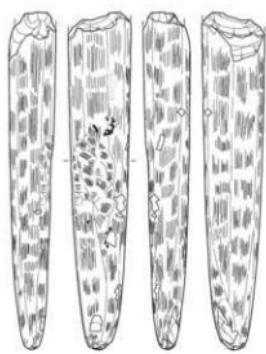
III c 層



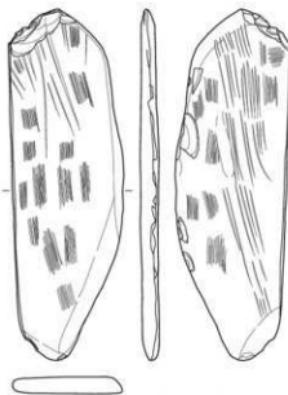
1 (No S1805)



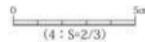
2 (No S1970)



3 (No S3356)

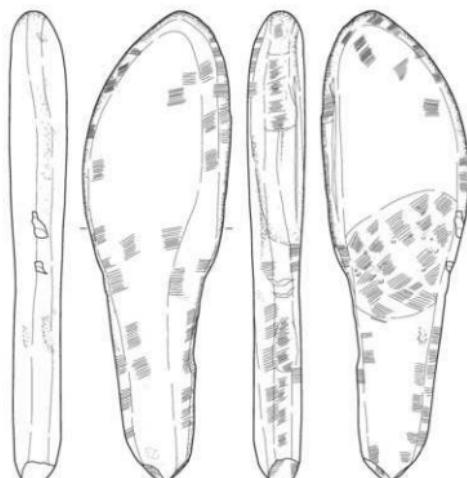


4 (No S4547)

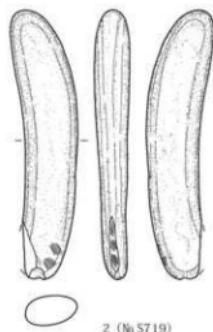


図版 80 SX1 出土石器・石製品 (12)

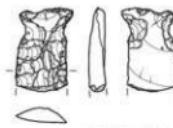
III c 層



1 (No 56966)



2 (No 5719)

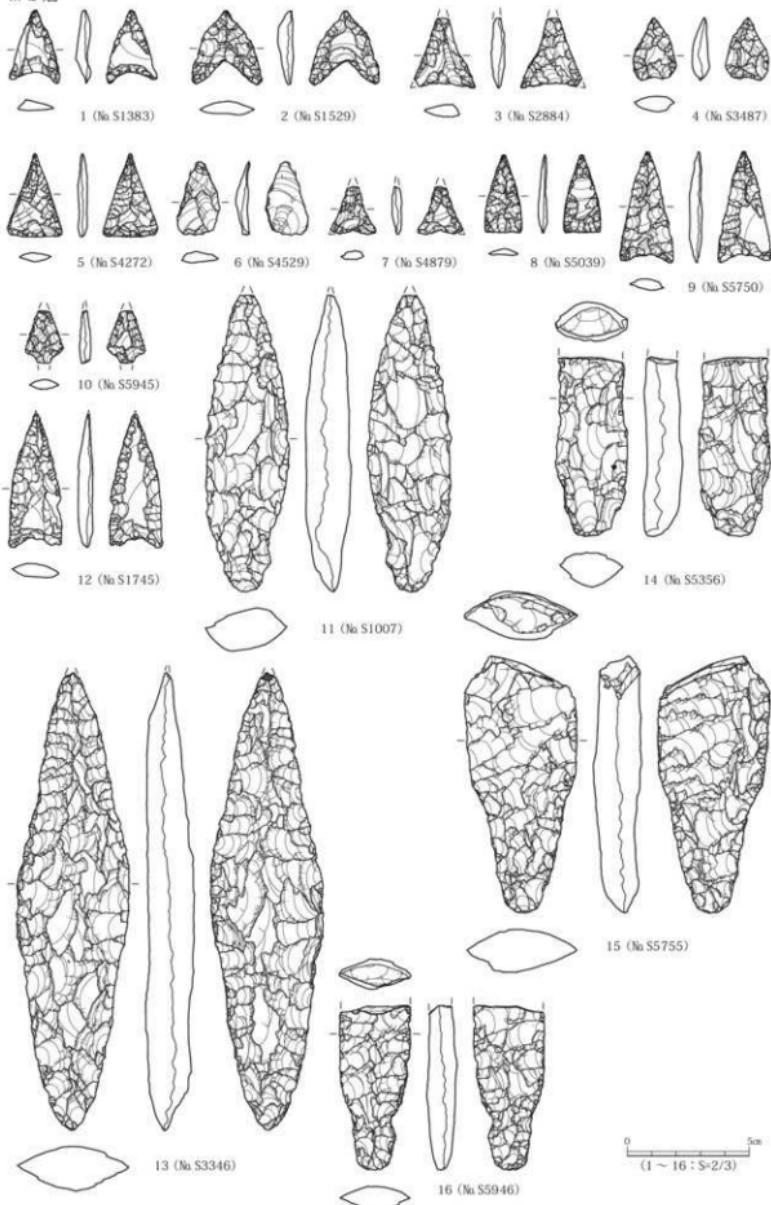


3 (No S1400)

0
(1 ~ 3 : S-2/3) 5cm

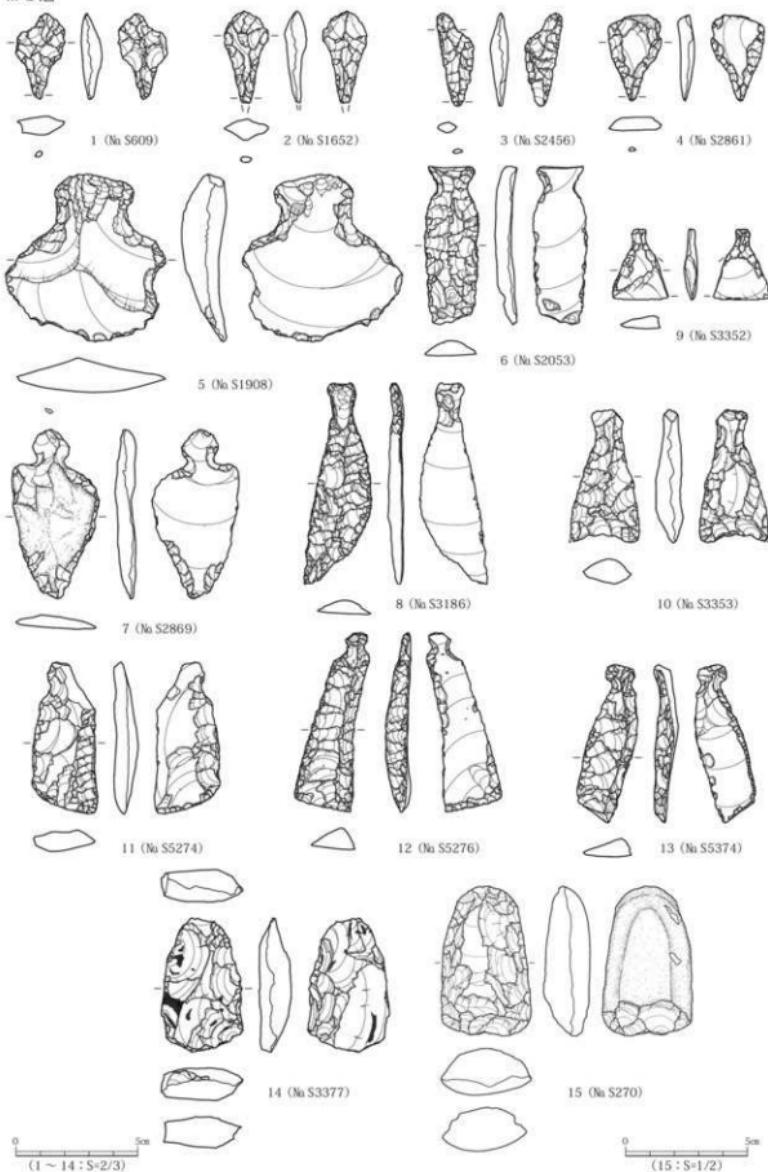
図版 81 SX1 出土石器・石製品 (13)

III b 層



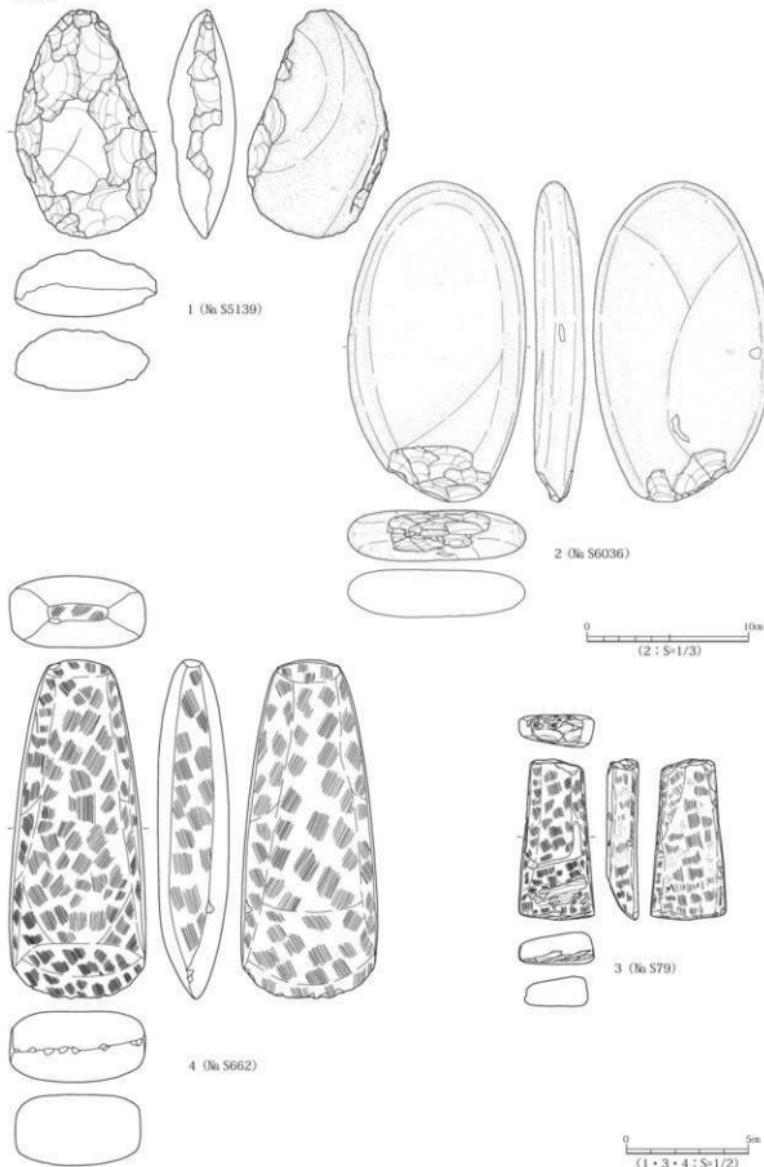
図版 82 SX1 出土石器・石製品 (14)

III b 層



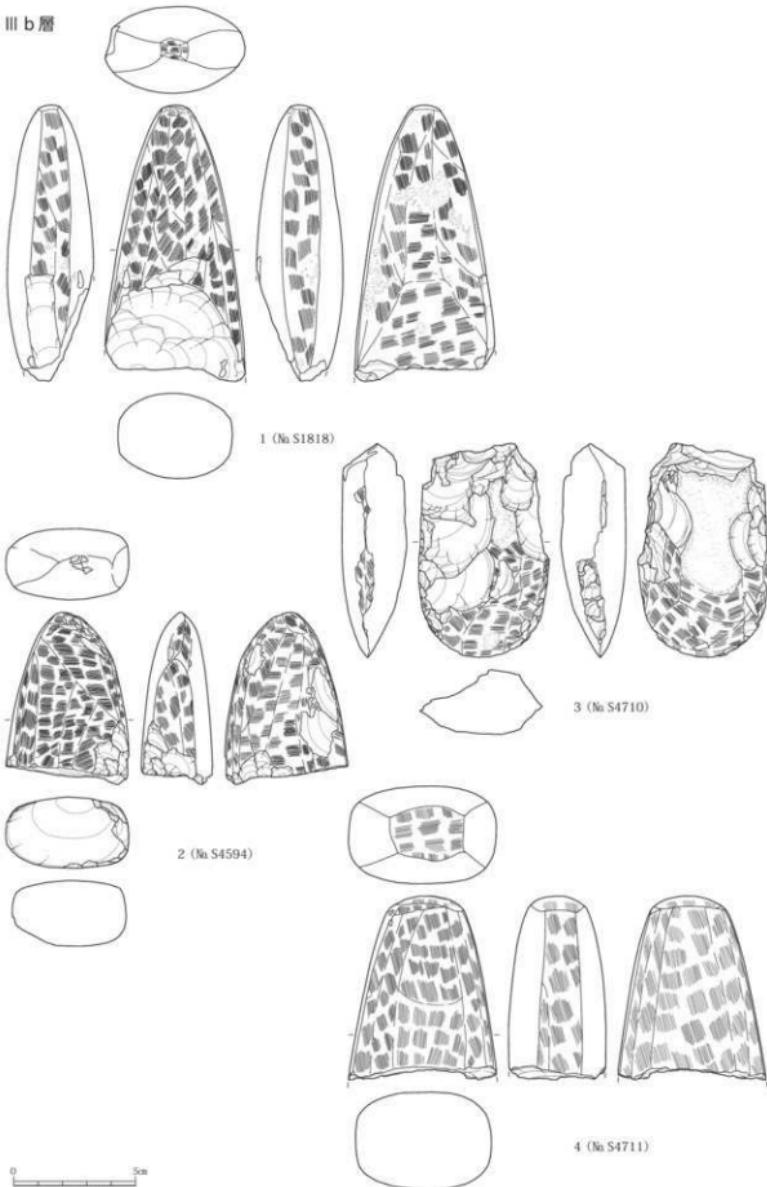
図版 83 SX1 出土石器・石製品 (15)

III b 層



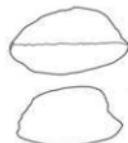
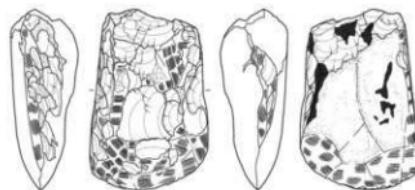
図版 84 SX1 出土石器・石製品 (16)

III b 層

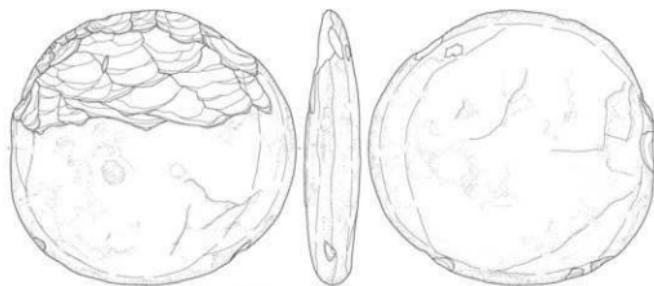


図版 85 SX1 出土石器・石製品 (17)

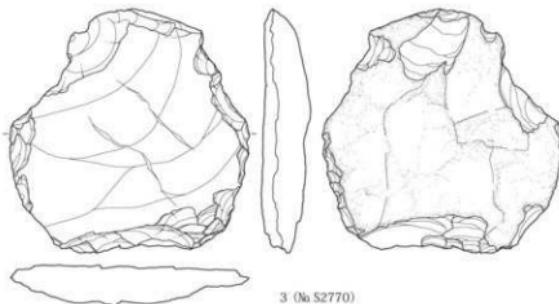
III b 層



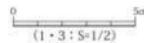
1 (No S5693)



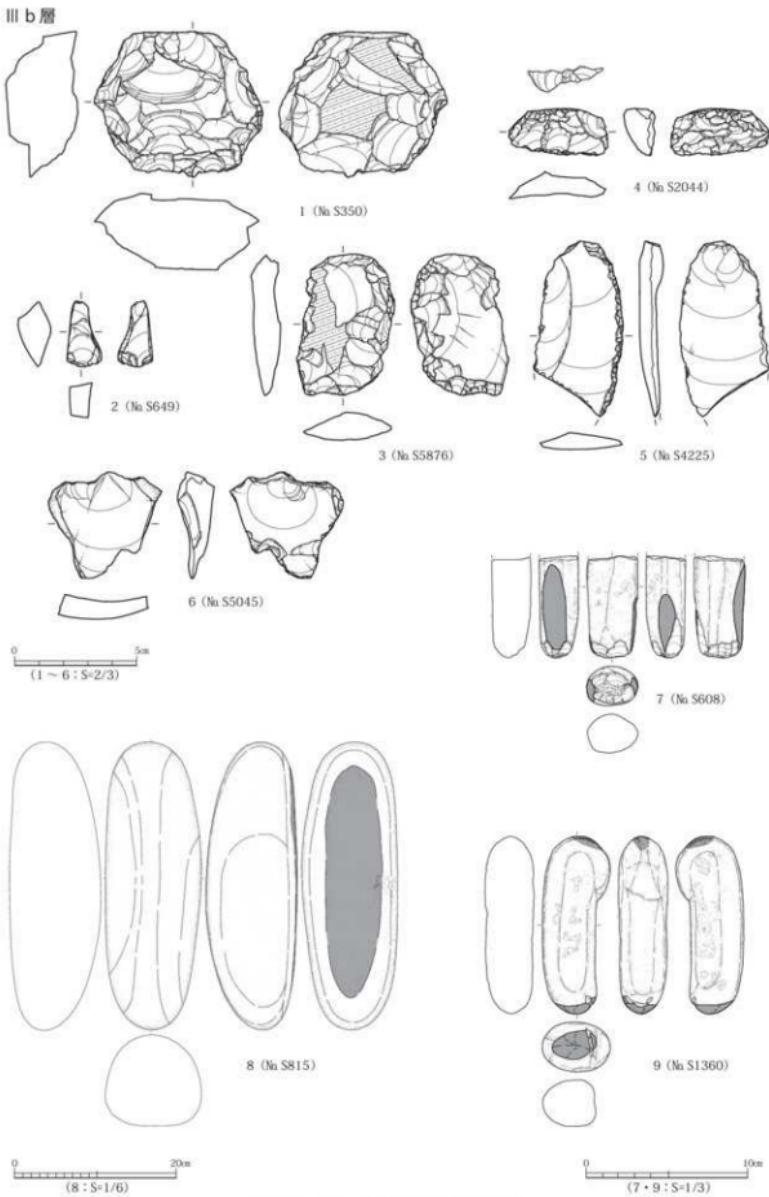
2 (No S887)



3 (No S2770)

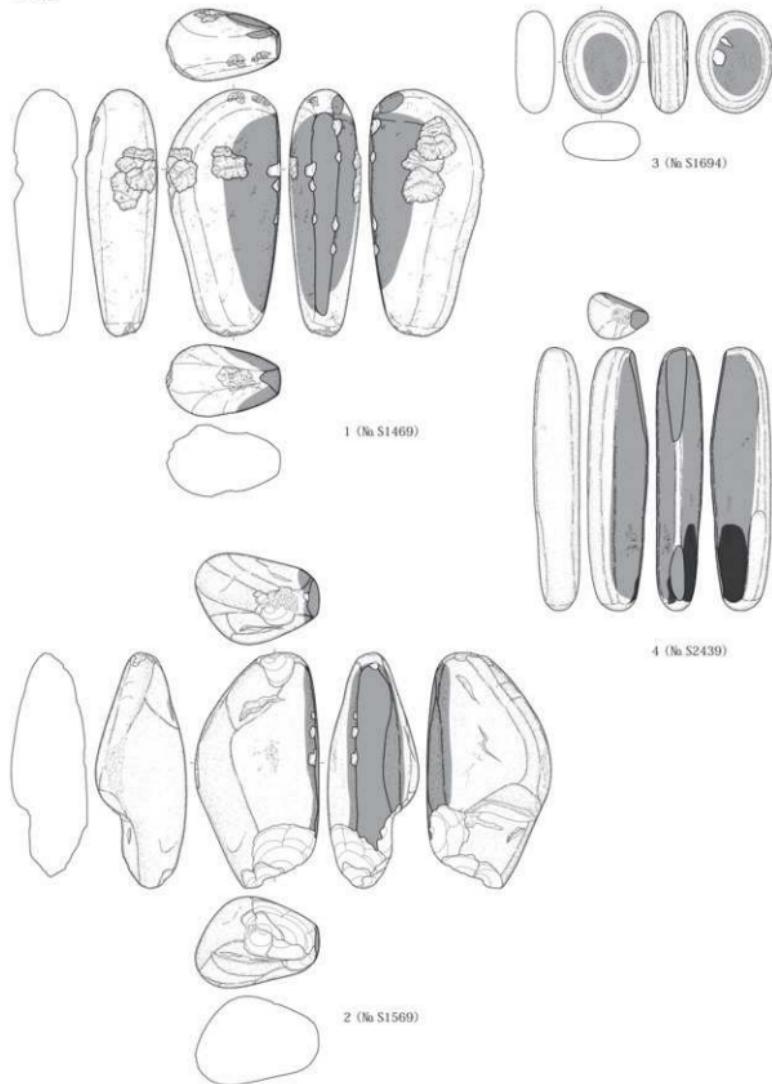


図版 86 SX1 出土石器・石製品 (18)



図版 87 SX1 出土石器・石製品 (19)

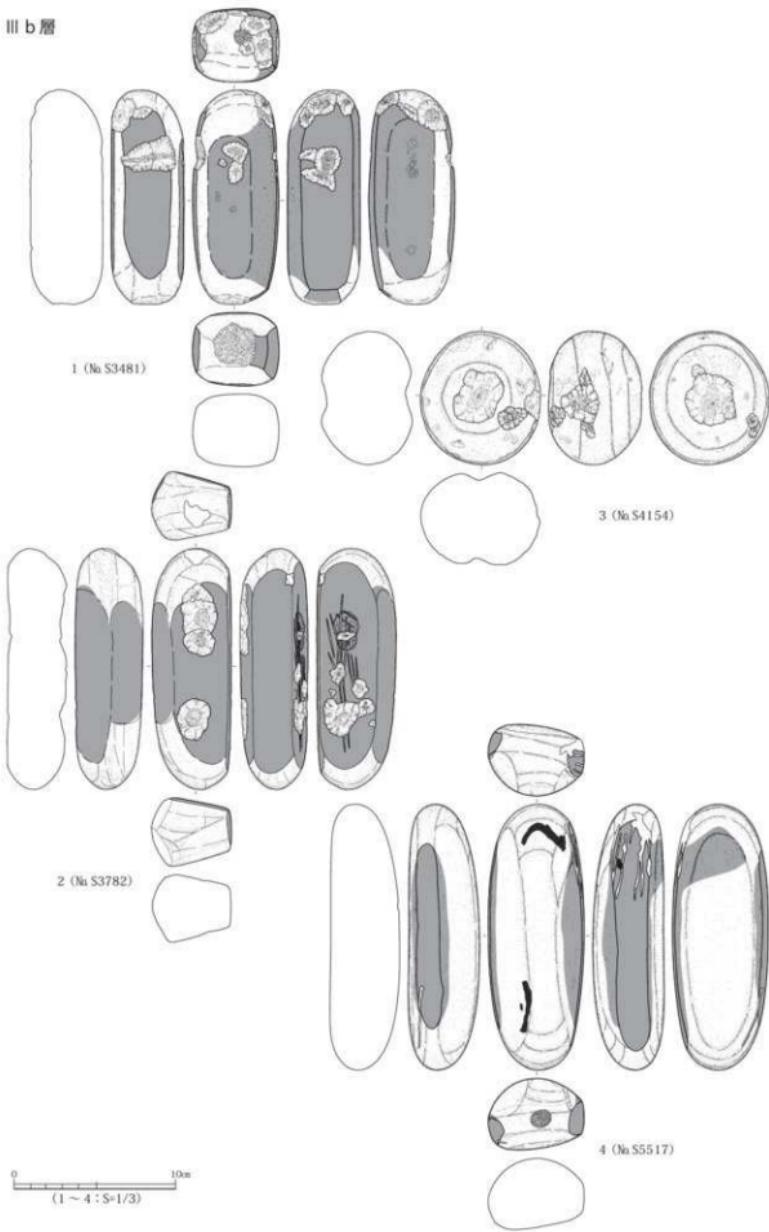
III b 層



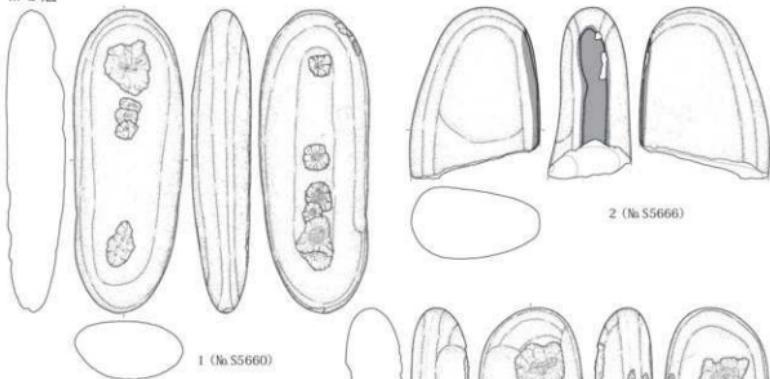
0
(1 ~ 4 : S=1/3)
10mm

図版 88 SX1 出土石器・石製品 (20)

III b 層

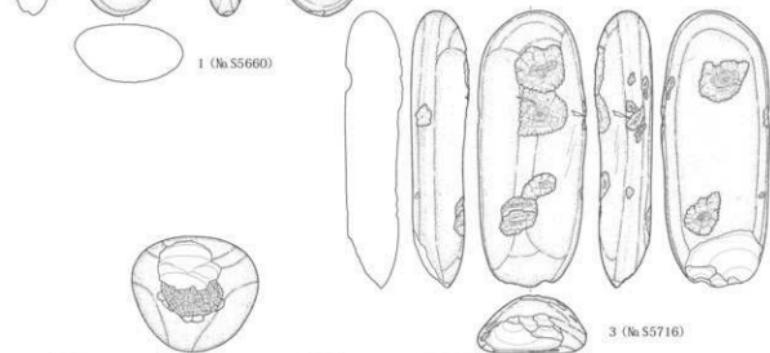


III b 層

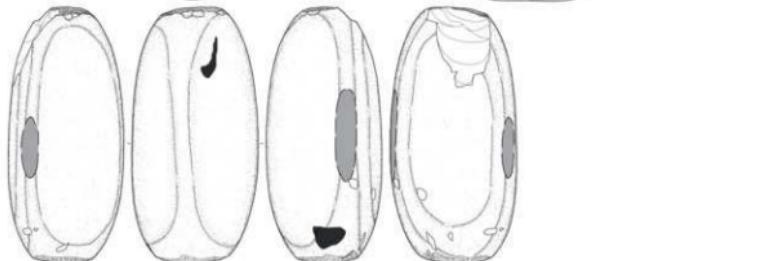


1 (No S5660)

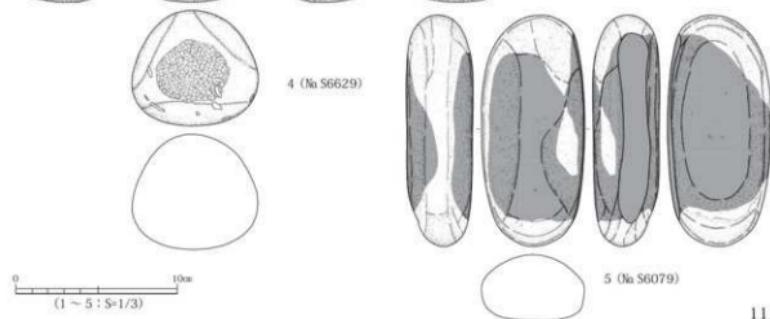
2 (No S5666)



3 (No S5716)



4 (No S6629)

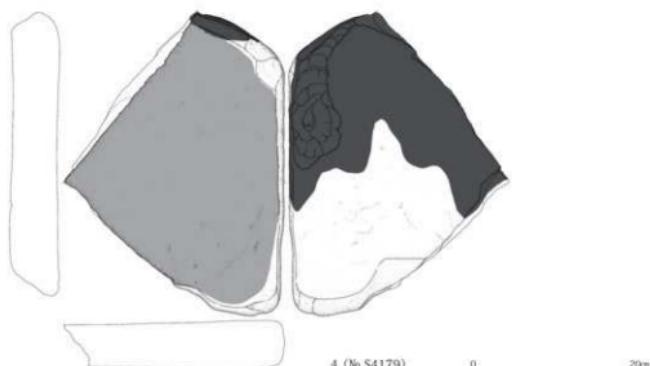
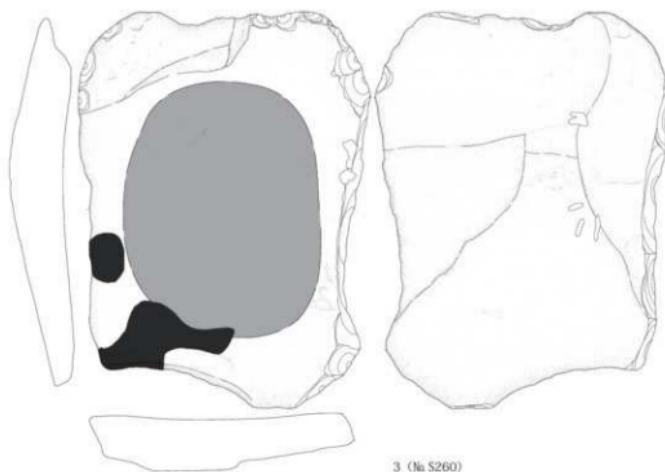
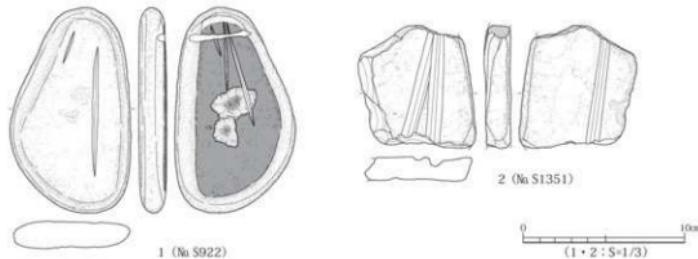


5 (No S6079)

0
(1 ~ 5 : 5=1/3)
10mm

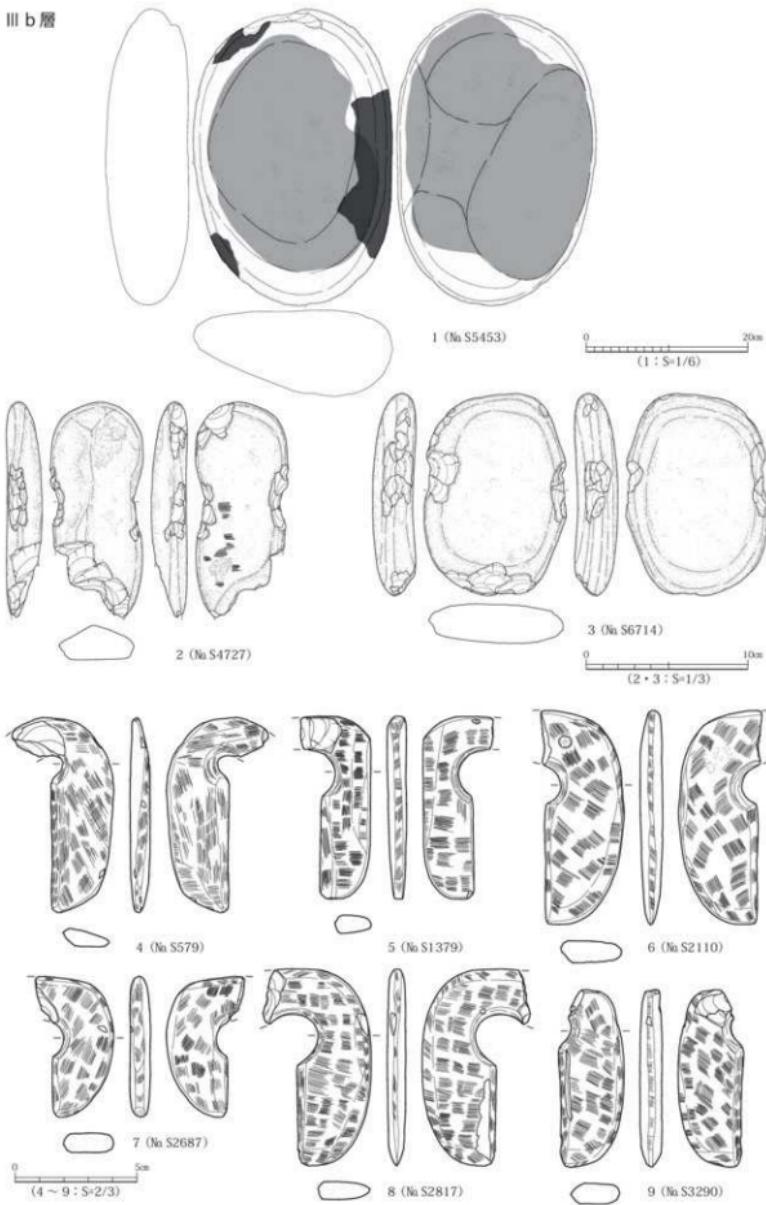
図版 90 SX1 出土石器・石製品 (22)

III b 層

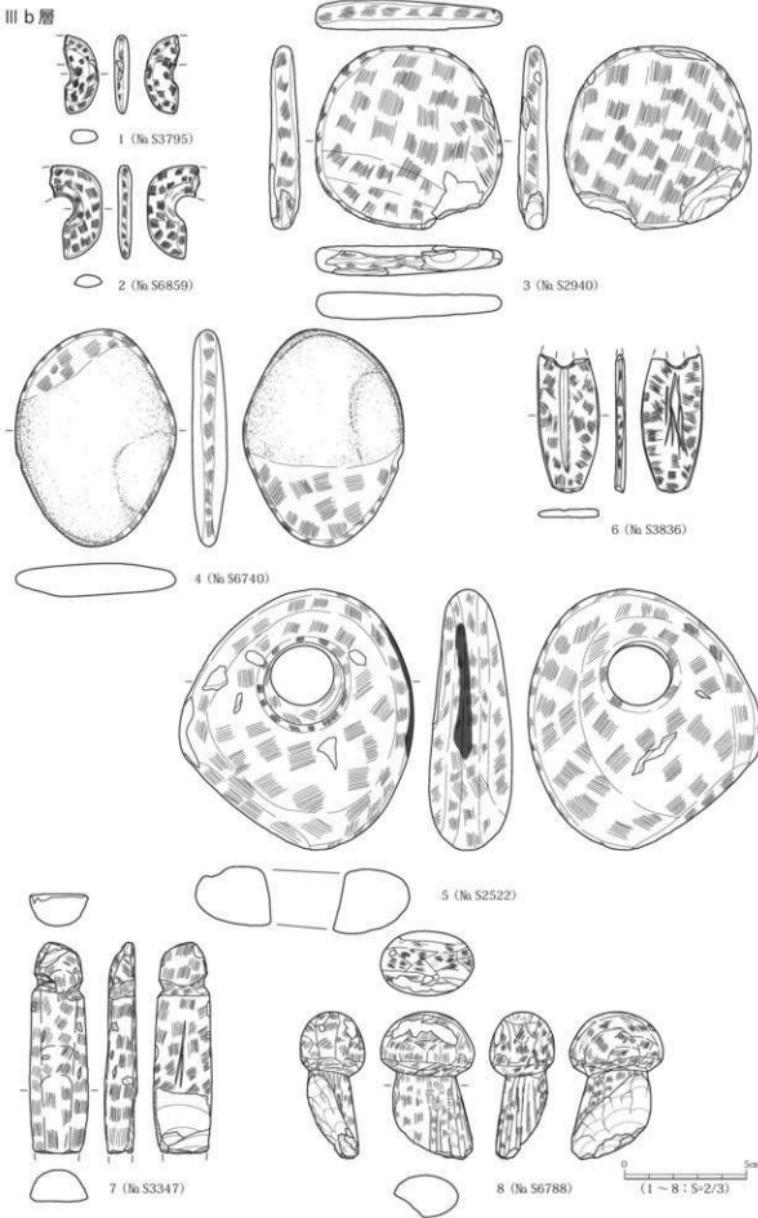


図版 91 SX1 出土石器・石製品 (23)

III b 層

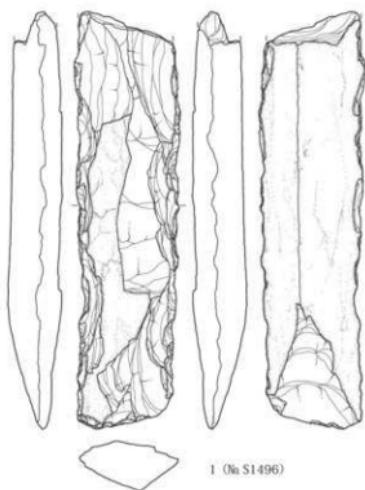


図版 92 SX1 出土石器・石製品 (24)

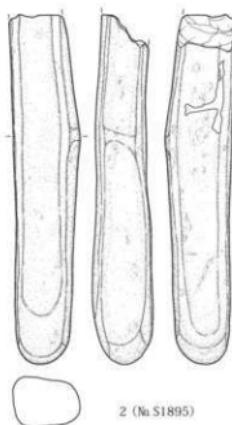


図版 93 SX1 出土石器・石製品 (25)

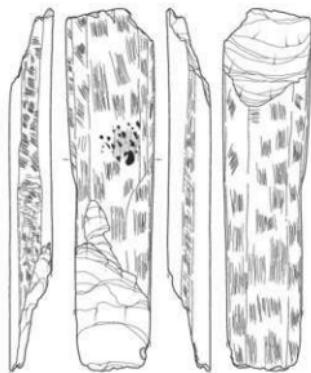
III b 層



1 (No S1496)



2 (No S1895)

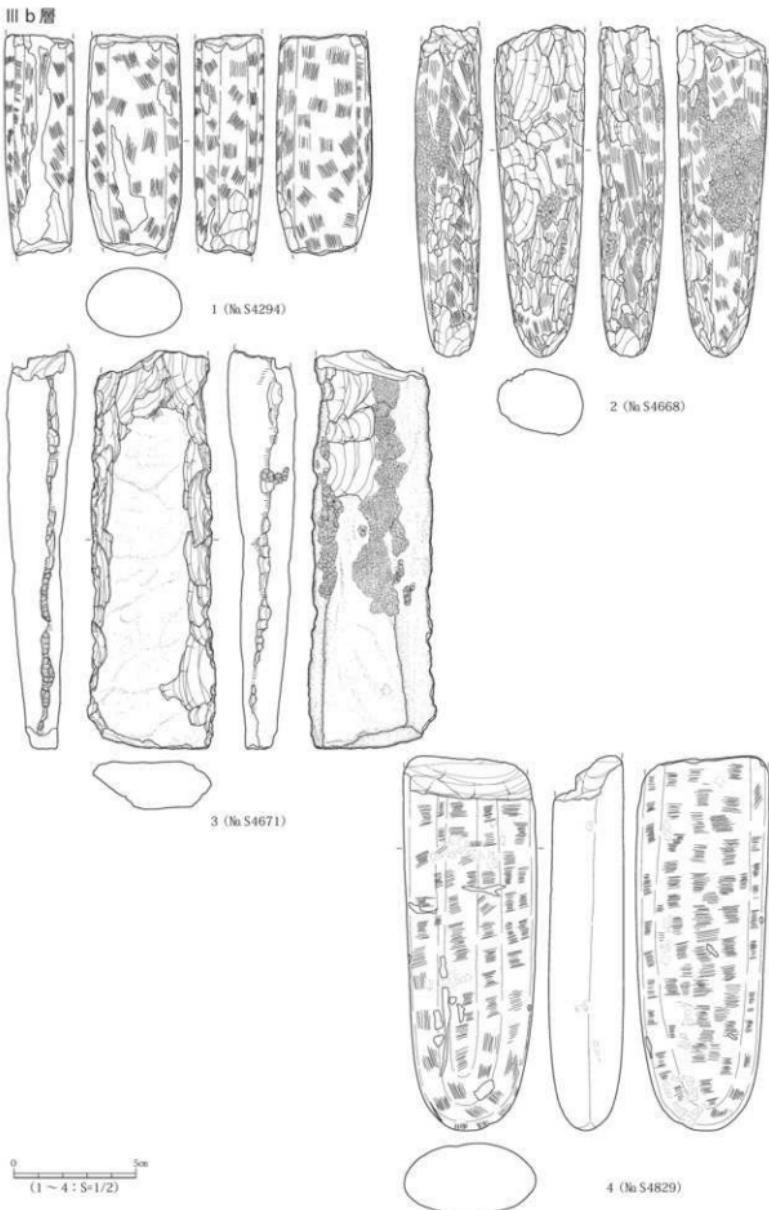


3 (No S2818)



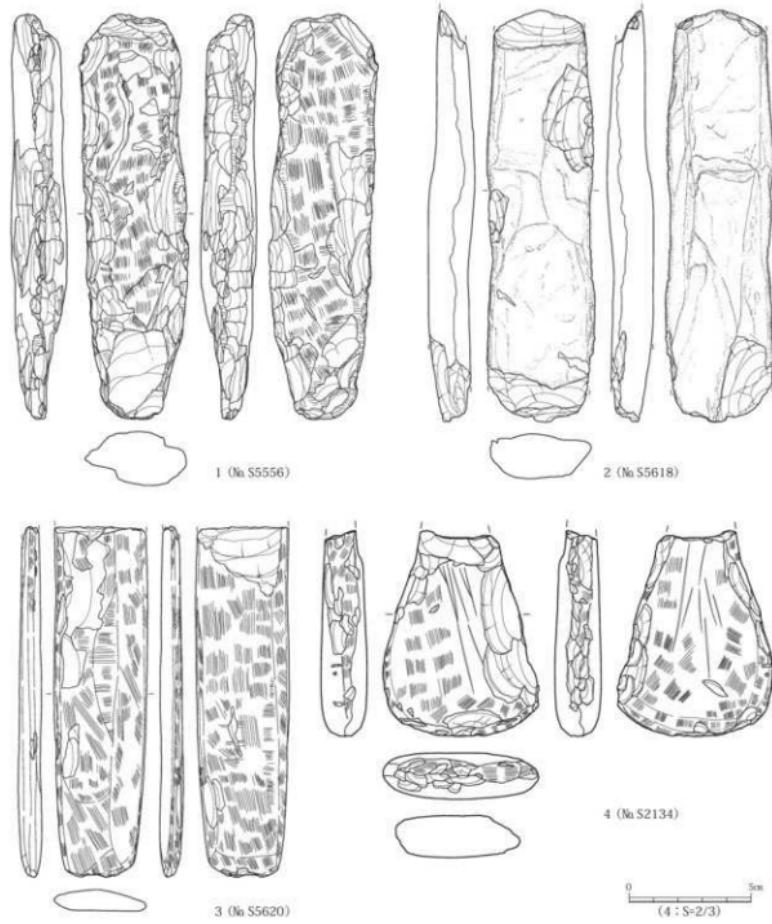
0
(1 ~ 4 : S=1/2)
5cm

図版 94 SX1 出土石器・石製品 (26)



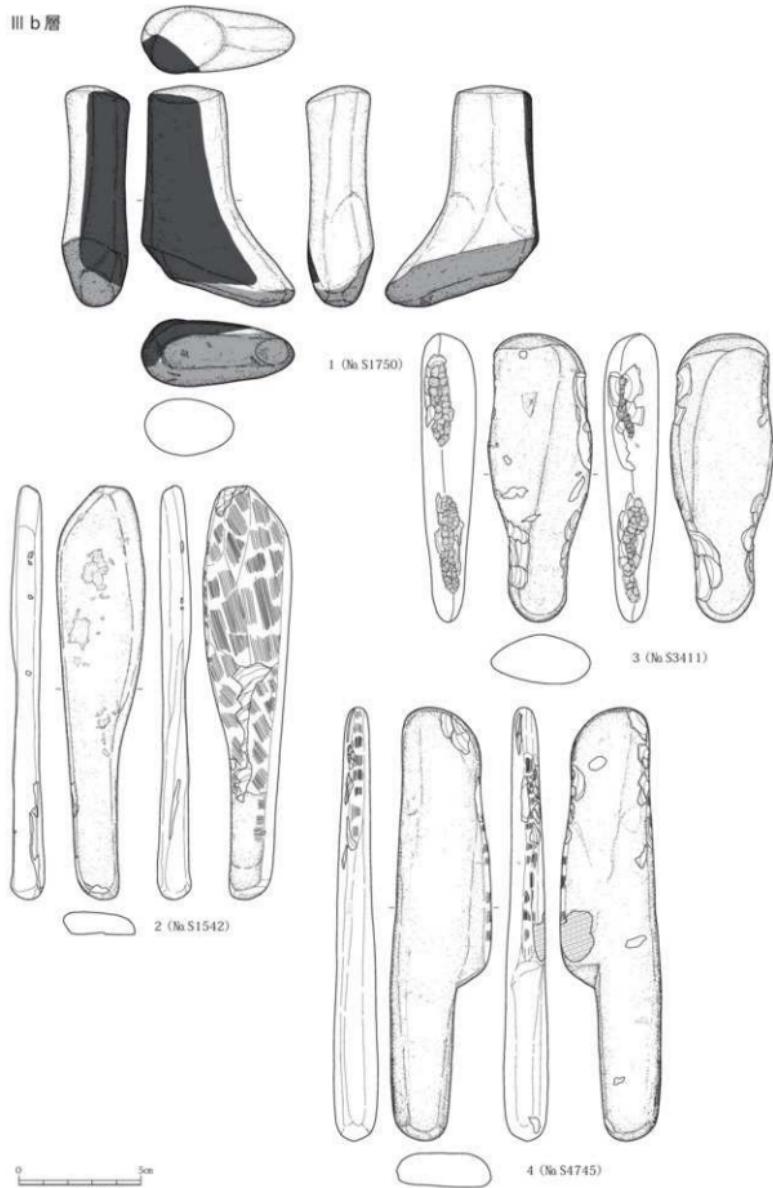
図版 95 SX1 出土石器・石製品 (27)

III b 層



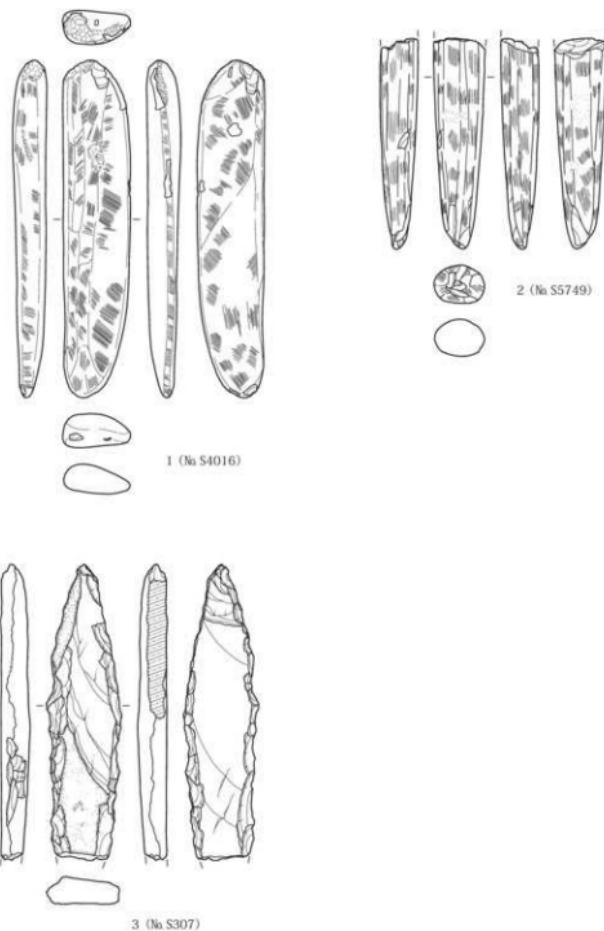
図版 96 SX1 出土石器・石製品 (28)

III b 層



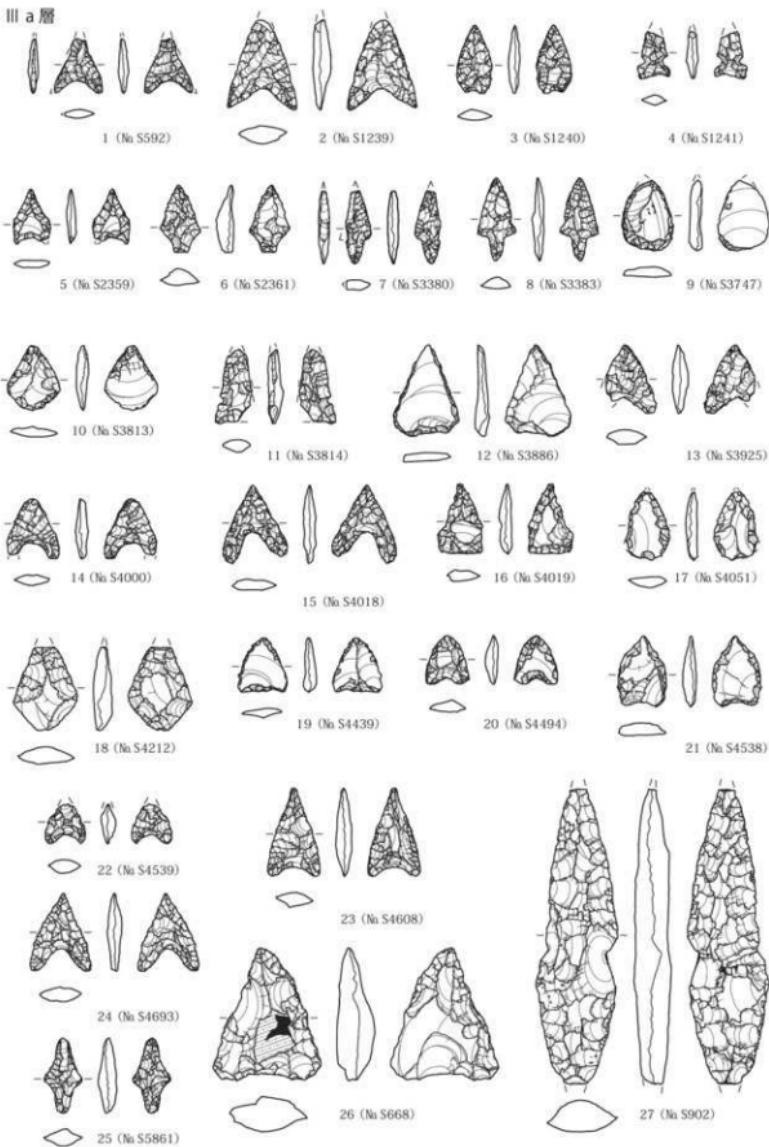
図版 97 SX1 出土石器・石製品 (29)

III b 層



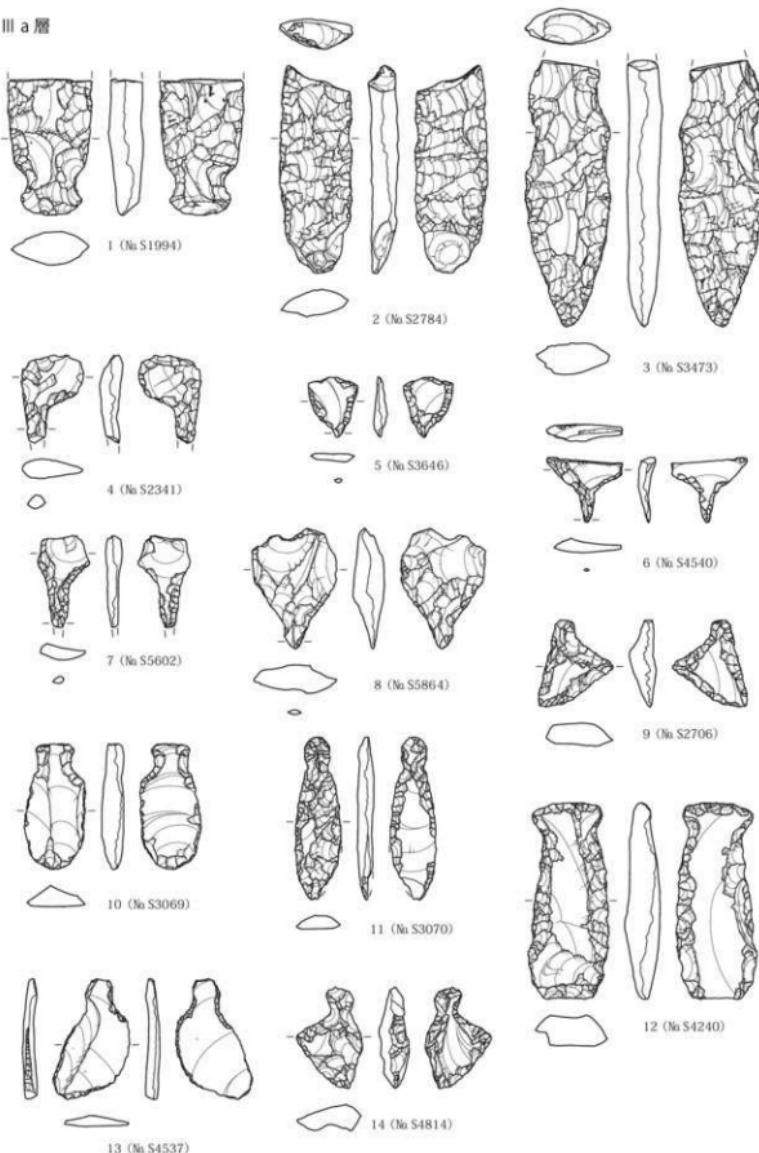
0
(1 ~ 3 : 5=2/3) 5cm

図版 98 SX1 出土石器・石製品 (30)



図版 99 SX1 出土石器・石製品 (31)

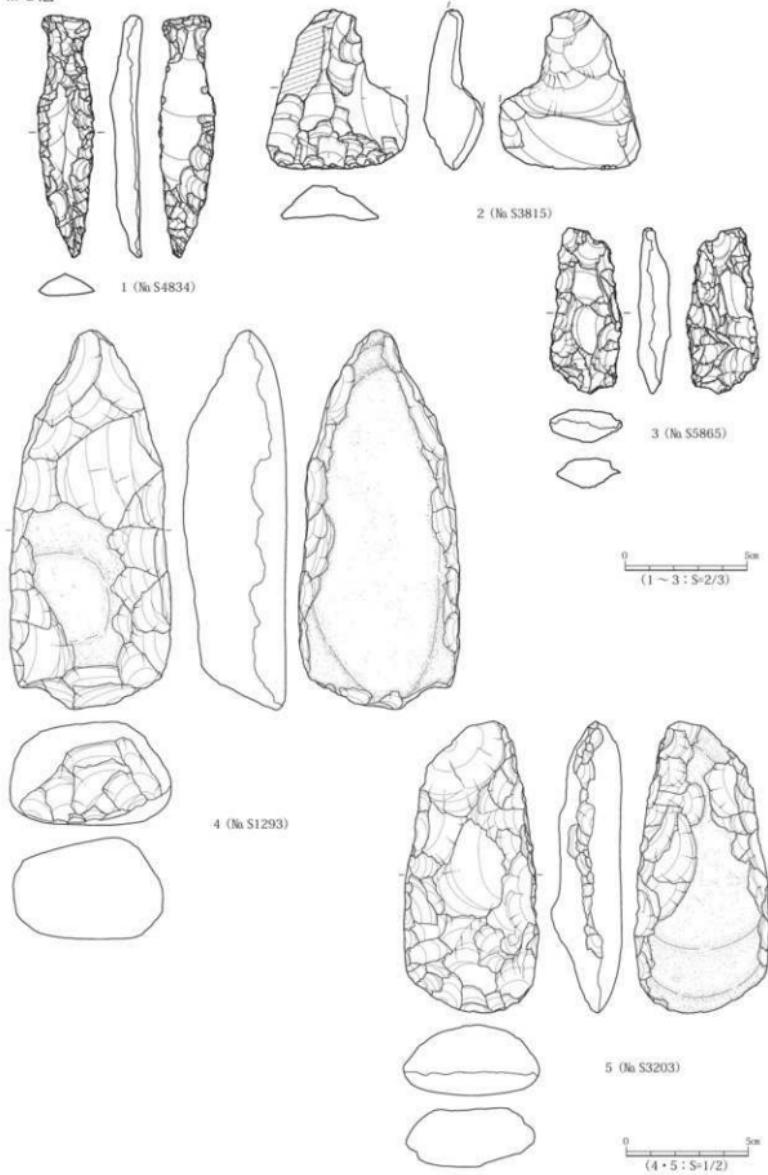
III a 層



0
(1 ~ 14 : 5:2/3)
5cm

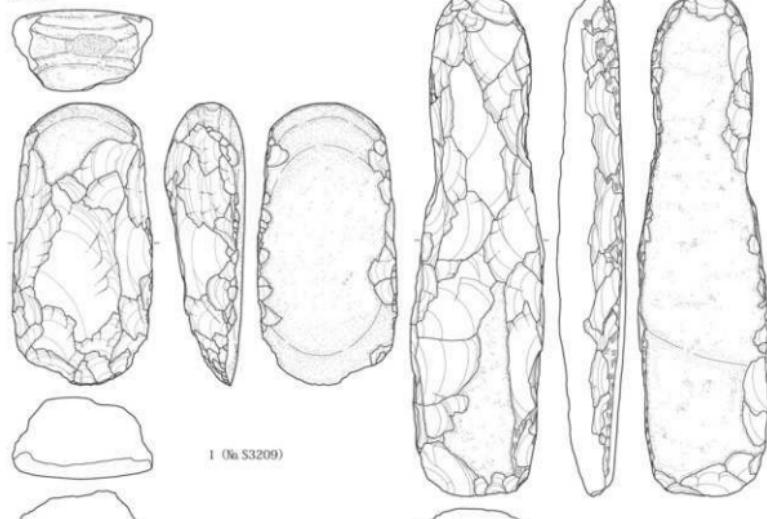
図版 100 SX1 出土石器・石製品 (32)

III a 層



図版 101 SX1 出土石器・石製品 (33)

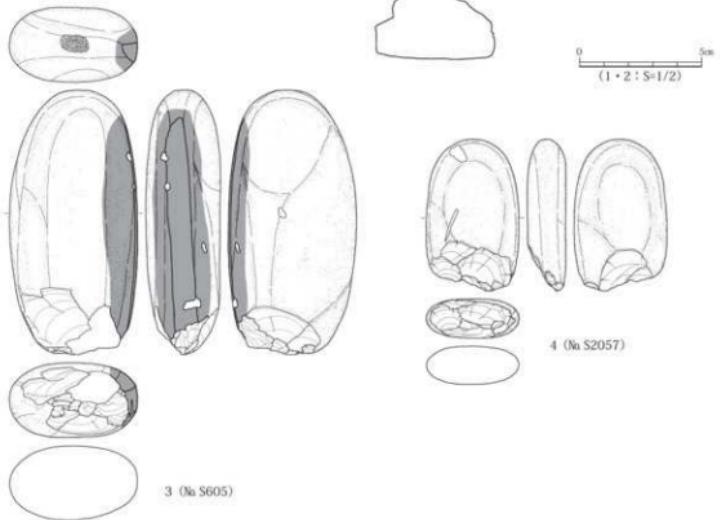
III a 層



1 (No S3209)

2 (No S4428)

4 (No S2057)



図版 102 SX1 出土石器・石製品 (34)